

「学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査」
中間報告書

日本私立大学協会付置 私学高等教育研究所 プロジェクト
「私学学士課程教育における”学士力”育成のためのプログラムと評価」

2010年8月

目次

緒言 (濱名 篤)	3
第一章 「Ⅰ. 学科の現状」 (杉谷祐美子)	5
第二章 「Ⅱ. 教育・学習目標の設定」 (吉田武大)	13
第三章 「Ⅲ. 教育プログラムの設計」 (小島佐恵子)	24
第四章 「Ⅳ. 教育プログラムの実施」 (葛城浩一)	30
第五章 「Ⅴ. 学習成果の把握・評価」 (山田礼子)	35
第六章 「Ⅵ. 取り組み状況への認識」 (吉原恵子)	39
第七章 「Ⅶ. 改革動向に対する意見」 (串本 剛)	48
第八章 「GP と大学改革」 (濱名 篤)	55
付録 A 質問紙調査票	61
付録 B 有効回答分布一覧表	65

緒言：「学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査」 中間報告

2008年12月に中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」が出されたのを受けて、現在我が国の大学関係者にとっては、学士課程教育の在り方が課題とされております。このような中、日本私立大学協会付置私学高等教育研究所では、2009年度より、それぞれ特徴と個性を持った私立大学が、どのようにして学士という学位にふさわしい教育プログラムを開発し、その学習成果を証明すべく評価に取り組んでいるのかを調査し、各大学の今後の教育活動に資するものとなるよう研究するプロジェクトをおいて検討して参りました。

2009年8～9月には、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室のご理解ご支援を頂き、国公立大学の学士課程教育の構築に向けた取り組みを明らかにすべく、教育の実践単位としての学科レベルに注目してこのアンケート調査を実施いたしました。日頃、学科長の皆さんが、どのように学士課程教育の構築について考えておられ、実際に学生の学士課程の卒業をどのような仕組みで認定しておられるのかなど、教育改革の状況に関しての教育現場の実態を調査しようとしたものです。どのように改革が進み、どのような障害や課題に直面しているのといった現実の課題を捉えるには、大学や学部という単位より小さい、教育の最小単位である学科レベルを対象とすることが適していると考えた次第です。専門分野や設置形態等の特性も含めて分析した結果を、今回は要約する形でWEBに掲載することにしました。

私立大学はもとより、国公立大学をはじめ広く高等教育関係者にご活用いただければ幸いです。

ご協力を頂きました、学科長の皆さまにこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

2010年8月

日本私立大学協会付置 私学高等教育研究所
「私学学士課程教育における”学士力”育成のためのプログラムと評価」

プロジェクト代表・研究員 濱名 篤

研究員：川嶋太津夫

小杉礼子

杉谷祐美子

山田礼子

研究協力者：角方正幸

串本剛(編集担当)

..... 小島佐恵子

松村直樹

吉田武大

吉原恵子

調査概要

1. 調査名

学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査

2. 調査期間

2009年9月7日～2009年10月13日（督促調査2009年11月9日～12月9日）

3. 調査対象

全国の大学における人文科学系 630 学科、社会科学系 770 学科、理学系 251 学科、工学系 200 学科、看護学系 149 学科、計 2000 学科（ただし、夜間の定員をもつ学科、学生募集を停止した学科は除く）。『平成 20 年度全国大学一覧』を台帳として、看護学系は全学科、その他の学系統の学科については系統抽出法によりサンプリングした。なお、人文科学、社会科学、理学系の標本数は学科数の比率に応じて、工学系の標本数は理系学科の標本数とのバランスを考慮して決定した。

4. 回収状況

下表のとおり。

図表 0-1 分野別回収状況

	人文科学	社会科学	理学	工学	看護学	合計
発送数	630	770	251	200	149	2000
回収数	227	300	103	92	89	905
回収率	36.0%	39.0%	41.0%	46.0%	59.7%	45.3%

第一章 「I. 学科の現状」

杉谷祐美子（青山学院大学）

「学科の現状」においては、学科の意思決定、学生数、大学教育の評価という主に3つに分類される事項について、計6つの設問を設定した。それぞれ、5年程前と比較した学科の現状を5段階で評価してもらっている。

その結果、全体としては、学科の意思決定における全学・学部の影響力、および学科長の役割は強まっている傾向にあった。受験者数は減少傾向にある一方で、学生の中退率は改善している学科と悪化している学科と同程度みられた。そして、教育に対する学生の満足度は高まっているところが多く、また、学生の就職先での評判も「分からない」という回答が多かったものの、どちらかというが高まっているとする学科が多かった。

属性別の分析では、とくに専門分野別と学力別で顕著な結果が示された。専門分野別には、看護系で大学教育の評価が高まっているのに対して、理学系はその反対に低調であること、学力別には、学生の学力が低い学科ほど、受験者数の減少・中退率の悪化は深刻であるととも、大学教育の評価を高めることにも苦慮していることなどが明らかになった。

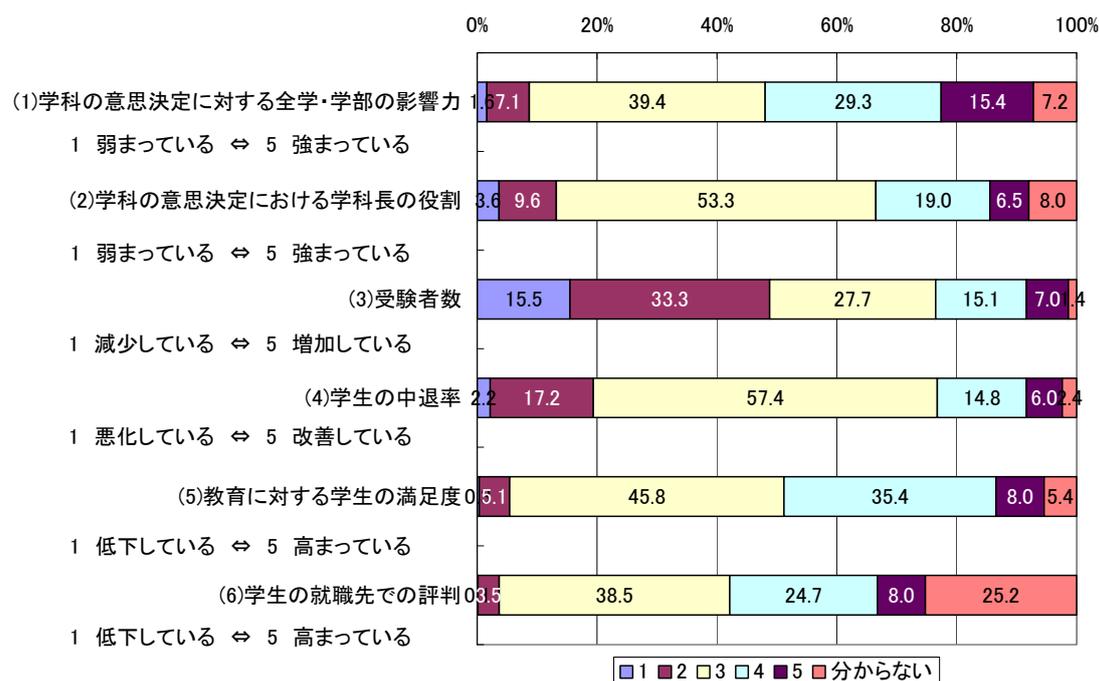
1. 全体の傾向

図表 1-1 は、5年程度前と比較した学科の現状を5段階で尋ねた結果を示している。

学科の意思決定については、(1)全学・学部の影響力が「強まっている」という回答が「弱まっている」という回答よりもはるかに多く、4と5の合計が全体の44.7%を占める。これに対して、(2)学科長の役割では、全学・学部の影響力に比率は及ばないものの、4と5の合計が1と2の合計の約2倍となり、「強まっている」とする回答が多い。

学生数に関わる事項については、(3)受験者数において、1と2の合計が48.8%を示し、減少傾向にあることがわかる。ただし、4と5を合計した22.1%の学科は「増加している」と回答しており、18歳人口が減少しているからといって、どの学科も減少傾向にあるというわけではない点に注意をしたい。また、(4)学生の中退率に関しては、19.4%の学科（1と2の合計）が悪化傾向にある一方で、20.8%の学科（4と5の合計）が改善傾向にあり、双方が拮抗している。

大学教育の評価に関わる事項をみると、(5)教育に対する学生の満足度においても、(6)学生の就職先での評判においても、「低下している」という回答がほとんどみられないことがわかる。前者のうち43.4%が、後者のうち32.7%が「高まっている」と認識している（いずれも4と5の合計値）。しかし、(6)学生の就職先での評判は、他の設問に比べて「分からない」という回答率が高く、4分の1を超えている。各大学では、在学中の学生の満足度についてはアンケート調査などによって継続的に確認しているのであろうが、卒業生の質の評価などに関してはまだ十分に取組みされていないことがうかがえる。



図表 1-1 学科の現状（5年程度前との比較）

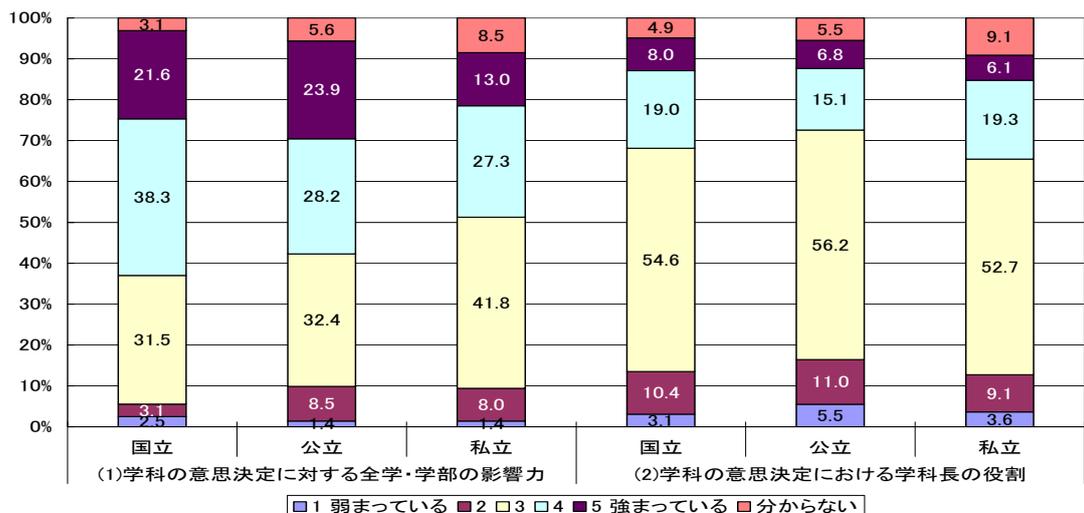
2. 設置形態別の傾向

次に、これらの学科の現状について、学科の意思決定に関連する事項、学生数に関連する事項、大学教育の評価に関連する事項の3つに設問を類別して、設置形態別の結果を示したのが、図表 1-2～図表 1-4 である。

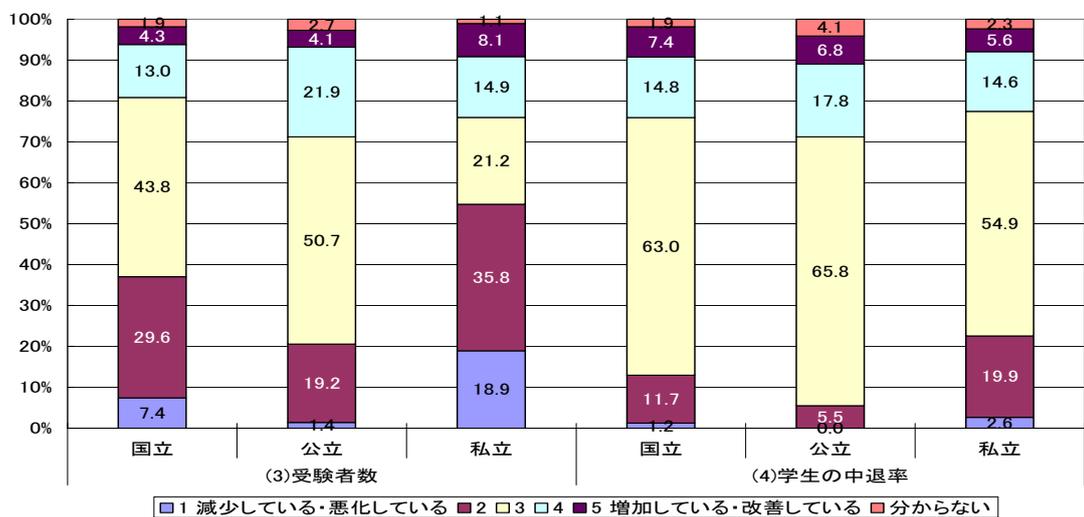
図表 1-2 によると、学科の意思決定では、全学・学部の影響力が「弱まっている」という回答は設置形態別にそれほど差がみられないが、国立、公立、私立の順に、影響力が「強まっている」という回答が多いことがわかる。これに対して、学科長の役割は設置形態による違いはほとんどないといつてよい。

学生数に関連する事項を示した図表 1-3 からは、2つの設問ともに同じような傾向がみとれる。すなわち、受験者数は私立が最も減少しているのに対して、公立は減少している率が最も少なく、その差が大きい。私立の54.7%、国立の37.0%、公立の20.6%の学科が1ないし2を選択している。同様に、学生の中退率も悪化しているという回答率が私立で最も多く、反対に公立で最も少ない。もっとも、受験者数が増加している率や中退率が改善している率では、設置形態による差がみられないことにも注目する必要がある。

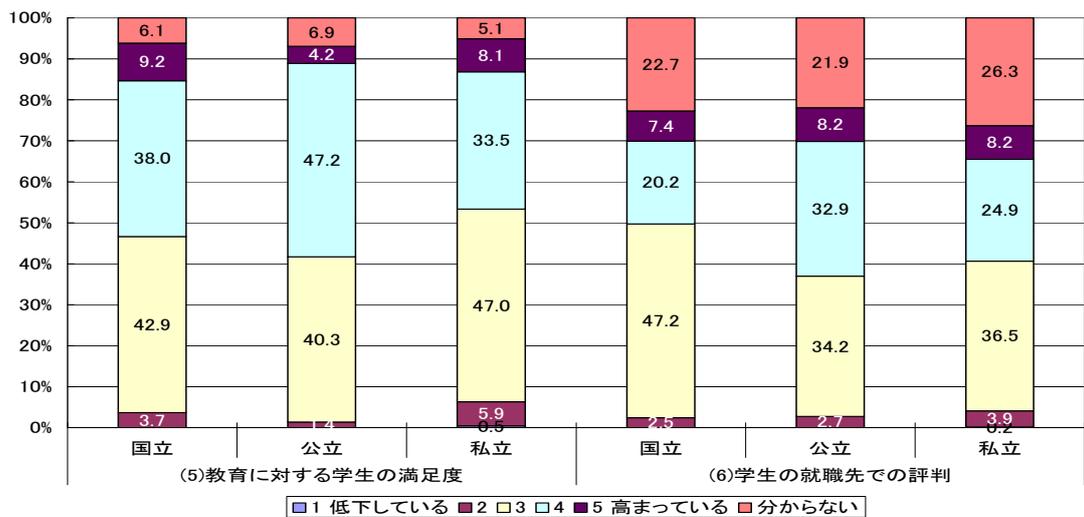
設置形態別に差があまりみられなかったのは、大学教育の評価に関連する事項である（図表 1-4）。学生の満足度も就職先の評判も「高まっている」という回答は公立に多いが、その差はわずかである。



図表 1-2 設置形態別にみた学科の現状（学科の意思決定関連事項）



図表 1-3 設置形態別にみた学科の現状（学生数関連事項）



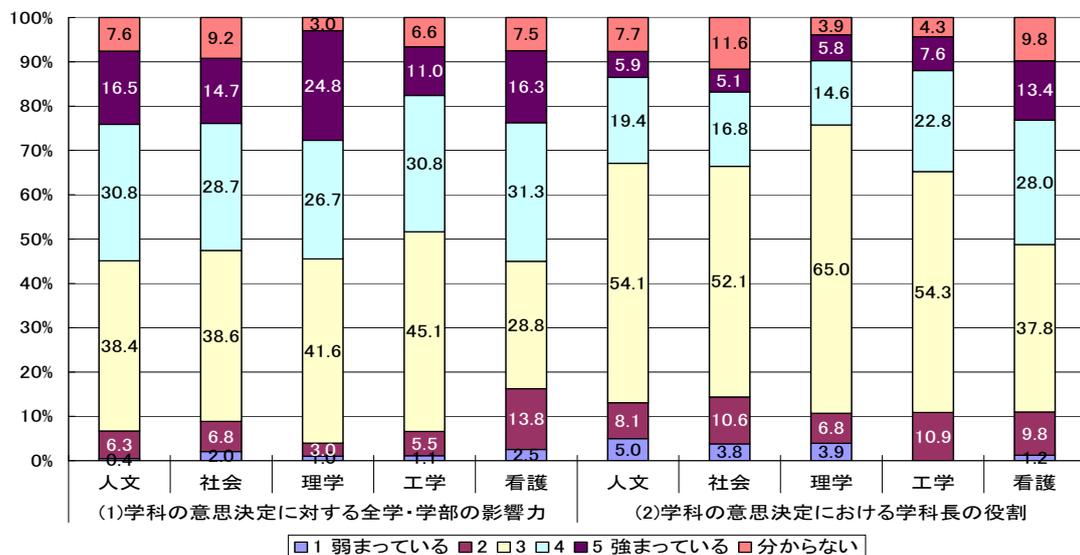
図表 1-4 設置形態別にみた学科の現状（大学教育の評価関連事項）

3. 専門分野別の傾向

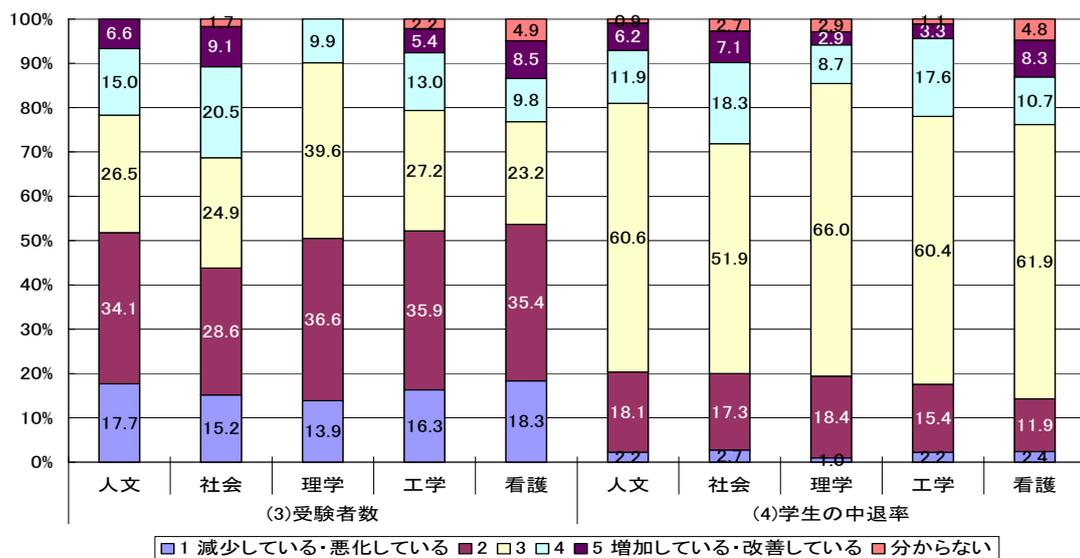
同じく、専門分野別の傾向を示したのが、図表 1-5～図表 1-7 である。

学科の意思決定に対する全学・学部の影響力は専門分野間でそれほど大きな差異はないが、学科長の役割に関しては、看護系で 4 と 5 の合計値が 4 割を超えており、他に比べて強まっている傾向にある（図表 1-5）。

学生数に関連する事項では、図表 1-6 にあるように、受験者数の減少傾向は専門分野間でほとんど違いはないものの、増加しているとの回答比率は理学系が最も少なく、1 割を切っている。これに対して、学生の中退率ではどの分野も同様の傾向を示している。



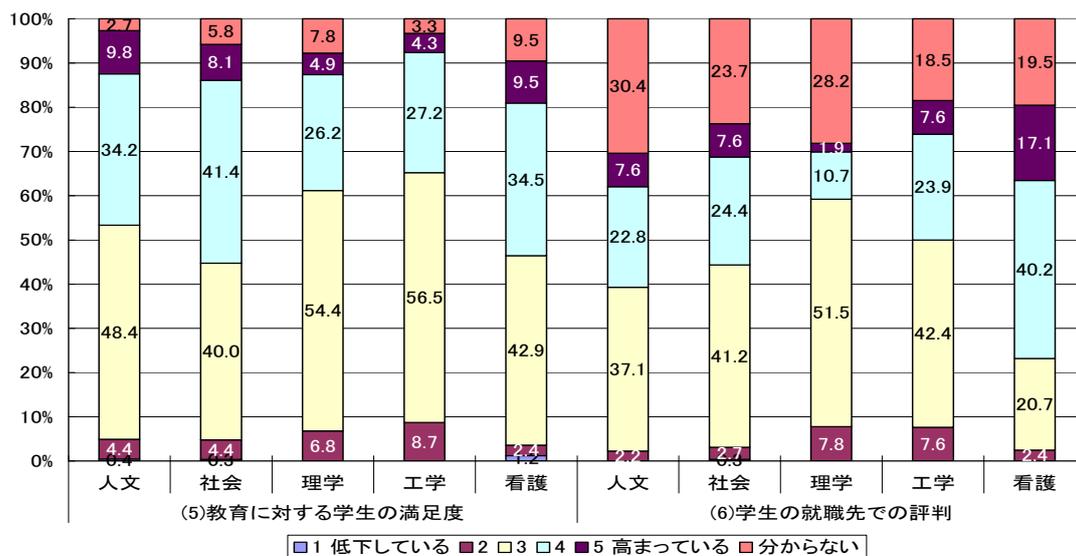
図表 1-5 専門分野別にみた学科の現状（学科の意思決定関連事項）



図表 1-6 専門分野別にみた学科の現状（学生数関連事項）

先に大学教育の評価に関する事項については設置形態別に差がみられなかったと述べたが、専門分野別による違いは大きい(図表 1-7)。教育に対する学生の満足度が高まっていると回答したところは、社会系、人文系、看護系に多く、理学系、工学系で少ない。また、学生の就職先での評判が高まっているという回答比率は、看護系で際立って高く、理学系はきわめて低い。4と5の合計値は、看護系は理学系の約4.5倍にも達している。

ここから、看護系では学生の教育に対する満足度も学生の就職先での評判も高まっているとの認識が強いのに対して、理学系はその逆であり、さらに受験者数の増加に成功しているところも少ないということがわかる。

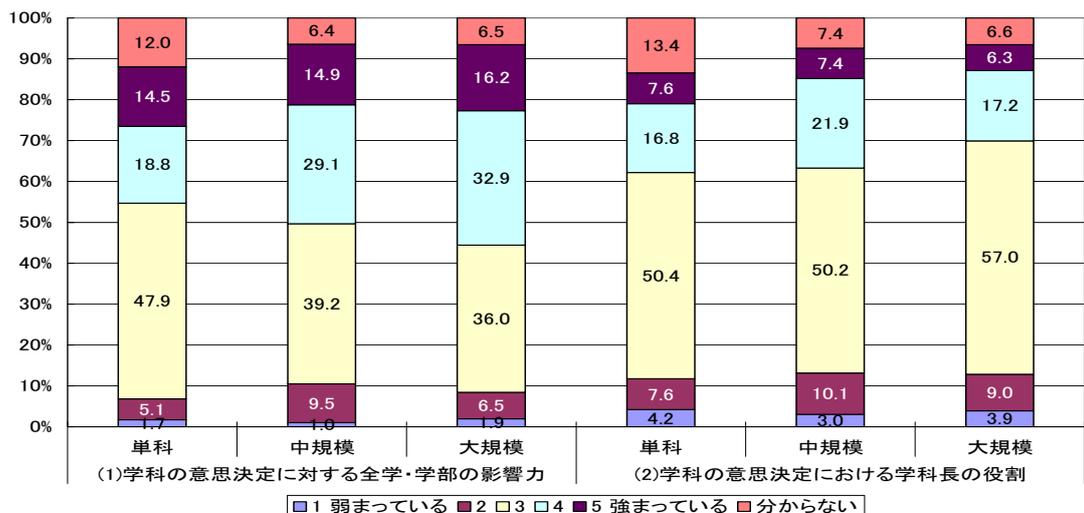


図表 1-7 専門分野別にみた学科の現状 (大学教育の評価関連事項)

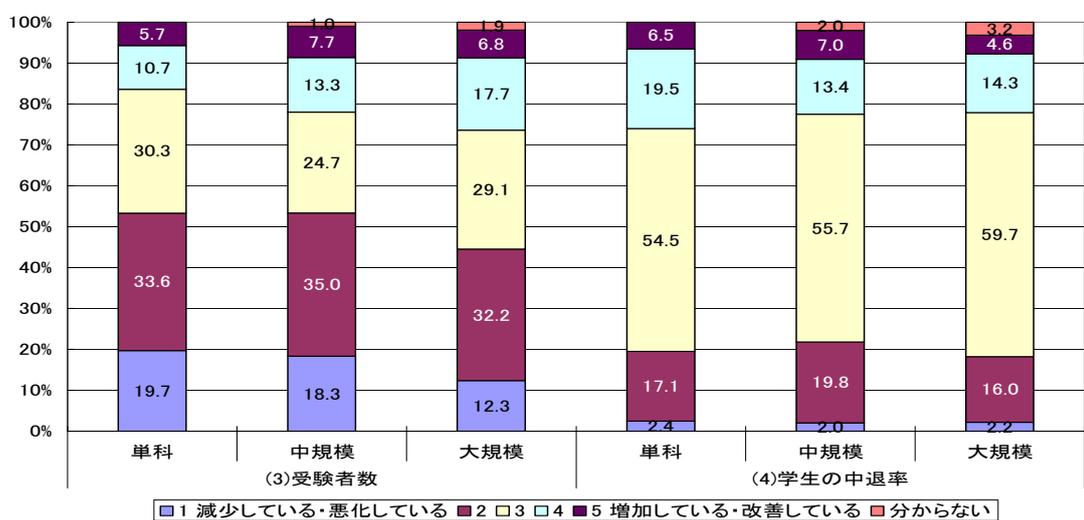
4. 大学規模別の傾向

これまでと同様、大学規模別に学科の現状を示したのが図表 1-8～図表 1-10 である。なお、ここでいう大学規模とは学部数によって分類したものであり、「中規模」とは 2～4 学部の大学を、「大規模」とは 5 学部以上の大学を指す。

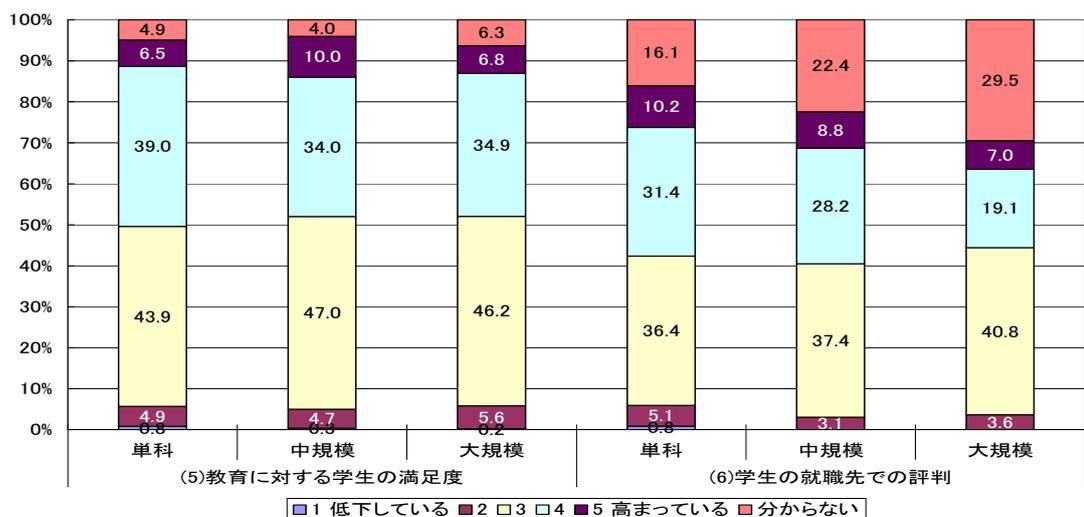
これまでの結果に比べると、規模別による傾向の違いはほとんどみられないといってよい。唯一指摘できるのは、大学の規模が大きくなるほど、学生の就職先での評判は「高まっている」という回答が減少し、かわりに「わからない」という回答が増大しているということである(図表 1-10)。また、学科の意思決定に対する全学・学部の影響力は規模が大きいほどやや強まる傾向にあること(図表 1-8)、そして、受験者数が減少している学科は大規模大学に少ないこと(図表 1-9)などもいえるかもしれないが、いずれも目立ったほどの差異ではない。



図表 1-8 大学規模別にみた学科の現状（学科の意思決定関連事項）



図表 1-9 大学規模別にみた学科の現状（学生数関連事項）



図表 1-10 大学規模別にみた学科の現状（大学教育の評価関連事項）

5. 学力別の傾向

最後に、学生の学力別の学科の現状を図表 1-11～1-13 に示した。この学力とは、「貴学科の学生の学力は平均して、全国レベルで見てどのあたりに位置するとお考えですか。」という設問に対して、回答学科が答えた結果に基づいたものである。

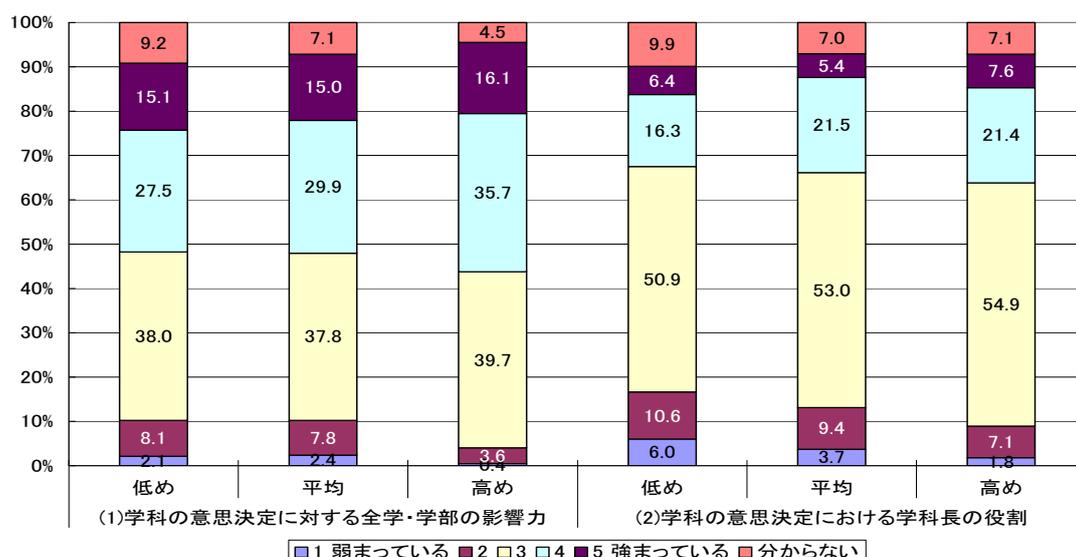
学科の意思決定に関わる事項を除き、6 項目中 4 項目において、顕著な差異がみられた。

第一に、学生数に関連する事項では、学力が低くなるほど受験者数が減少する学科が増大している。1 と 2 の合計値は、学力が「高め」の学科で 25.9%、「平均」の学科で 43.8%、「低め」の学科で 72.4%とその差は顕著である。同様に、学生の中退率が悪化しているところも、学力が低くなるにつれ増えている。1 と 2 の合計値は、学力が高めで 8.8%、平均で 15.0%、低めで 32.5%となっている。

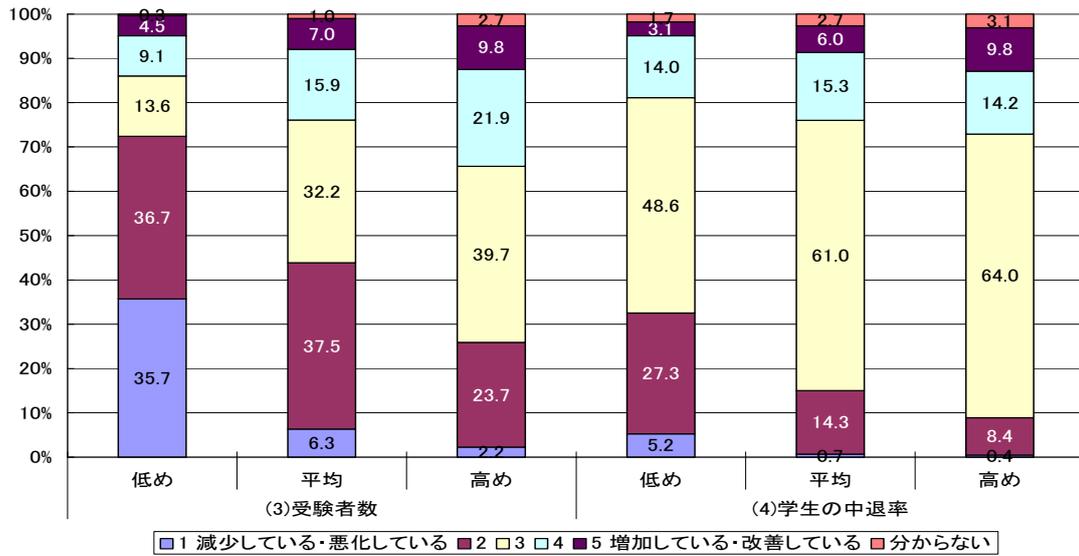
第二に、大学教育の評価に関する事項では、学力が高い学科ほど、教育に対する学生の満足度が高まっていると回答するところが増えている。4 と 5 の合計値は、学力が低めの学科が 33.7%なのに対して、高めの学科が 55.1%である。そして、学生の就職先の評判についても、同じように、学力が高い学科ほど、評判が高まっているという回答が増え、わからないという回答が減っている。4 と 5 の合計値は、学力が低めの学科が 23.9%であるのに対して、高めの学科が 44.0%である。

したがって、学生の学力が低いと認識している学科では、受験者数が減少するとともに、学生の中退率も悪化しており、学生数の維持が深刻な課題となっていることが明らかである。さらに、こうした学科では、在学生の教育に対する満足度や学生の就職先での評判を高めることにも苦慮しているようである。

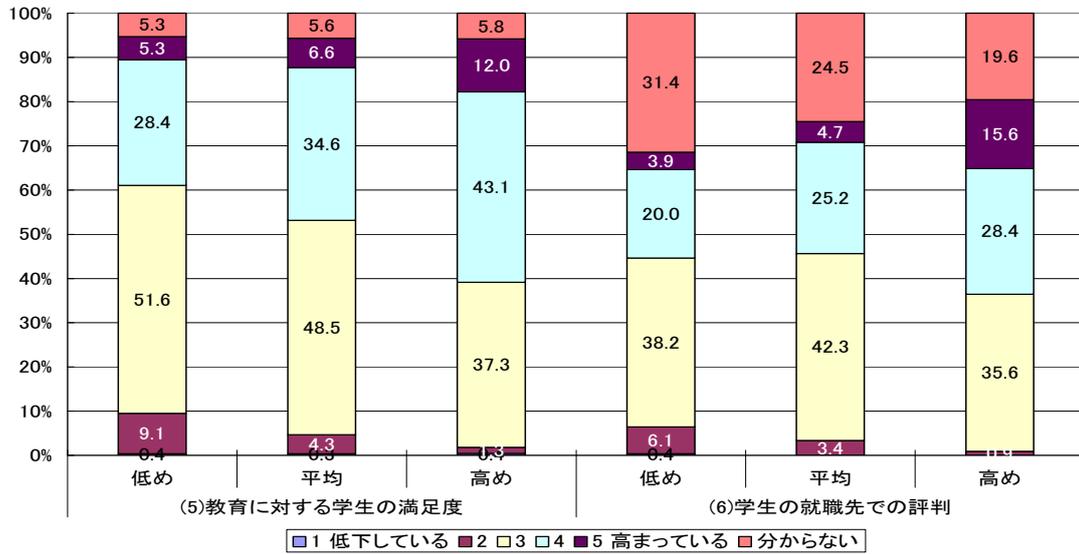
そこで、学力が低めと回答した学科のみを抽出し、これら 4 変数の相関係数を算出した。図表 1-14 の通り、受験者数と就職先の評判との間以外では、関連があることがわかる。とくに学生の満足度と就職先の評判との相関は高く、また学生の満足度と中退率の相関係数も 0.3 を超えている。学生の教育に対する満足度を上げればすぐさま他の変数の状況が好転するとはいいきれないが、少なからず影響があるものと考えられる。



図表 1-11 学力別にみた学科の現状 (学科の意思決定関連事項)



図表 1-12 学力別にみた学科の現状 (学生数関連事項)



図表 1-13 学力別にみた学科の現状 (大学教育の評価関連事項)

		(3) 受験者数	(4) 中退率	(5) 学生満足度	(6) 就職先評判
1-3. 受験者数	Pearson の相関係数	1	.249**	.257**	.119
	有意確率 (両側)		.000	.000	.101
	N	285	280	269	192
1-4. 中退率	Pearson の相関係数	.249**	1	.336**	.286**
	有意確率 (両側)	.000		.000	.000
	N	280	281	266	191
1-5. 学生満足度	Pearson の相関係数	.257**	.336**	1	.501**
	有意確率 (両側)	.000	.000		.000
	N	269	266	270	190
1-6. 就職先評判	Pearson の相関係数	.119	.286**	.501**	1
	有意確率 (両側)	.101	.000	.000	
	N	192	191	190	192

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。

図表 1-14 学科の現状の相関係数 (学力低めの学科)

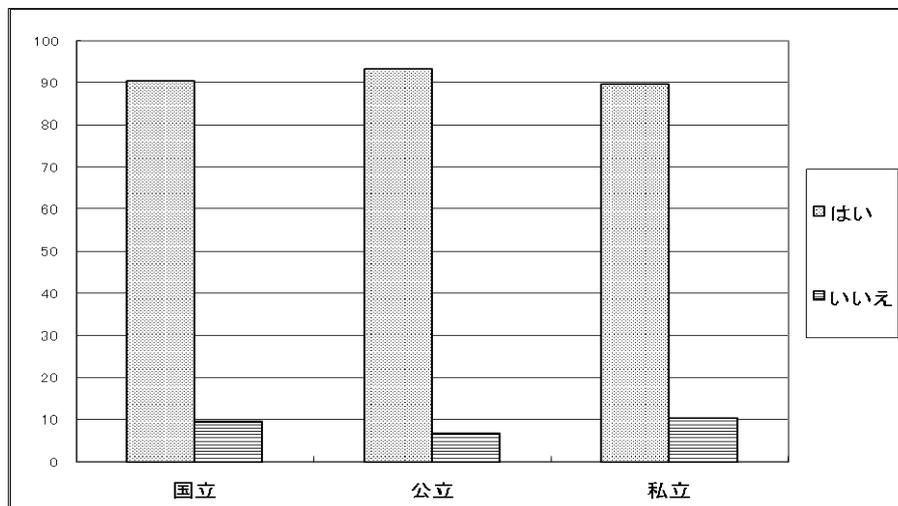
第二章 「Ⅱ. 教育・学習目標の設定」

吉田武大（関西国際大学）

本稿では、「学士課程教育の改革状況と現状認識」アンケート調査のうち、「Ⅱ 貴学部・貴学科における教育・学習目標（ディプロマ・ポリシー）の設定について伺います」の調査結果を検討していくこととする。

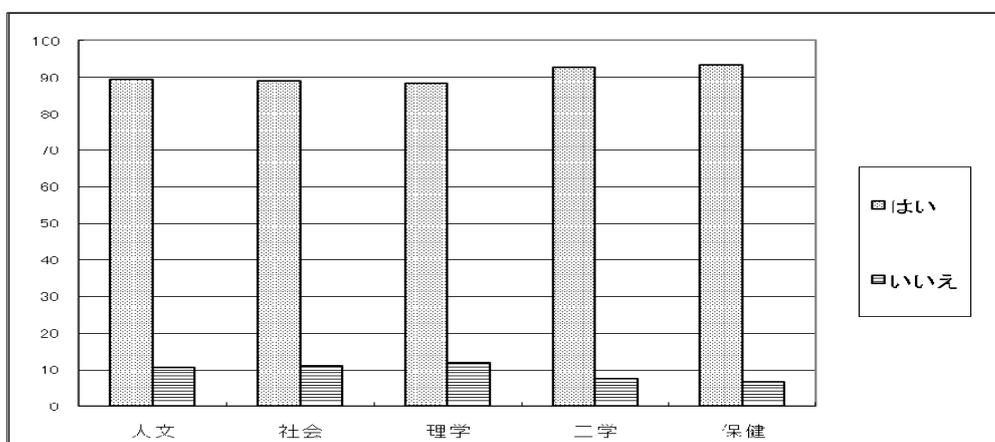
1. 「(1)学部としての教育・学習目標が明文化されている。」

1-1.設置形態



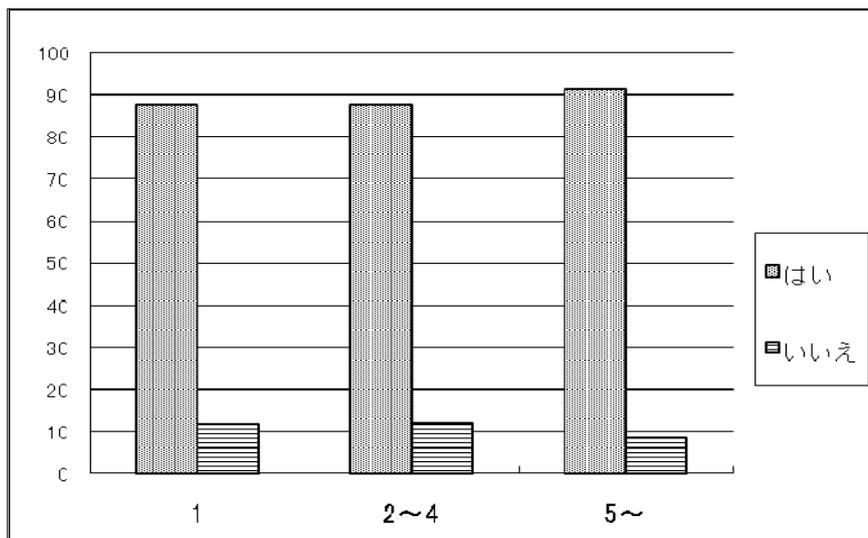
学部としての教育・学習目標が明文化されているかどうかについて、設置形態別にみると、国公立ともに、「はい」と回答した割合、つまり明文化されている割合が90%を越えている。

1-2.分野



学部としての教育・学習目標が明文化されているかどうかについて、分野別にみていこう。人文、社会、理学では、「いいえ」と回答した割合、つまり明文化されていない割合が10.7%、11.1%、11.8%と、いずれも10%を超えている。一方で、工学や保健はそれぞれ7.6%、6.7%となっている。このように、明文化されていない割合という点で見ると、人文、社会、理学は、工学や保健と比べてやや高くなっていることがうかがえる。

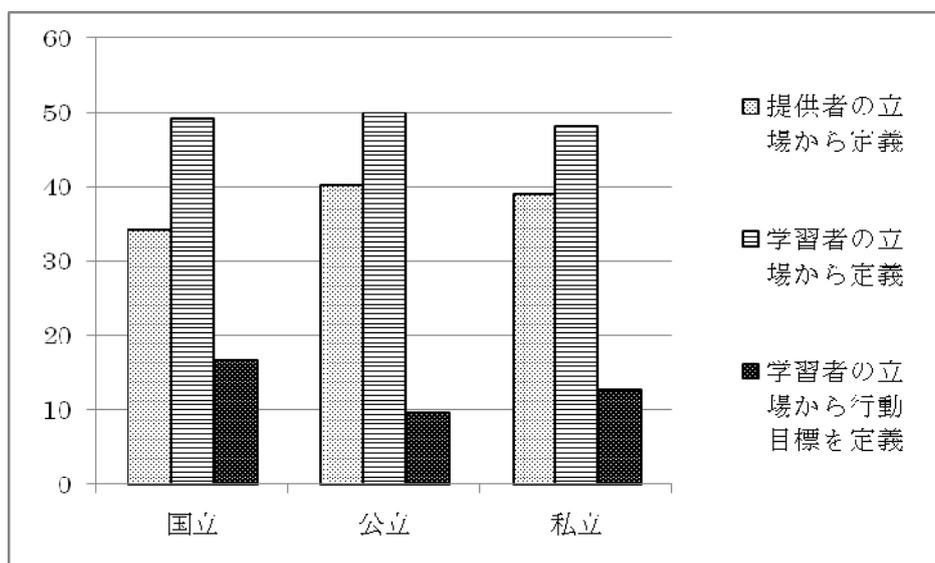
1-3.学部数



学部数別ではあろうか。学部数が1および2~4の規模の大学では、「いいえ」と回答した割合がそれぞれ12.1%、12.3%となっており、5~の規模の大学の8.6%よりもやや高くなっている。

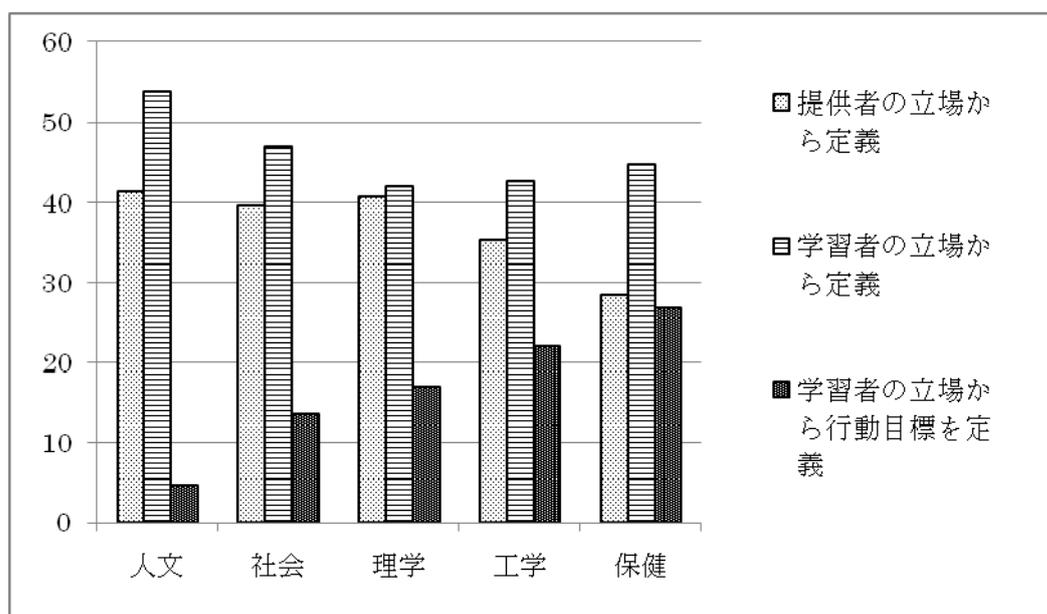
2. 「(2)学部の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えて下さい。」

2-1.設置形態



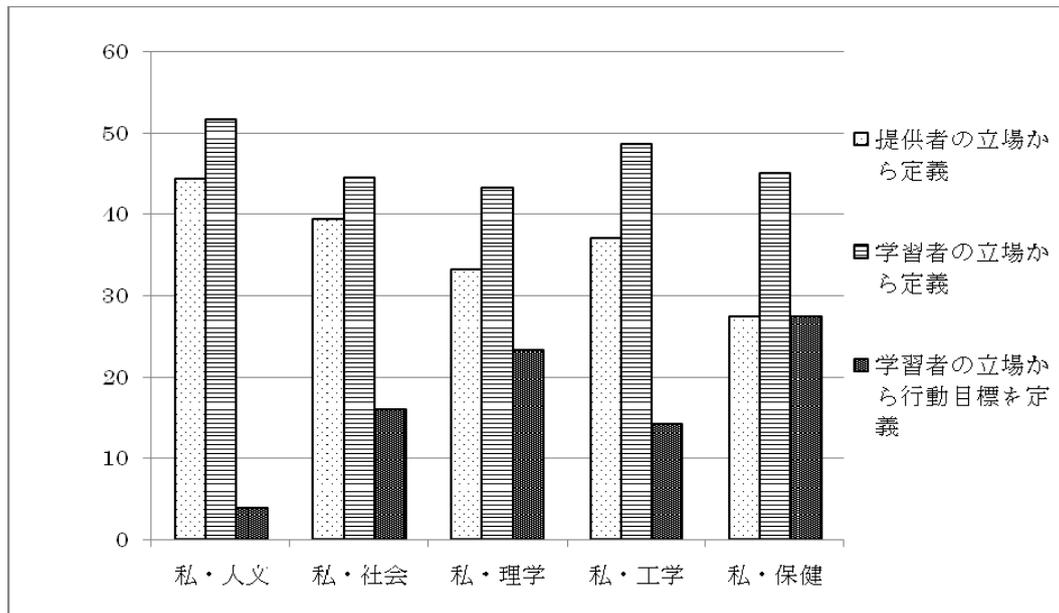
学部の教育・学習目標の記述様式について、設置形態の別にみていこう。まず、「提供者の立場から定義」に着目すると、国立は34.2%であるのに対して、公立は40.3%、私立は39.0%と、国立よりも高い値を示している。次に、「学習者の立場から定義」についてみていくと、国立は49.2%、公立は50.0%、私立は48.2%と、ほぼ同様の数値を示している。そして、「学習者の立場から行動目標を定義」に着目すると、国立が16.7%と最も高い割合であるのに対して、私立は12.8%、公立が9.7%とやや低くなっている。

2-2-1.分野



学部の教育・学習目標の記述様式について、分野別にみていく。まず、「提供者の立場から定義」についてみていくと、人文が41.4%、理学が40.8%、社会が39.5%と高い割合であるのに対して、保健は28.4%と低くなっている。次に、「学習者の立場から定義」に着目すると、人文が53.8%と最も高く、一方、工学は42.6%、理学が42.1%と低い数値を示している。そして、「学習者の立場から行動目標を定義」についてみていくと、保健や工学はそれぞれ26.9%、22.1%と高い値を示している一方で、人文は4.7%と最も低い。看護師国家試験やJABEEといった資格等と密接に関係している保健や工学の分野において、なぜ「学習者の立場から行動目標を定義」する割合が高いのであろうか。この点に関する検討を深めていくことで、資格と教育・学習目標の因果関係が浮き彫りにできるのではないかと考える。

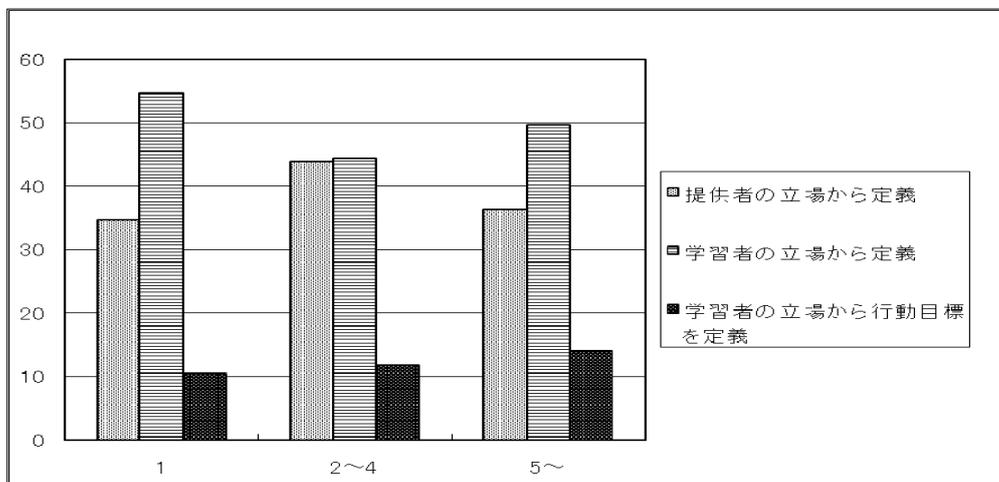
2-2-2.私立大学の分野



私立大学の分野別でみた場合はどのような結果がみられたのだろうか。大きな差異が見られたのが、「学習者の立場から行動目標を定義」である。ここでは、人文が3.9%と最も低く、工学が14.3%が続いている。「2-2-1.分野」においては、工学が比較的高い値を示していたのに対して、この「2-2-2.私立大学の分野」では、工学はやや低くなっている。このような違いが生ずる背景の一つとしては、国立大学の中でも研究中心の大学ではJABEEの認定を受けていない場合が多いということがあると考えられる。

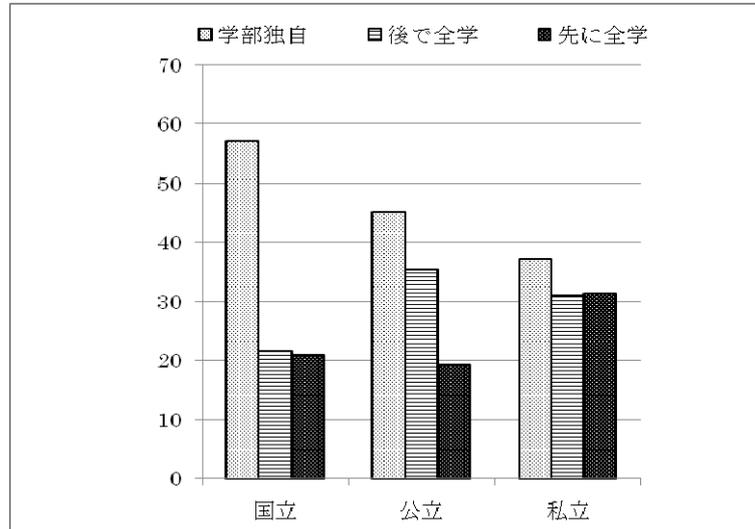
2-3.学部数

学部数別ではどのような結果になったのであろうか。まず、「提供者の立場から定義」に着目すると、2~4が43.9%で最も高く、以下、5~の36.3%、1の34.7%と続いている。次に、「学習者の立場から定義」に着目すると、1が54.7%と最も高く、2~4は44.3%と最も低い数値を示している。また、「学習者の立場から行動目標を定義」についてみていくと、5~の14.1%、2~4の11.8%、1の10.5%の順に高くなっている。



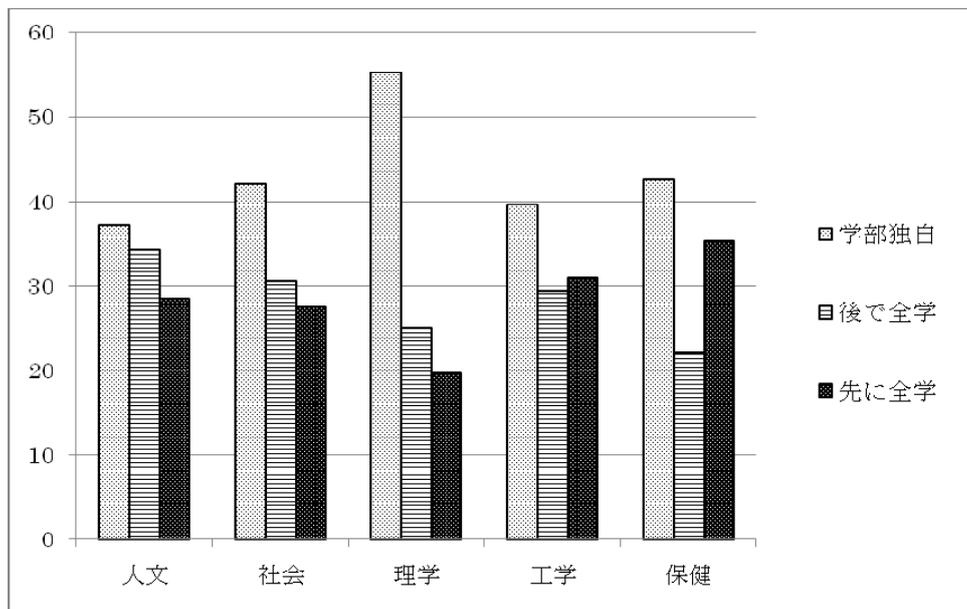
3. 「(3) 学部の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えてください。」

3-1. 設置形態



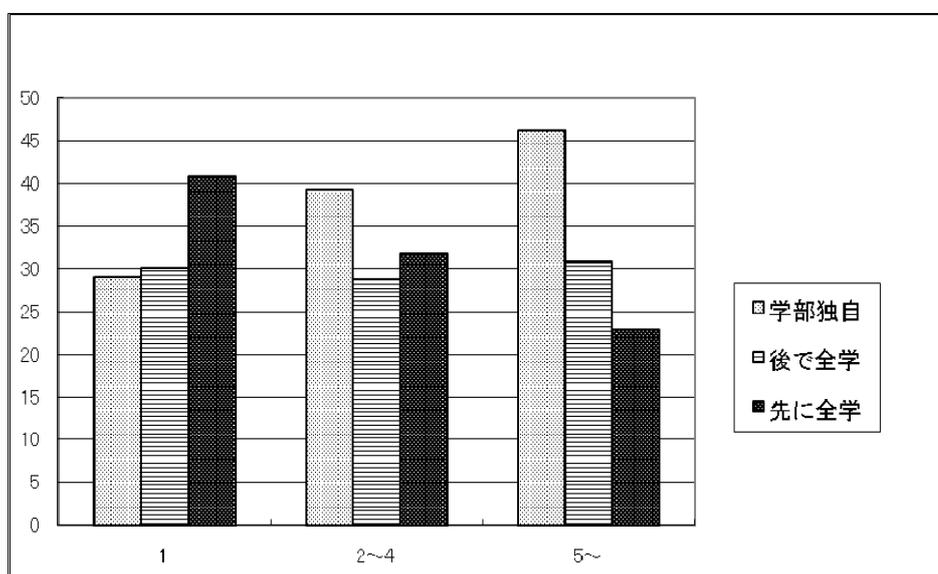
学部の教育・学習目標の設定手続きについてみていこう。設置形態の別にみた場合、まず、学部で独自に検討・決定しているのは（グラフの「学部独自」）、国立が 57.3%と最も高く、公立の 45.2%、私立の 37.3%と続いている。次に、学部で検討した後、全学的な審議を経て決定しているのは（グラフの「後で全学」）は、公立の 35.5%、私立の 31.1%が高く、一方で国立は 21.8%と低くなっている。そして、全学共通の指針が存在し、それに沿って学部で検討・決定しているのは（グラフの「先に全学」）、私立が 31.5%と最も高い。一方、国立、公立はそれぞれ 21.0%、19.4%と低い。

3-2. 分野



学部の教育・学習目標の設定手続きを分野別にみていく。まず、グラフからも明らかな通り、学部で独自に検討・決定（グラフの「学部独自」）については、全ての分野で総じて高く、特に理学は高い値を示している。次に、学部で検討した後、全学的な審議を経て決定（グラフの「後で全学」）については、人文が 34.3%と最も高く、逆に保健は 22.1%と最も低くなっている。また、全学共通の指針が存在し、それに沿って学部で検討・決定（グラフの「先に全学」）では、保健が 35.3%で最も高く、工学が 30.9%で続いている。保健や工学が高い値を示している背景には、看護師国家試験や JABEE が影響しているものと思われる。

3-3.学部数



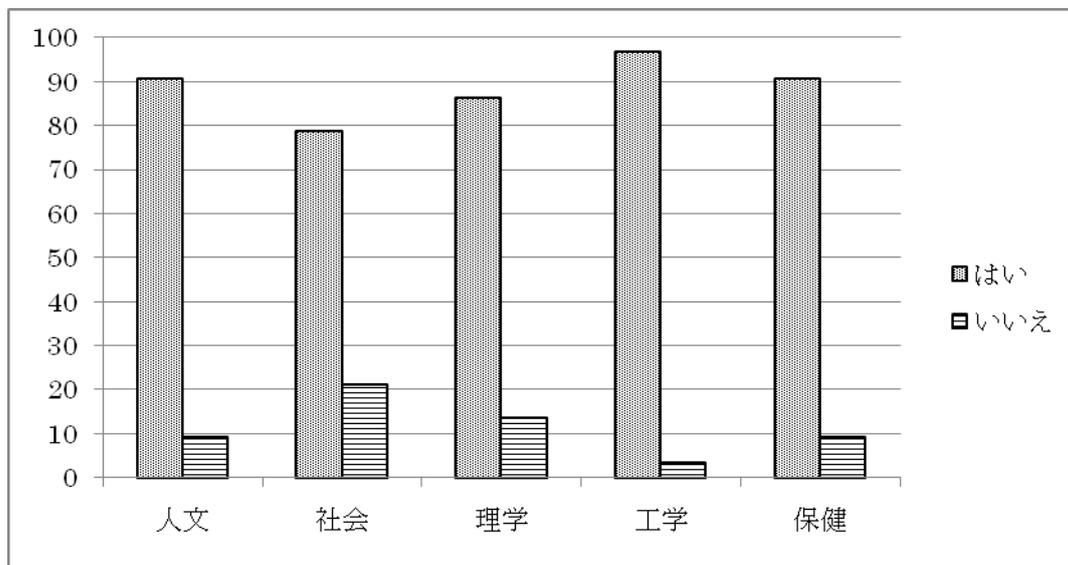
学部の教育・学習目標の設定手続きを学部数別にみていこう。まず、学部で独自に検討・決定（グラフの「学部独自」）については、5～が 46.2%で最も高く、以下、2～4 が 39.3%、1～が 29.0%と続いている。次に、学部で検討した後、全学的な審議を経て決定（グラフの「後で全学」）については、グラフからも明らかな通り、学部数の別にかかわらず、同様の割合が示されている。また、全学共通の指針が存在し、それに沿って学部で検討・決定（グラフの「先に全学」）では、1～が 40.9%、5～が 22.9%となっているように、学部数が 1 の方が高い数値を示している。

4. 「(4)学科としての教育・学習目標が明文化されている。」

4-1.設置形態

まずは国公立の設置形態でみていこう。「はい」と回答したのは、私立の 87.0%、国立の 85.8%、公立の 83.1%となっており、設置形態にかかわらず、いずれも高い数値を示している。

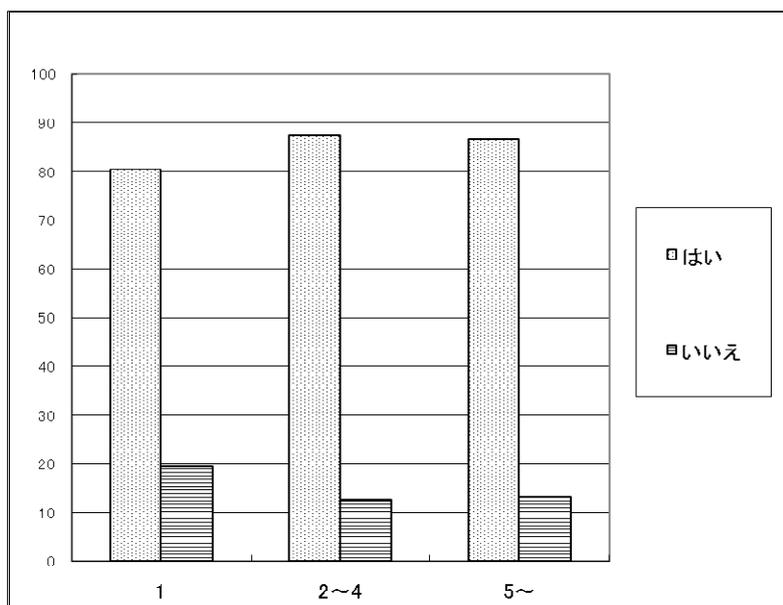
4-2.分野



学科の教育・学習目標の記述様式について、分野別にみていく。「いいえ」に着目すると、最も高いのが社会の21.2%であり、次いで理学の13.7%となっている。なお、国家資格と密接に関係する保健分野と、必ずしも国家資格に直結しない人文の分野がほぼ同じ値（それぞれ9.2%、9.3%）を示しているのは興味深い。

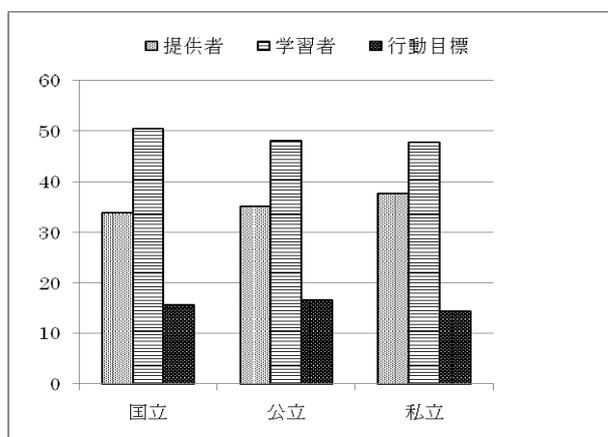
4-3.学部数

学科の教育・学習目標の記述様式について、学部数別にみていこう。「はい」と回答したのは、国立が80.5%、公立が87.3%、私立が86.7%となっており、公立と私立が国立に比べてやや高い値を示している。



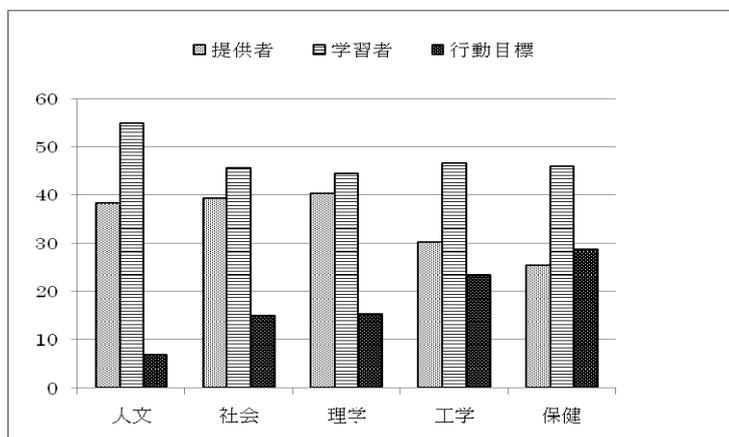
5. 「(5) 学科の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えて下さい。」

5-1.設置形態



学科の教育・学習目標の記述様式について、設置形態の別にみていくこととする。まず、「提供者の立場から定義」(グラフの「提供者」)に着目すると、私立が37.7%、公立が35.2%、国立が33.9%となっている。次に、「学習者の立場から定義」(グラフの「学習者」)に着目すると、「提供者」の場合とは正反対の結果になっている。つまり、国立が50.5%でもっとも高く、公立が48.1%、私立が47.7%と続いている。また、「学習者の立場から行動目標を定義」(グラフの「行動目標」)についてみていくと、国立が15.6%、公立が16.7%、私立が14.5%となっており、いずれも同様の値を示している。

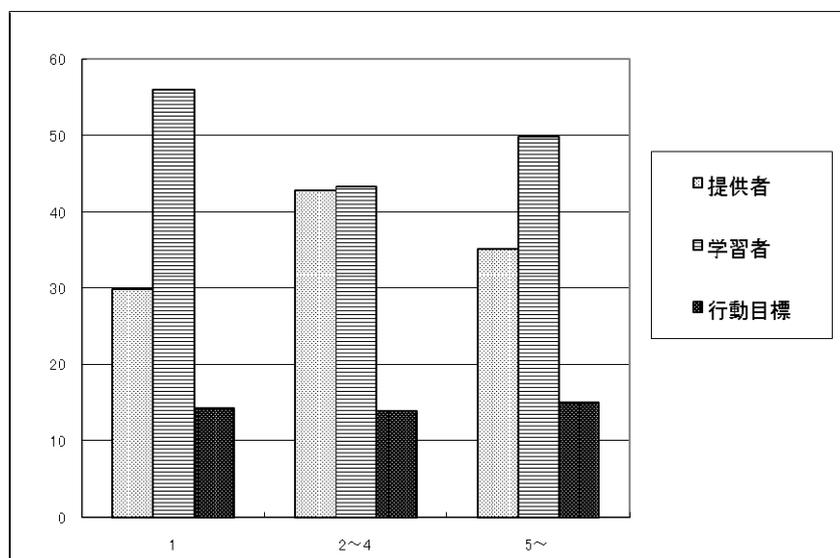
5-2.分野



学科の教育・学習目標の記述様式について、全体的には、学部の教育・学習目標の記述様式の場合と同様の傾向がみられた。まず、「提供者の立場から定義」(グラフの「提供者」)に着目すると、高い割合を示しているのは理学40.3%、社会39.3%、人文38.3%であり、それに対して低い割合であるのが保健の25.4%である。次に、「学習者の立場から定義」(グラフの「学習者」)に着目すると、最も高いのが人文の54.9%であり、理学は44.4%と最も低い。また、「学習者の立場から行動目標を定義」(グラフの「行動目標」)についてみていくと、保健や工学はそれぞれ28.6%、23.3%と高い値を示しているのに対して、人

文は 6.9%と最も低くなっている。

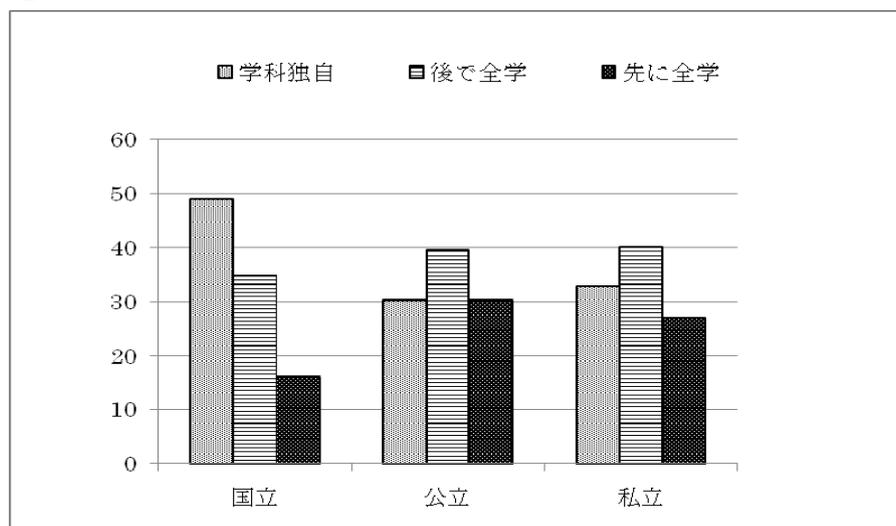
5-3.学部数



学部数の別ではどのようになっているのであろうか。まず、「提供者の立場から定義」（グラフの「提供者」）に着目すると、学部数が 2~4 が 42.9%で最も高く、学部数 1 の 29.8%を大きく引き離している。次に、「学習者の立場から定義」（グラフの「学習者」）に着目すると、学部数 1 が 56.0%、学部数 5~が 49.8%、学部数 2~4 が 43.3%の順となっている。また、「学習者の立場から行動目標を定義」（グラフの「行動目標」）についてみていくと、学部数 1 が 14.3%、学部数 2~4 が 13.8%、学部数 5~が 15.0%となっており、いずれも同様の値を示している。

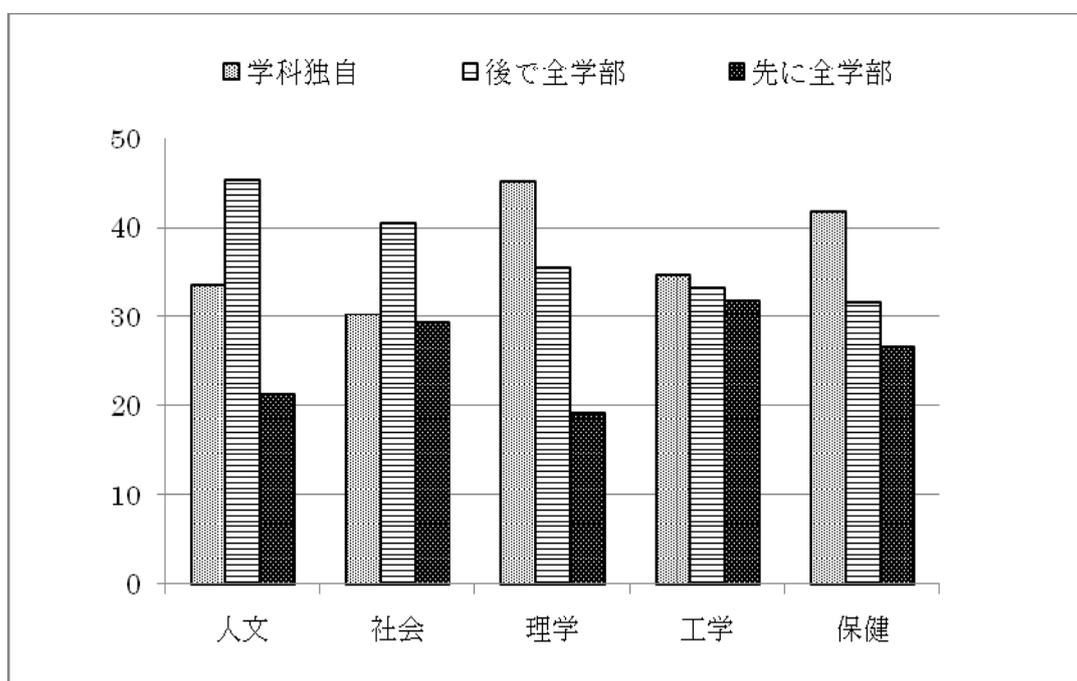
6. 「(6) 学科の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えて下さい。」

6-1.設置形態



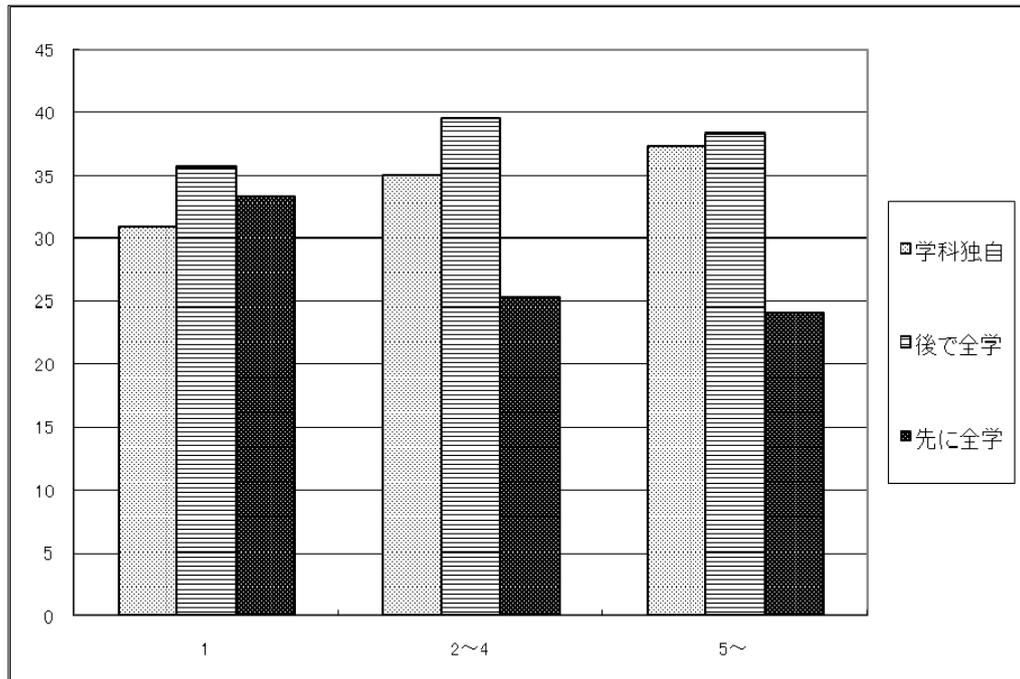
学科の教育・学習目標の設定手続きについてみていこう。設置形態別にみた場合、まず、学科で独自に検討・決定（グラフの「学科独自」）については、国立が49.1%と最も高く、一方で私立、公立はそれぞれ32.9%、30.2%と同様の値を示している。次に、学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定（グラフの「後で全学部」）では、私立が40.1%、公立が39.6%となっており、国立の34.8%と比べるとやや高くなっている。そして学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定（グラフの「先に全学部」）では、公立が30.2%と最も高く、国立は16.1%と最も低くなっている。

6-2.設定手続きと分野



学科の教育・学習目標の設定手続きについて、分野別にみていくこととする。まず、学科で独自に検討・決定（グラフの「学科独自」）では、理学が45.2%と最も高く、次いで保健が41.7%となっている。保健が人文、社会、工学よりも高い値を示しているという点を除けば、学部の教育・学習目標の設定手続きの場合と同様の傾向が示されているといえる。次に、学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定（グラフの「先に全学部」）では、工学が31.9%で最も高く、社会29.3%、保健26.7%と続いている。学部の教育・学習目標の設定手続きの場合と比べると、保健や人文がやや低くなっている点が注目される。

6-3.学部数



学科の教育・学習目標の設定手続きを学部数別にみていく。まず、学科で独自に検討・決定（グラフの「学科独自」）では、学部数1が31.0%、学部数2~4が35.1%、学部数5~が37.4%となっており、学部数2~4および学部数5~に比べて、学部数1がやや低くなっている。次に、学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定（グラフの「後で全学」）では、学部数1が35.7%、学部数2~4が39.6%、学部数5~が38.4%となっており、いずれも同様の値を示している。そして学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定（グラフの「先に全学」）では、学部数1~が33.3%と最も高く、一方で学部数5~は24.2%と最も低くなっている。

(以 上)

第三章 「Ⅲ. 教育プログラムの設計」

小島 佐恵子（北里大学）

「Ⅲ.教育プログラムの設計」では、学士課程教育のプログラムがどのように設計されているかを知るために10の問を設定した。

全体の傾向としては、カリキュラム編成に関して上位組織の承認があるという項目が最も高く、シラバスへの学習成果の明示とともに、全体の7割以上の大学ですでに実施されていることがわかった。また、検討中が2割ともっとも高かった15週の授業時間の確保については、すでに確保している大学が6割あり、現在進められているものであることがうかがえる。反対に、全学ないし学部目標と学科目標の関係の図式化は6割の大学で行われていなかった。

次に、設置形態別にみた傾向としては、国立大学と私立大学において差がみられた。国立大学では、シラバスへの学習成果の明示や15週の授業時間の確保などについて肯定回答が高く、国立大学では一律に制度的な整備が進められていることがうかがえた。一方、私立大学では、カリキュラム編成に関して上位組織の承認があるという項目で肯定回答高く、前者2項目については、国立大学よりも低かった。公立大学はいずれも差がみられなかった。ただし、これらの差があるにせよ、実際どの程度実質的に進められているかはより詳しい調査を俟たなければわからないといえる。

最後に、専門分野別にみた傾向としては、工学系と人文・社会系において、プログラム設計の差が明確であった。工学系ではシラバスへの学習成果の明記や15週の授業時間の確保などが進められており、また学科目標と各授業科目との関係が図式化されている割合が高かった。これらの整備が進んでいる点につちえは、少なからずJABEE（日本技術者教育認定機構）の評価の仕組みが働いていることが推察できる。一方、人文・社会系はそれらについての肯定回答の割合が低かった。また、人文・社会系以外の理学や保健などその他の分野とは差がみられなかった。

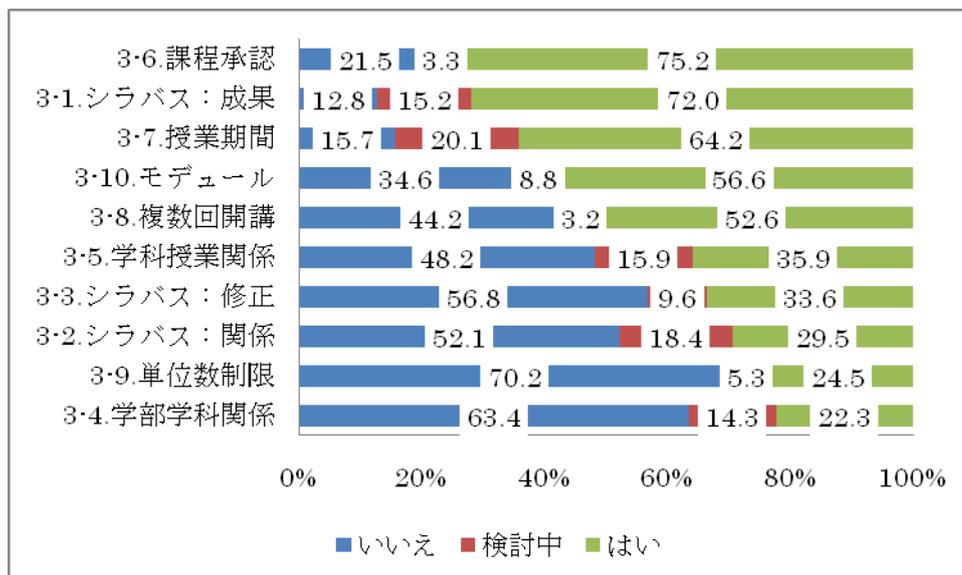
1. 全体の傾向

図表 3-1 では、それぞれの学科における教育プログラムの設計の現状に関する10の問いについて、「はい」「いいえ」「検討中」で尋ね、肯定回答が多かったものから順に並べている。

これによると、教育プログラムの設計で行われていることとして最も多いのは、「3-6.カリキュラムの編成について、上位組織（学部ならば全学、学科等ならば学部）による確認・承認手続きがある」（75.2%）である。続いて、「3-1.シラバスに、期待される学習成果が明示されている」（72.0%）で、これらについては、7割以上の学科ですでに実施されていることがわかる。その次に多いのが、「3-7.半期あたり15週の授業期間（定期試験を除く）を確保している」（64.2%）、「3-10. テーマ・目標を共有し、担当教員間で内容を調整した、学生に集中履修させる科目群を設定している」（56.6%）、「3-8.一週間に複数回開

講される授業がある」(52.6%)であり、半数以上の学科で実施されている。また、「3-7.15週の授業期間確保」については、「検討中」も20.1%あり、現在進行形のものであることがうかがえる。

反対に、多くの大学で行われていないのは「3-4.全学ないし学部の目標と、学科の目標との関係を図式化した資料がある」(63.4%)であることがわかる。



図表 3-1 教育プログラムの設計の現状

2. 設置形態別の傾向

図表 3-2 では、それぞれの学科における教育プログラムの設計の現状に関する 10 の問いについて、「はい」「いいえ」「検討中」で尋ね、肯定回答が多かったものから順に並べている。

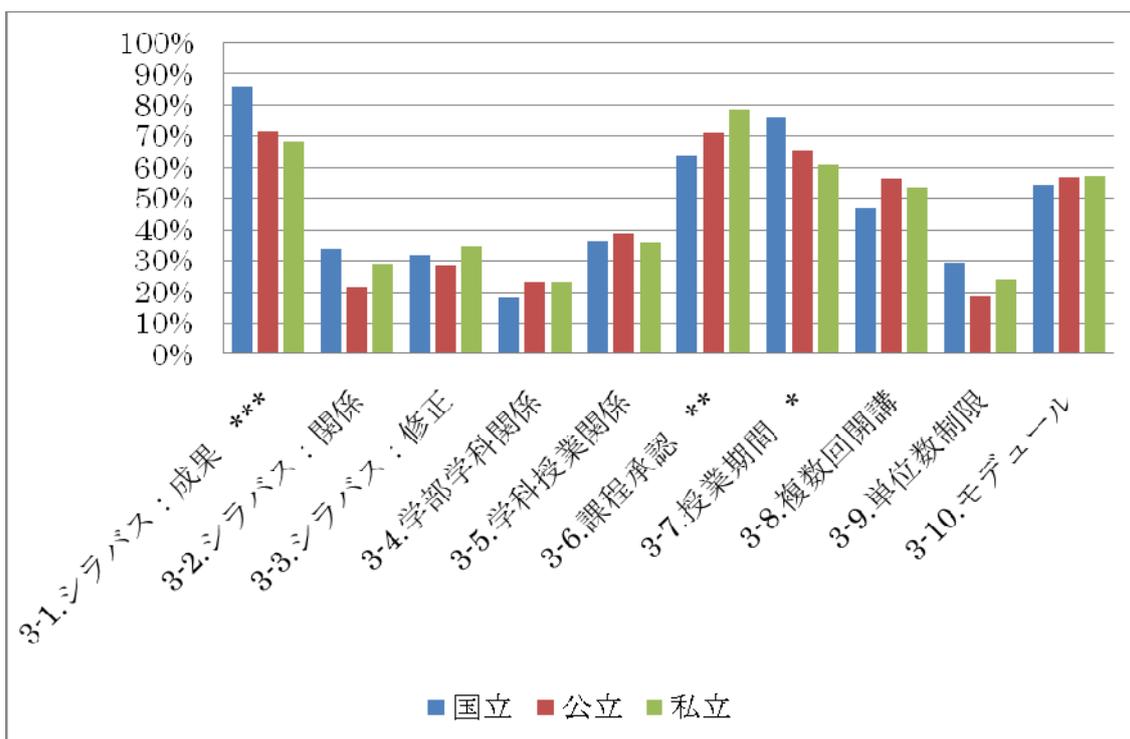
設置形態別にみると、図表 3-2 で*印がついている次の 3 項目について、統計的に有意な差が見られた。

まず、「3-1.シラバスに期待される学習成果が明示されている」において、肯定回答の割合は国立大学が多く、私立大学が少ないという結果となった(国立 86.1%>私立 68.4%)。なお、本項目では、「検討中」という回答については、私立大学が国立大学よりも多かった(私立 18.0%>国立 5.5%)。

次に、「3-6.カリキュラムの編成について、上位組織(学部ならば全学、学科等ならば学部)による確認・承認手続きがある」においては、私立大学が国立大学を上回る結果となった(私立大学 78.7%>国立大学 63.8%)。

最後に、「3-7.半期あたり 15 週の授業期間(定期試験を除く)を確保している」では、国立大学の方が私立大学よりも割合が高かった(国立大学 76.1%>私立大学 61.0%)。

公立大学はいずれの項目においても、国立大学・私立大学と比較して明確な差は見られなかった。また、その他の項目においては、設置形態別の差は見られなかった。



***p<.01, **p<.05, *p<.1

図表 3-2 設置形態別にみた教育プログラムの設計の現状（肯定回答の割合）

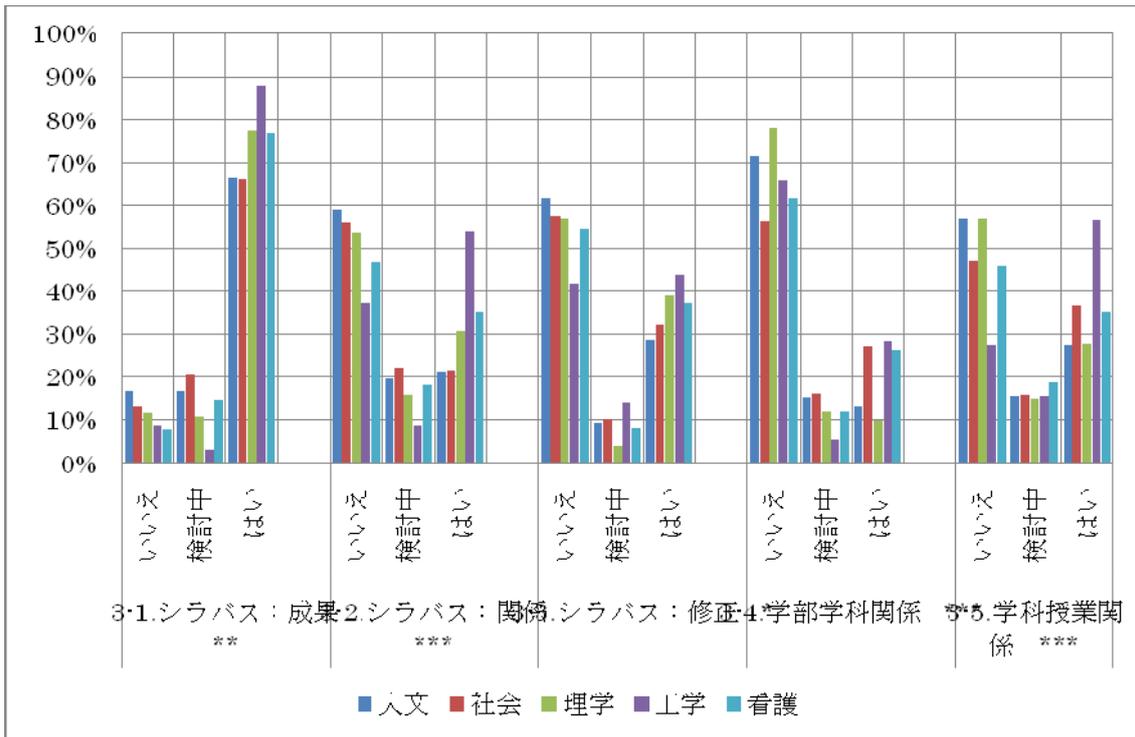
3. 専門分野別の傾向

図表 3-2-1 と 3-2-2 では、教育プログラムの設計の現状について、専門分野別にみた結果を示している。全体的に分野間で教育プログラムの設計には差が見られたが、とくに、工学系と人文・社会系の違いが明確に表れた。

シラバスについて（項目 3-1, 3-2, 3-3）は、工学系において、人文・社会系よりも整備が進んでいる傾向が見られた（3-1 肯定回答：工学系 87.9% > 社会系 66.1%, 3-2 肯定回答：工学系 53.8% > 人文系 21.5%, 社会系 21.5%）、（3-3 肯定回答：工学系 44.0%）

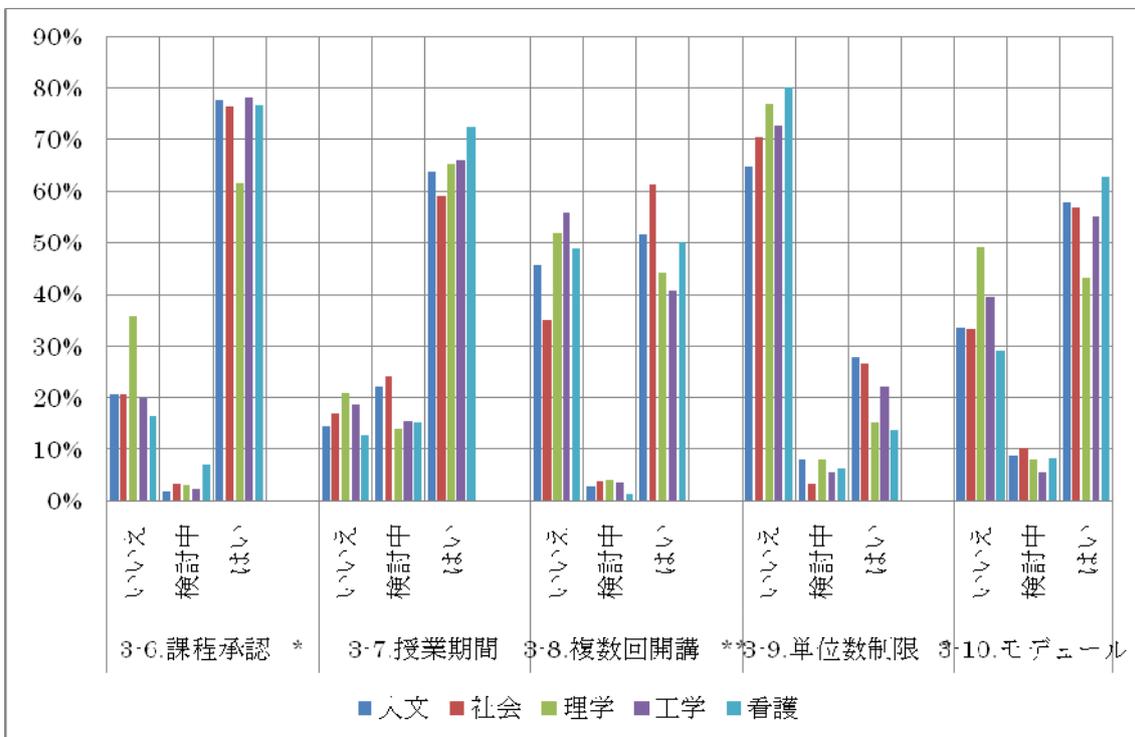
全学および学部の目標と学科の目標の関係の図式化（3-4）については、肯定回答は社会系で高く、人文系、理学系で低かった（社会系 27.3% > 人文系 13.2%, 理学系 10.0%）。また、学部の目標と各授業科目の関係の図式化（3-5）については、肯定回答は工学系で高く、人文系で低かった（工学系 56.7% > 人文系 27.5%）。

また、カリキュラム編成に関する課程承認の有無については、全体的に肯定回答が高いが、理学系では低かった（理学系 61.4%）。1 週間における複数開講については、社会系が高く、工学系が低かった（社会系 61.2% > 工学系 40.7%）。しかし、これについては、語学などの科目の影響もあるのではないかと考えられる。看護系については、他の専門分野と比較した際には、プログラム設計に関してはとくに顕著な差は見られなかった。



***p<.01, **p<.05, *p<.1

図表 3-3-1 専門分野別にみた教育プログラムの設計 (項目 3-1~3-5)



***p<.01, **p<.05, *p<.1

図表 3-3-2 専門分野別にみた教育プログラムの設計 (項目 3-6~3-10)

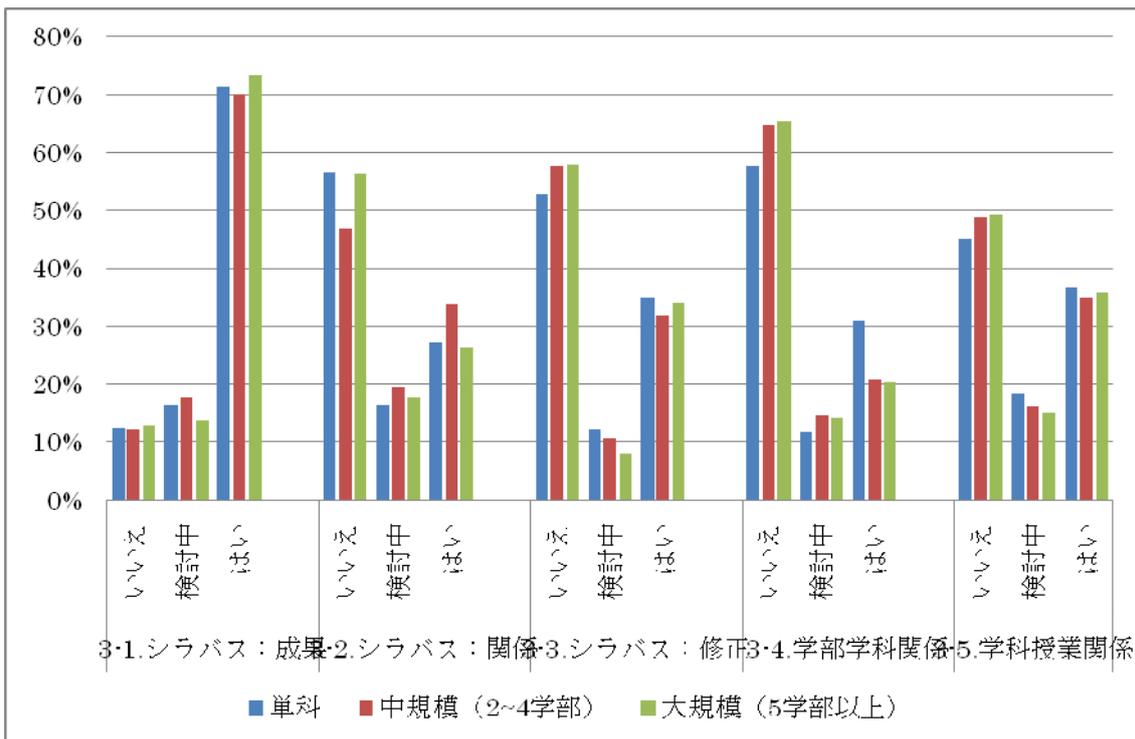
4. 大学規模別の傾向

図表 3-4-1 と 3-4-2 では、教育プログラムの設計の現状について、大学規模別（学部数）別にみた結果を示している。

図表 3-4-1 に示している項目 1 から 5 については、規模別には統計的に有意な差がみられなかったが、図表 3-3-2 に示している項目 6 から 10 については、いくつか差がみられた。このことから、シラバスや学部・学科の目標と授業とのつながりなどは、前節からわかるとおり、大学の規模とはあまり関係がなく、むしろ専門分野が規定している部分が大きいと考えられる。

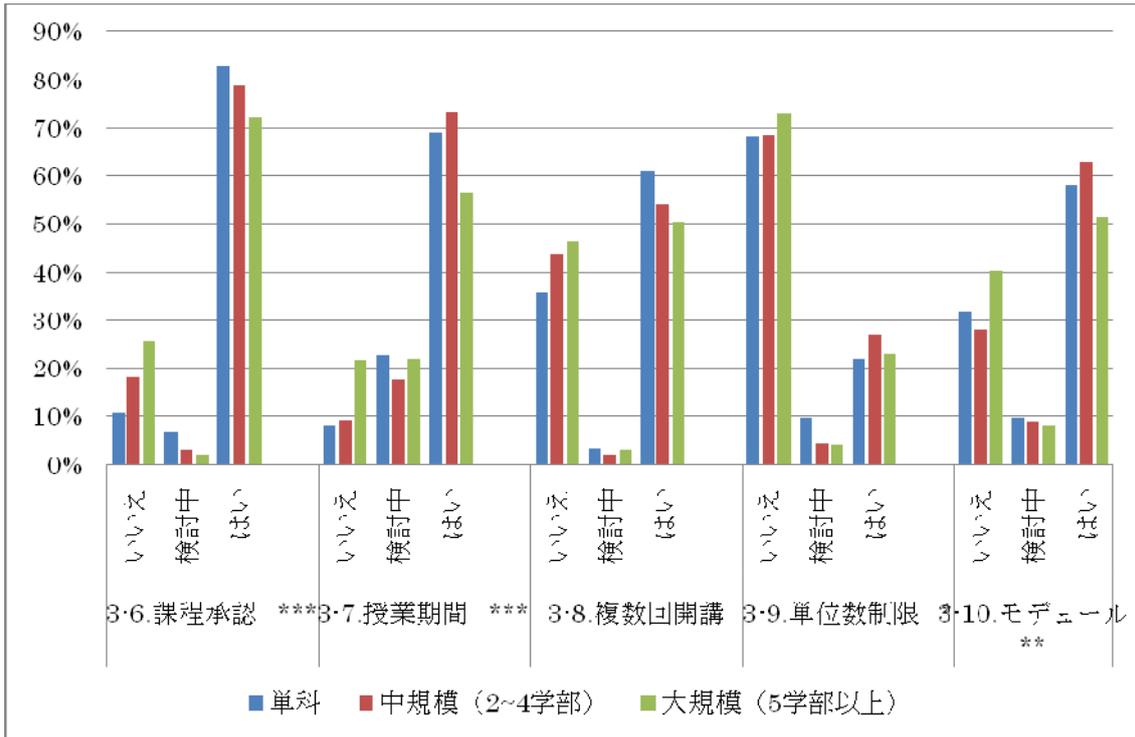
一方、カリキュラム編成における課程承認や授業期間の確保、モジュール制の有無などについて、大規模大学では肯定回答が低く、否定回答が高い傾向にあり、中規模および単科大学では、その逆の傾向がみられた。（3-6 否定回答：大規模 25.6% > 単科 10.7%，3-7 否定回答：大規模 21.6% > 中規模 9.2%，単科 8.1%，3-10 肯定回答：中規模 62.9% > 大規模 51.5%，否定回答：大規模 40.3% > 中規模 28.1%）

このことから、これらの要素については、大学の規模によって改革の進度が異なることが示唆される。



***p<.01, **p<.05, *p<.1

図表 3-4-1 大学規模別にみた教育プログラムの設計（項目 3-1～3-5）



***p<.01, **p<.05, *p<.1

図表 3-4-2 大学規模別にみた教育プログラムの設計 (項目 3-6~3-10)

第四章 「IV. 教育プログラムの実施」

葛城浩一（香川大学）

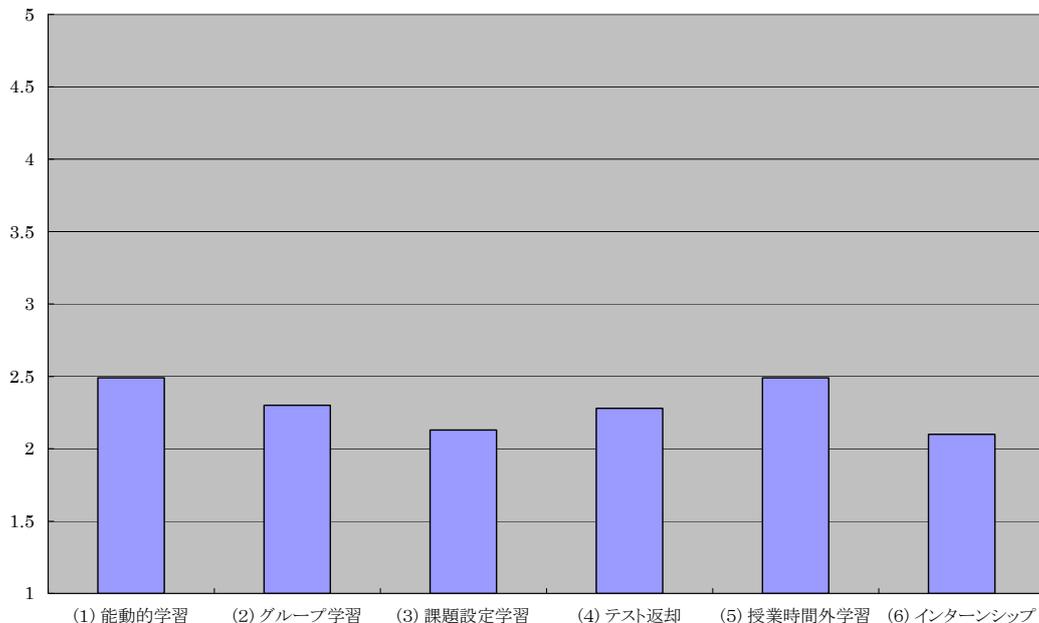
「IV. 教育プログラムの実施」では、教育プログラムの実施状況を探ることを目的として、6種類の教育プログラムを設定し、その実施状況について5段階での回答を求めた。

分析の結果、教育プログラムの実施状況には、設置形態や学部数の影響力以上に、専門分野の影響力が非常に大きいことが確認された。また、教育プログラムの内容によっては、専門分野より大きな影響力を有しているのが、所属学生の学力であることも確認された。すなわち、所属学生の学力が高い学科ほど、教育プログラムの実施状況が良好であった。

1. 全体の傾向

図表 4-1 には、教育プログラムの実施（各授業での教育方法）について尋ねた問いの回答を、「ほとんどない」=1、「特定授業である」=2、「半分位の授業である」=3、「大部分の授業である」=4、「全授業である」=5として平均値を計算した結果を示している。

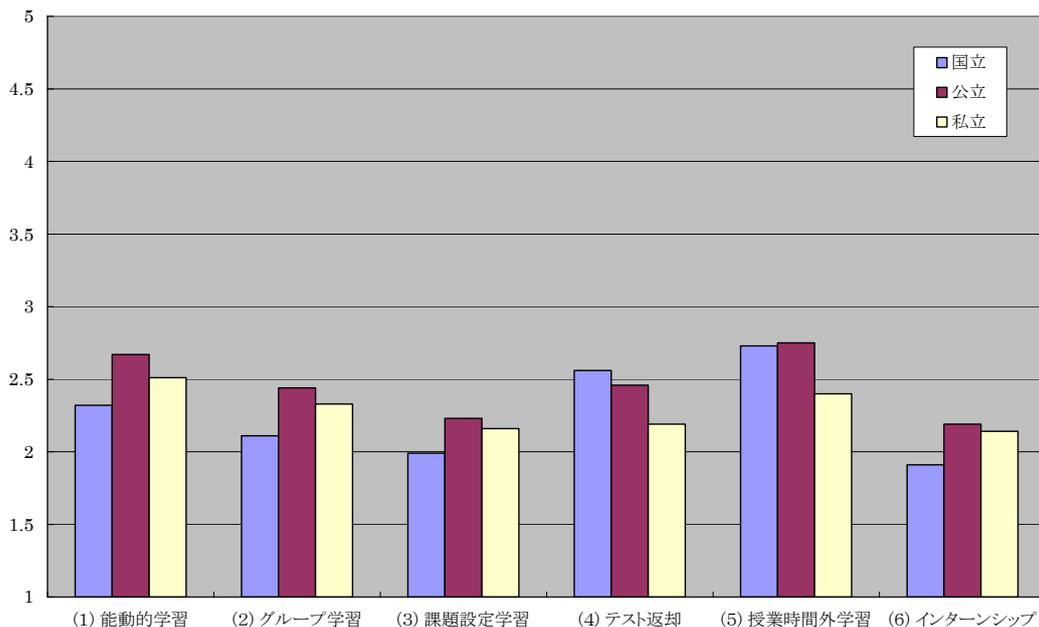
これをみると、「能動的学習」や「授業時間外学習」は、その他の教育プログラムに比べれば多くの授業で実施されていることがわかる。しかし、その値が2.5未満であることに鑑みれば、絶対数としてみれば必ずしも多くの授業で実施されているわけではないことがうかがえる。一方、「課題設定学習」や「インターンシップ」は、その値が2.1程度であることから、特定の授業でのみ行われているに過ぎないことがわかる。



図表 4-1 教育プログラムの実施状況

2. 設置形態別の傾向

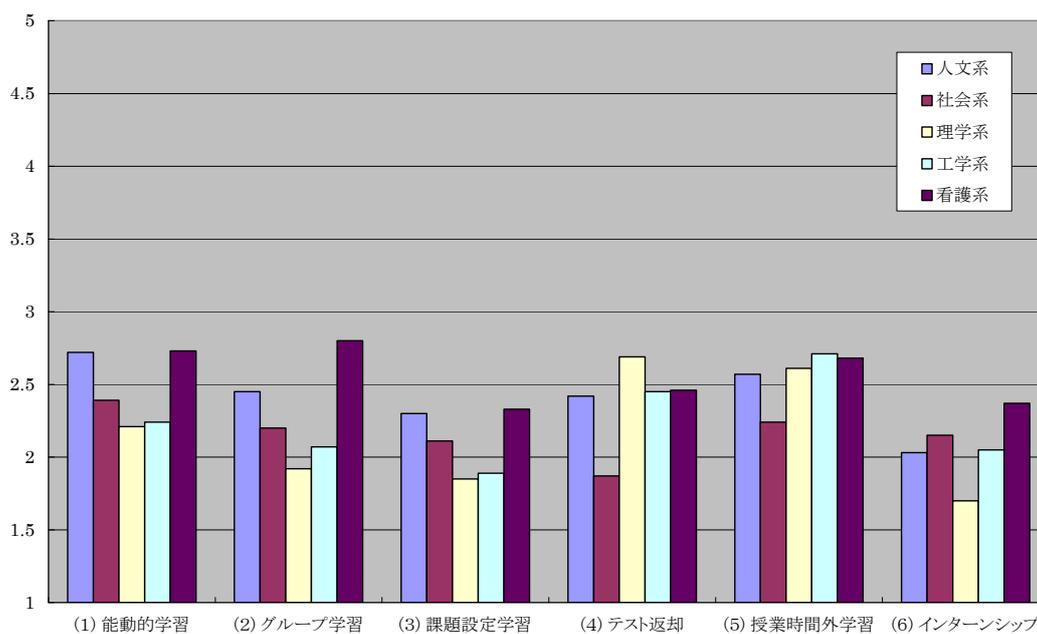
図表 4-2 は、教育プログラムの実施状況を設置形態別に示したものである。これをみると、公立大学ではいずれのプログラムについても実施状況が総じて良好であることがわかる。一方、国立大学ではプログラムの内容によって実施状況が大きく異なっている。すなわち、「テスト返却」や「授業時間外学習」の実施状況は良好であるが、その他のプログラムの実施状況は芳しくない。特に「テスト返却」については、教員一人あたりの学生数の少なさと関係していると考えられる。しかし、その他のプログラムについては、設置形態以外の要因の影響も少なくないことが予想される。



図表 4-2 設置形態別にみた教育プログラムの実施状況

3. 専門分野別の傾向

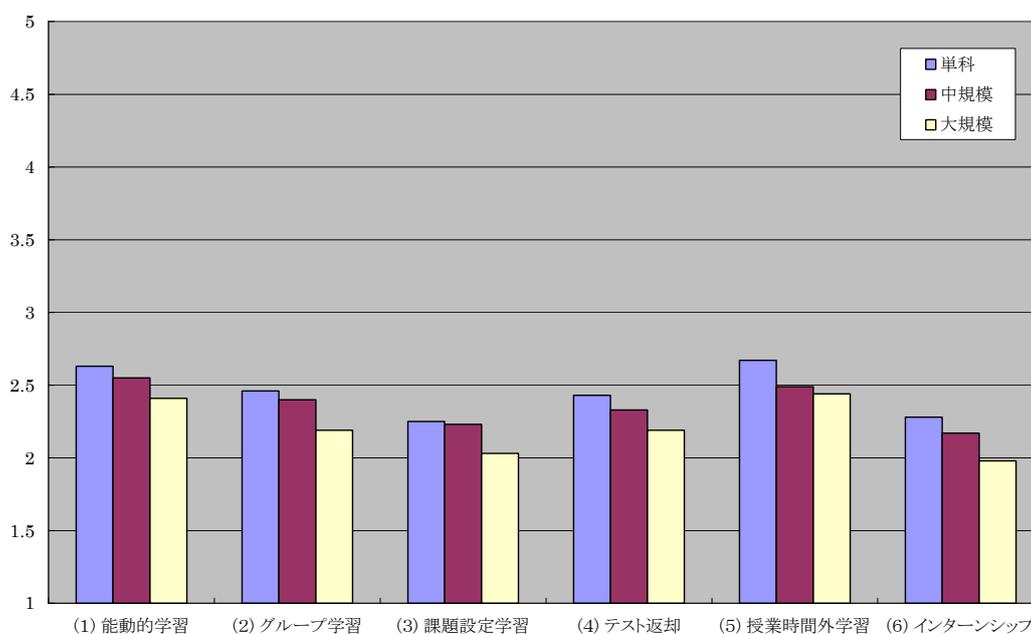
図表 4-3 は、教育プログラムの実施状況を専門分野別に示したものである。これをみると、看護系や人文系ではいずれのプログラムについても実施状況が総じて良好であることがわかる。一方、その他の専門分野では、教育プログラムの内容によって実施状況が大きく異なっている。すなわち、社会系では、「インターンシップ」の実施状況は良好であるが、「テスト返却」や「授業時間外学習」の実施状況は芳しくない。これに対し、理学系や工学系では、「テスト返却」や「授業時間外学習」の実施状況は良好であるが、その他のプログラムの実施状況は総じて芳しくない。こうした結果は、専門分野の差異が教育プログラムの内容を少なからず規定している可能性を示唆するものであるといえる。



図表 4-3 専門分野別にみた教育プログラムの実施状況

4. 大学規模別の傾向

図表 4-4 は、教育プログラムの実施状況を大学規模別に示したものである。これをみると、規模が小さな大学ほどいずれのプログラムについても実施状況が良好であることがわかる。規模が小さな大学では、文部科学省等や各種答申で示される教育要求に対して比較的迅速な対応が可能であることが、こうした結果に反映されているのではないかと考えられる。



図表 4-4 大学規模別にみた教育プログラムの実施状況

5. 学科属性の相対的影響力

以上の分析から、設置形態や専門分野、大学規模といった学科属性が、教育プログラムの実施状況に影響を及ぼしていることが明らかにされた。しかし、以上の分析では変数相互の影響力が考慮されていない。そこで、これらの諸変数が教育プログラムの実施状況に対してどのような影響を及ぼしているのか、重回帰分析によって考察する。

被説明変数には、以上でみてきた6つの教育プログラムの実施状況（「ほとんどない」=1から「全授業である」=5までの得点を配分）を用いる。また、説明変数には、以上でみてきた設置形態（基準変数を私立とし、国立、公立についてそれぞれダミー変数を作成）、専門分野（基準変数を看護系とし、人文系、社会系、理学系、工学系についてそれぞれダミー変数を作成）に加えて、所属学生の学力（「低い」=1から「高い」=5までの得点を配分）、学部数、学科定員を用いる。

図表4-5に分析結果を示した。この結果をみると、教育プログラムの実施状況には、設置形態や学部数の影響力以上に、専門分野の影響力が非常に大きいことがわかる。特に社会系では係数の値が相対的に大きい。こうした結果は、本章で取り上げたような教育プログラムの実施は、特に社会系の専門分野では困難であることを示している。特に「グループ学習」や「テスト返却」の係数の値は大きい。これには社会系の専門分野の授業規模が大きいことが強く関係していると考えられる。

また、教育プログラムの内容によっては、専門分野より大きな影響力を有しているのが、所属学生の学力である。すなわち、「能動的学習」や「課題設定学習」では、専門分野より大きな影響力を有している。係数が正の値であることから、こうした教育プログラムは、所属学生の学力が高い学科ほど実施されていることがわかる。所属学生の学力が低い学科では、学習面での問題を抱える学生に対処するために、所属学生の学力が高い学科とは異なる教育プログラムが実施されていることも予想されたが、そうした予想を支持する結果は得られなかった。むしろ所属学生の学力が低い学科では、学習面での問題を抱える学生に対処するために、教育プログラムの選択の幅が小さくなっているものと考えられる。

図表 4-5 教育プログラムの実施状況と学科属性の関係

		(1) 能動的 学習	(2) グループ 学習	(3) 課題設 定学習	(4) テスト 返却	(5) 授業時 間外学習	(6) インター ンシップ
設置形態	国立	-0.093 *	-0.114 *	-0.114 *	0.110 *		-0.123 **
	公立						
専門分野	人文系		-0.098 *				-0.296 ***
	社会系	-0.178 ***	-0.313 ***	-0.117 *	-0.313 ***	-0.184 ***	-0.187 ***
	理学系	-0.171 ***	-0.311 ***	-0.194 ***			-0.361 ***
	工学系	-0.157 ***	-0.242 ***	-0.179 ***			-0.166 ***
所属学生の学力		0.200 ***	0.243 ***	0.231 ***		0.130 **	
学部数		-0.090 *	-0.154 ***	-0.168 ***		-0.102 *	-0.169 ***
学科定員							
	調整済みR ²	0.094	0.176	0.118	0.120	0.054	0.151
	F値	8.533 ***	16.444 ***	10.716 ***	10.870 ***	5.089 ***	13.911 ***

注：***はP<0.001、**はP<0.01、*はP<0.05。

値は標準化偏回帰係数。統計的に有意な値のみ示している。

注：本章における質問項目の略称と設問文の関係は次の通り。

- (1) 質疑や発表などによる、学生の能動的な授業参加・・・・・・・・(1) 能動的学習
- (2) グループで作業やディスカッションをする機会・・・・・・・・(2) グループ学習
- (3) 学生自身が課題を設定し、調査・研究する機会・・・・・・・・(3) 課題設定学習
- (4) 採点された試験・テストの返却・・・・・・・・・・・・・・・・(4) テスト返却
- (5) 授業時間外学習を促進するための具体的な指示・・・・・・・・(5) 授業時間外学習
- (6) 現実社会の問題を取り入れて学ぶ機会（インターンシップや実地研修などを含む）
・・・・・・・・(6) インターンシップ

第五章 「V. 学習成果の把握・評価」

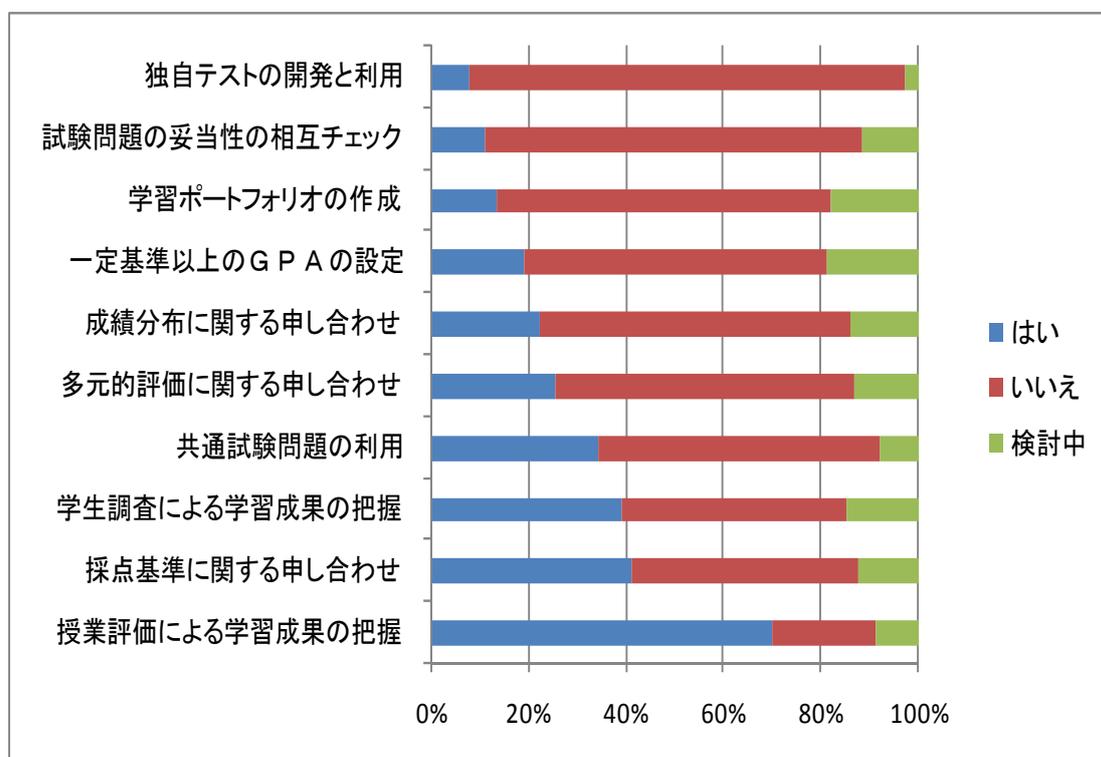
山田礼子（同志社大学）

1. 全体の傾向

(1) 学科における学習成果の把握・評価

図表 5-1 では、学科における学習成果の把握・評価についての進展度合いの低い順に並べている。

これによると、進展状況が 20%を下回るのは、「独自テストの開発と利用」、「試験問題の妥当性の相互チェック」、「学習ポートフォリオの作成」、「進級・卒業において一定基準以上のGPAの設定」であり、対照的に「授業評価による学習成果の把握」は 60%以上の学科において進展している。



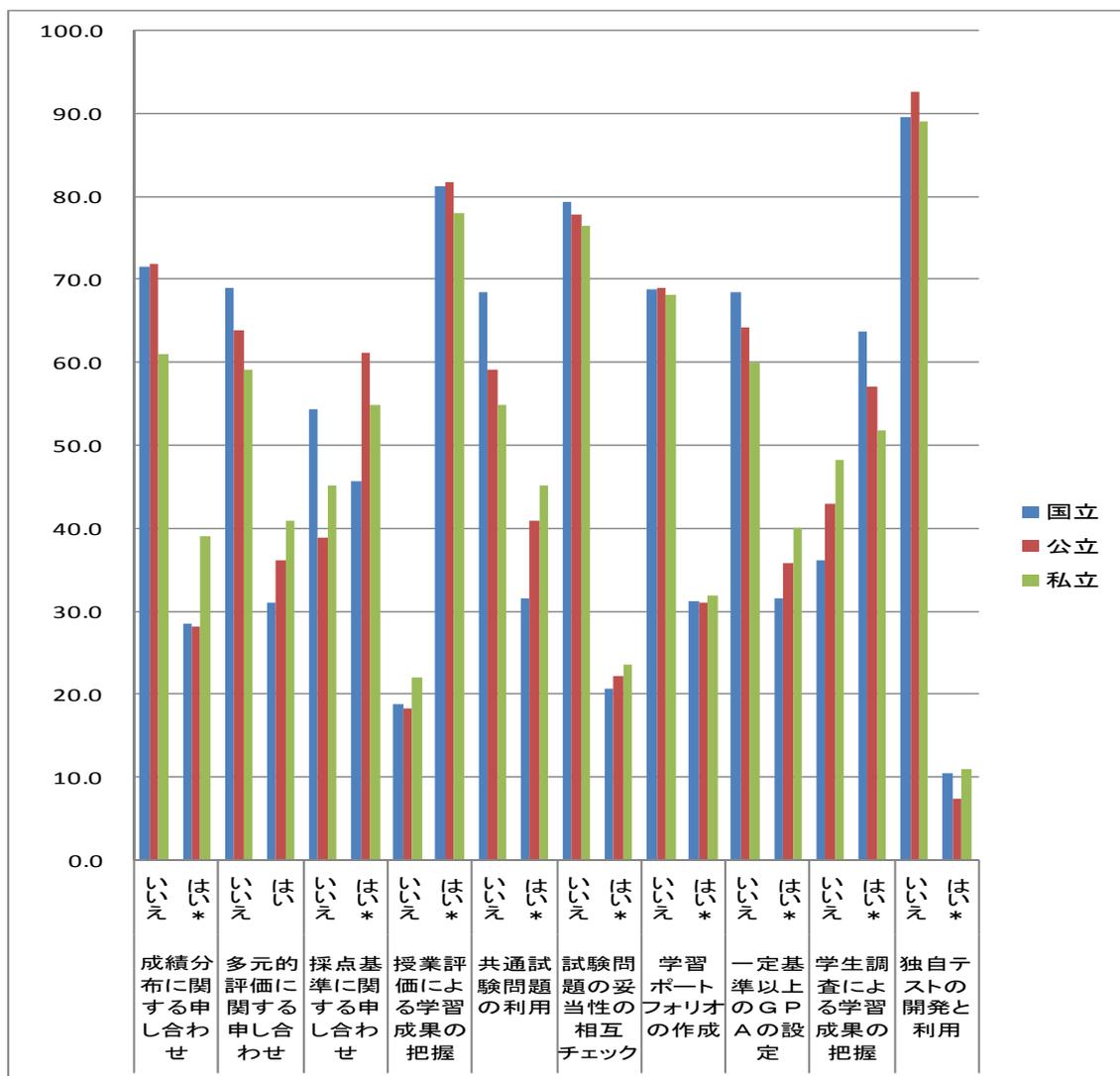
図表 5-1 学習成果の把握・評価の動向

2. 設置形態別の傾向

(1) 学習成果の把握・評価×設置形態

本質問の回答は「はい」、「検討中」、「いいえ」の選択肢から成り立っているが、よりわかりやすくするために、「はい」と「検討中」を合わせた回答として図に示している。学習

成果の把握・評価の進展状況を設置形態別にみると、「授業評価による学習成果の把握」と「学生調査による学習成果の把握」については、国立、公立の学科長からの「実施・検討中」という回答が高くなっているが、他の項目においては、総じて私立大学において進展していることが窺える。「学生調査による学習成果の把握」については、近年国立大学に評価室の設置が増加していることがこの回答における肯定的な回答に反映されていると言えるかもしれない。



* (検討中を含む)

図表 5-2 設置形態別に見た学習成果の把握・評価

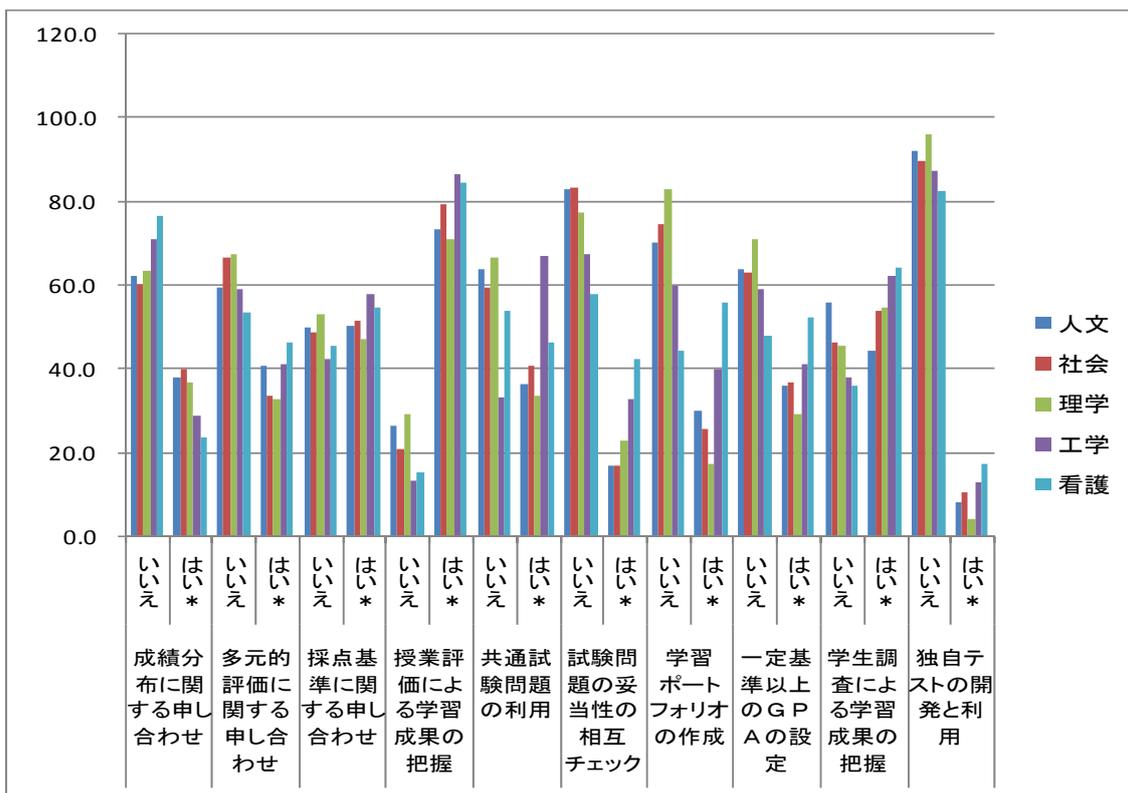
3. 専門分野別の傾向

(1) 学習成果の把握・評価×専門分野

専門分野別の学習成果の把握・評価の進展状況（検討中を含む）を示した図表 5-3 を見ると、全分野において学習成果の把握や評価はそれほど進展していないことが読み取れる。

例外的に、「授業評価による学習成果の把握」については、若干「人文」と「理学」に低い傾向がみられるが、いずれの分野も実施状況が未実施を大きく上回っている傾向がみられる。「学生調査による学習成果の把握」についても、「人文」分野を除く全分野において実施状況が上回っていることが示されている。

個別に見てみると、いずれの項目も「工学」「看護」分野での取組み状況が高いが、特に、「試験問題の妥当性を教員相互でチェック」、「ポートフォリオを学生に作成させている」、「進級・卒業において一定基準以上の GPA を要求」という項目においては、「工学」、「看護」分野での取組状況と他の 3 分野との差は顕著である。反対に、「成績分布に関する申し合わせがある」は「人文」、「社会」、「理学」分野の取組み状況が高くなっている。「学内で独自に開発した客観テストを利用している」については、「工学」「看護」分野での取組状況が若干高いが全般的にはまだ取組状況が進展していないと言える。



*（検討中を含む）

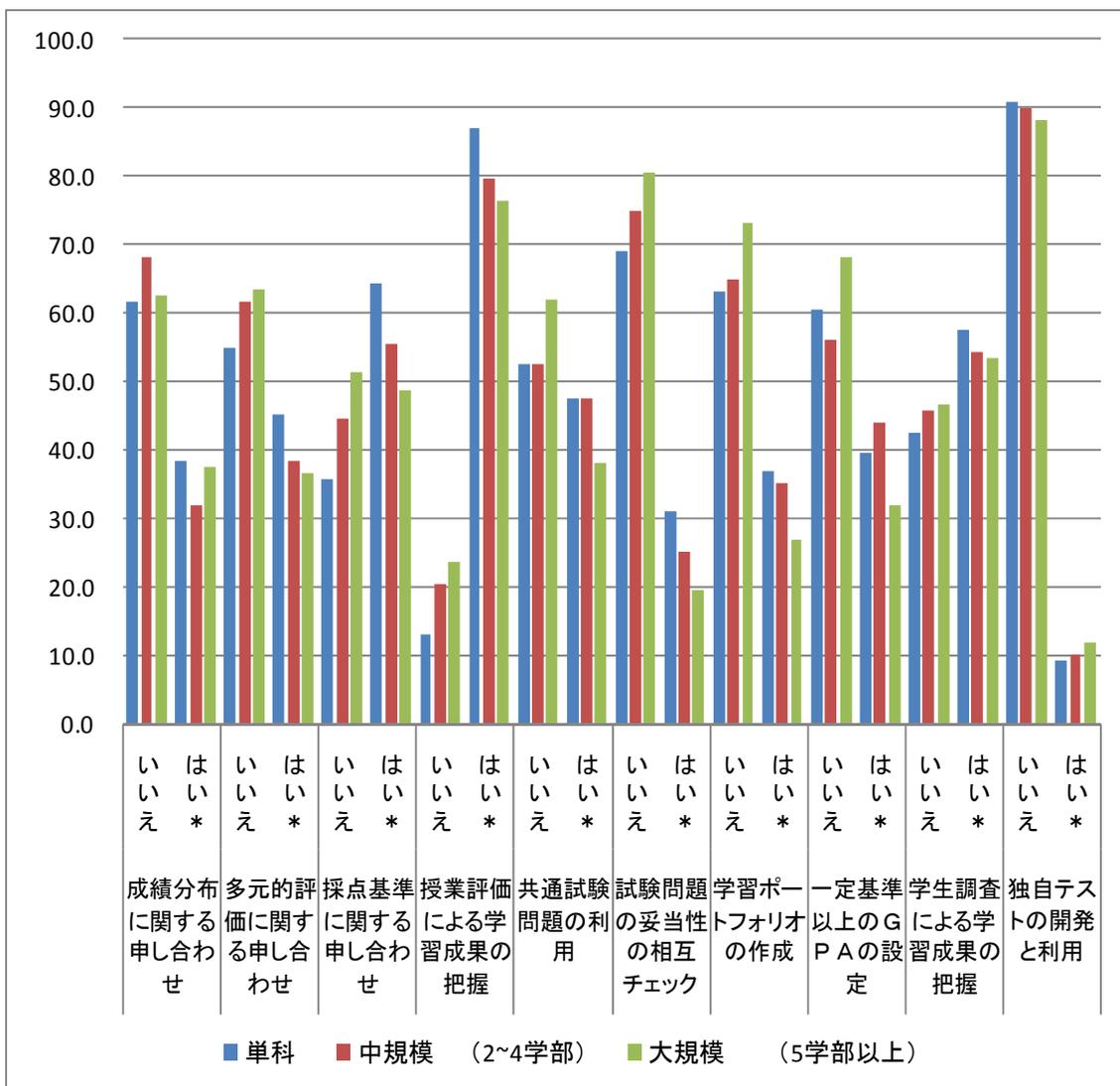
図表 5-3 専門分野別に見た学習成果の把握・評価

4. 大学規模別の傾向

(1) 学習成果の把握・評価×大学規模

回答傾向との関係で最後に確認する学科属性は、大学の規模（学部数）である。図表 5-4 では、学習成果の把握・評価の進展状況を規模別に示している。

進展状況に肯定的な回答に着目してみた場合、全般的に「単科大学」がほとんどの項目で「中規模大学」と「大規模大学」の進展度合を上回っている。しかし、「進級・卒業において一定基準今日のGPAの設定」においては、「中規模大学」が最も進展している。「独自テストの開発と利用」については、「大規模大学」が若干進展していることがわかる。大規模大学には多様な分野の人材が在籍していることもこの回答に関係しているとも考えられる。



* (検討中を含む)

図表 5-4 専門分野別に見た学習成果の把握・評価

第六章 「VI. 取り組み状況についての認識」

吉原 恵子（兵庫大学）

「VI. 取り組み状況に関する考え」では、学科として学士課程教育の構築に向けて、具体的にどのような方法やしくみを通して「どの程度」取り組みが進んでいるか、13 項目について「難航している」から「上手くいっている」までの4段階尺度による自己評価をしてもらった^(注)。また、「必要性がない」との回答欄も設けた。

主な分析結果として、教育（学習）目標、教育プログラムの設計／実施に関わる評価と改革に関わる教職員の能力開発等の評価は全体として「上手くいっている」が、学習成果の評価方法と評価体制に関する評価は「難航している」が半数近くに及ぶことがわかった。また、学外識者等の参画やデータに基づいた学科方針の決定・運営、改革のための資金調達は改革項目として「必要性」自体が認識されていない傾向も一部で読み取れる。

全体として、「取り組み状況」に対する自己評価は、学生の学力との関連性が高い項目が多く、学習成果の評価方法と評価体制については設置形態の影響が読み取れる。

1. 全体の傾向

図表の質問項目は、次のような順で並べられている〔（）内の数字は質問紙の項目番号〕。

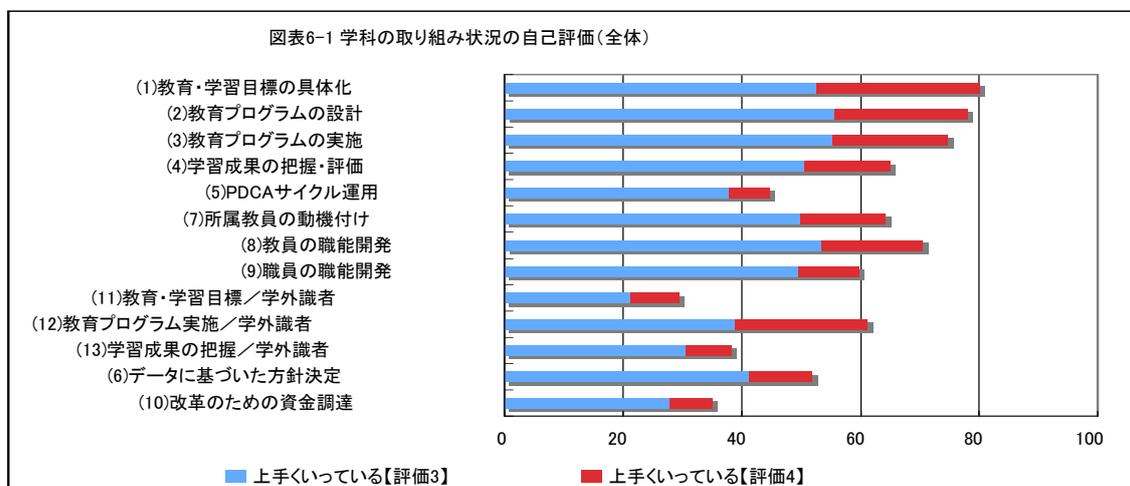
①教育（学習）目標、教育プログラムの設計／実施など「学生の教育・学習」に関する項目〔(1)～(3)〕、②学習成果の評価方法と評価体制に関する項目〔(4)～(5)〕、③改革に関わる教職員の能力開発等に関する項目〔(7)～(9)〕、④学外識者等の参画に関する項目〔(11)～(13)〕、⑤データに基づいた学科方針の決定・運営〔(6)〕、⑥改革のための資金調達についての項目〔(10)〕である。

(1) 学科の取り組み状況の自己評価

図表 6-1 では、13 項目を4段階尺度の高い方から2段階の数値のみを表した。すなわち、「上手くいっている」【評価3】と「上手くいっている」【評価4】の数値を合計した比率である。

これによると、「学生の教育・学習」に関わる項目はどれも、80%近くに及ぶ。また、教職員の職能開発に関する項目も60%前後となっている。一方、学科の教育・学習目標の設定と成果の把握において、学識者の参画は30%から40%と評価が低い。また、PDCAサイクルの運用やIR（全学的に管理されている各種データ）を利用した学科の方針決定・運営などの数値が低い。

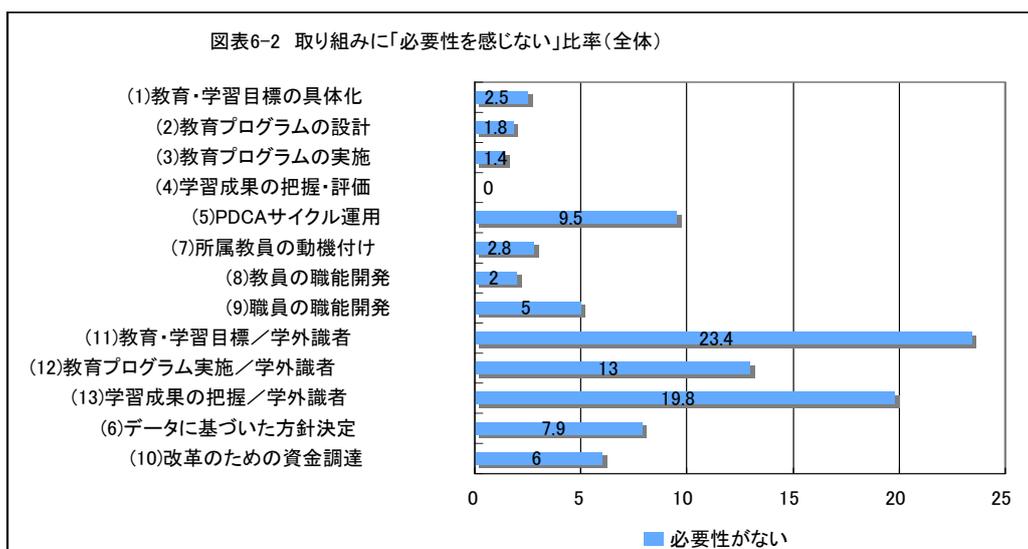
全体として、学外識者の積極的参画の促進、評価の仕組みづくりやデータ利用が十分には進められていないことがうかがわれる。



(2) 取り組みに「必要性を感じない」項目の比率

図表 6-2 では、質問項目ごとに「必要性を感じない」という選択肢を設けた。回答者実数(906)を分母として、比率を示した。図表 6-1 を参照しながら見ると、「学生の教育・学習」に関わる項目は、取り組みが「上手くいっている」だけでなく、必要性も高く認識されていることがわかる。一方、PDCA サイクルの運用については、「上手くいっている」が少ないうえに、10%近くの学科で必要性自体が認識されていない。

また、最も「必要性を感じない」と捉えられている項目は、「教育・学習目標の設定における学外識者の参画」である(23.4%)。学習成果の把握や評価は、必要性が高く認識されている一方で、それに対する「学外識者等の参画」の必要性は認識されていない比率は19.8%に及ぶ。

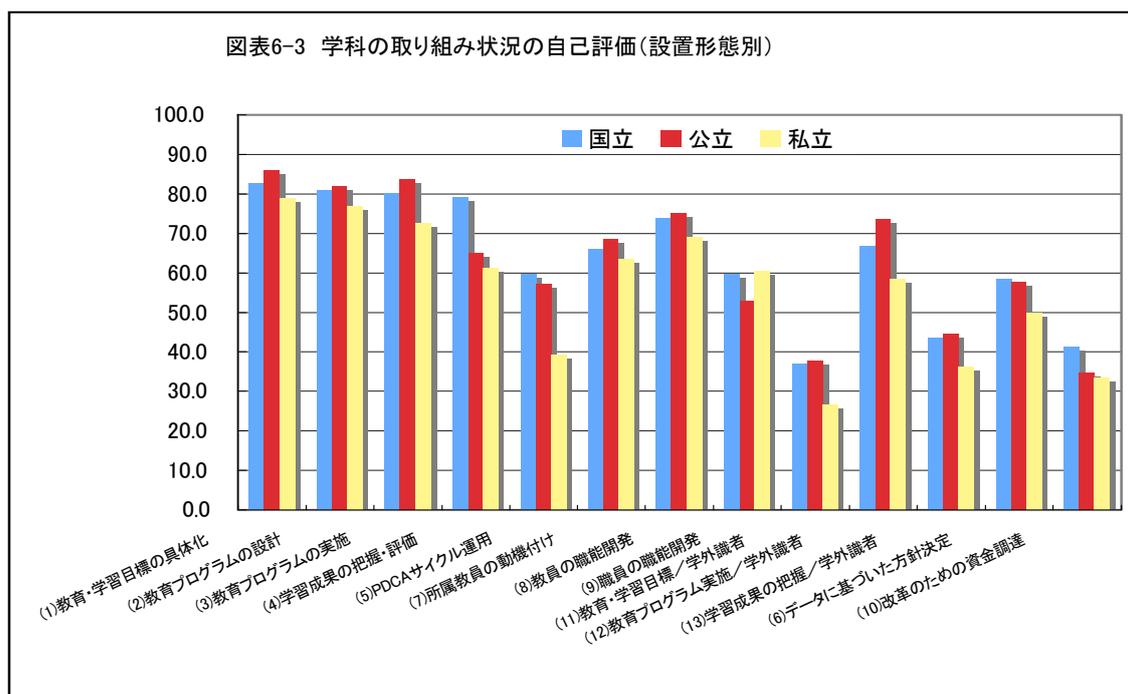


2. 設置形態別の傾向

学科の学士課程教育構築に向けての取り組み状況を、設置形態別に見たのが、図表 6-3 である。この分析で、有効サンプルの設置形態別内訳は、国立大学が 18.5% (166 大学)、公立大学 8.2% (74 大学)、私立大学 72.7% (659 大学) である。

図表 6-3 では、各項目の「上手くいっている」【評価 3】と「上手くいっている」【評価 4】の合計値を設置形態別に表した。国公立間でもっとも差が大きい項目は、「PDCA サイクルの運用」である。国公立が 60% 近くに及んでいるのに対し、私立は 40% を切っている。また、教育・学習目標設定や実施における「学外識者等の参画」でも、国公立が私立を上回っている。「学習成果の把握・評価」については、国立の数値が他より 15~20 ポイント近く高い。

これらの結果の解釈では、サンプル特性として、国立のおよそ 60% が理系(人社系、教育系、その他を除いたすべての学科の合計)を占めている一方で、公立の約 50%、私立の約 70% が文系(人文系と社会系、教育系の合計)であることを考慮する必要がある、そこで次節では、専門分野別のデータを見ることにする。



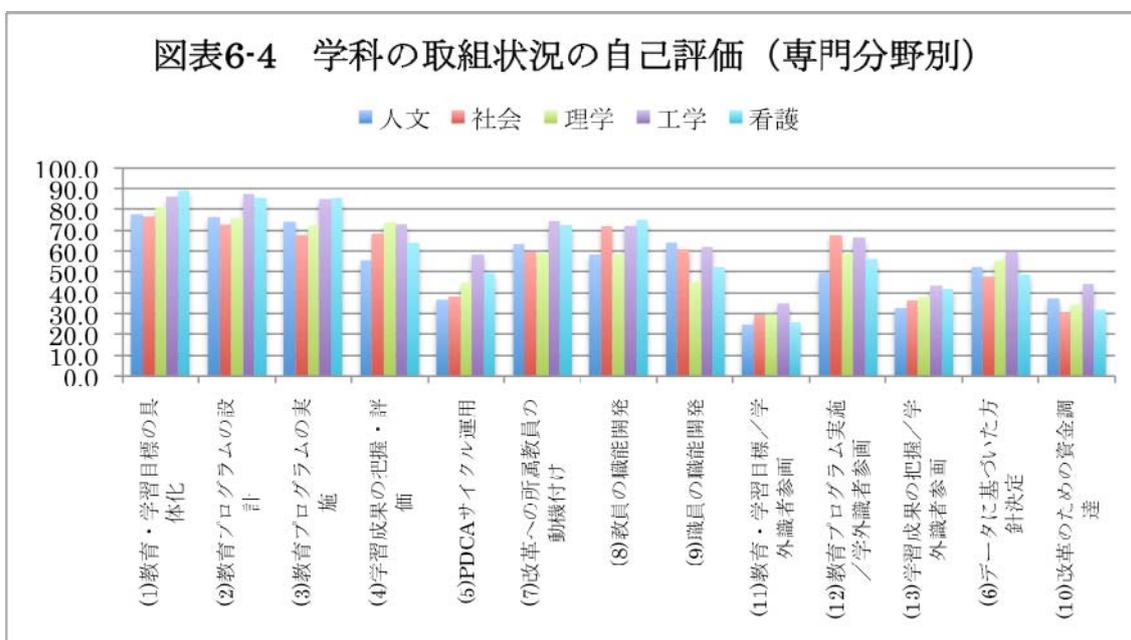
3. 専門分野別の傾向

図表 6-4 は、各項目の「上手くいっている」【評価 3】と「上手くいっている」【評価 4】の合計値のみを専門分野別に見たものである。ここでは、サンプル全体のうち人文系学科 (227)、社会系学科 (299)、理学系学科 (102)、工学系学科 (96)、看護系学科 (89) の 5 分野のみを対象としている。

①「学生の教育・学習」に関する項目では、他の分野に比べ工学系学科と看護系学科で自己評価が高い。②学習成果の評価方法と評価体制については人文系の数値の低さが際立っている。人文系の約88%が私立大学であり、その組織形態や取り組みについての考え方などの特徴的要因がどの程度影響しているのかについては、さらなる分析が必要であろう。

また、③改革に関わる教職員の能力開発等については、全体的に理学系学科で「難航している」（「難航している」【評価1】と「難航している」【評価2】の合計値）と感じている比率が高い。このような取り組みに対する評価は、当該大学や学部学科の組織体制や活動方針の影響を受けることから、理学系学科の50%前後が「国立」である点に留意すべきであろう。

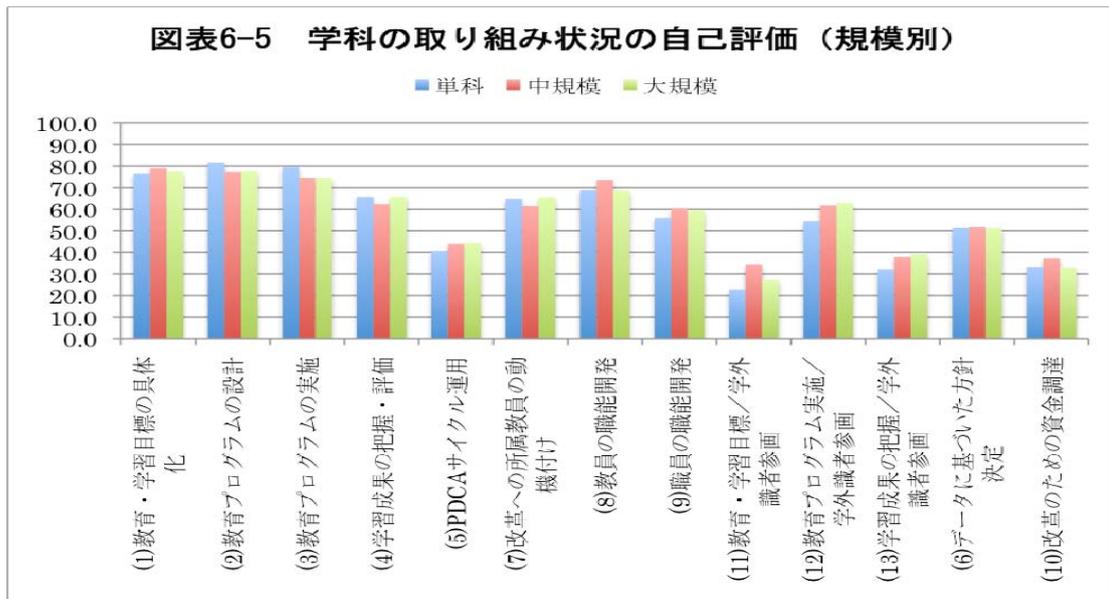
さいごに、④学外識者等の参画に関する項目、⑤データに基づいた学科方針の決定・運営、⑥改革のための資金調達についての3カテゴリでは、全体として工学系学科で数値が高い。



4. 大学規模別の傾向

ここでは、大学規模を学部数により、「単科大学」[113校]、「中規模大学（2～4学部）」[280校]、「大規模大学（5学部以上）」[353校]に分け、大学規模により学科の取り組み状況の自己評価にどのような傾向があるか見た。

図表6-5を見ると、学外識者等の参画に関する項目において「単科大学」が低い傾向が見られる以外は、規模別で際立った特徴を読み取ることはできない。この結果からは、「学科内」の取り組みに対する評価に関わって、いわゆる学部間の壁の厚さや、大規模大学ゆえの改革の足並みの乱れなど規模による特性の影響よりも、他の文脈における要因を探る必要があることが示唆される。そこで、次節の分析では、主として、「学生の学力」についての評価および「設置形態別」に見ていくことにする。



5. 項目群（①～⑥）別の背景要因

以上、学科の取り組み状況に対する評価項目を、属性別で見えてきたが、項目内容によって「上手くいっている」と「難航している」の評価を分ける要因が異なることが予想される。ここでは、取り組みの手応えとしての「学生の学力」や設置形態により異なる組織全体の進捗状況が回答者の自己評価に影響を与えると仮定し、主として「学生の学力」と「設置形態」を取り上げ、①から⑥の分類ごとに分析を行う。

（1）①教育（学習）目標、教育プログラムの設計／実施について

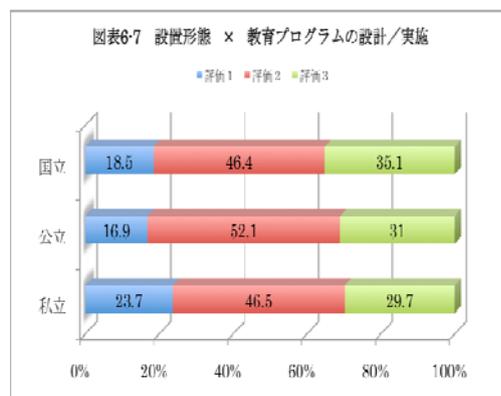
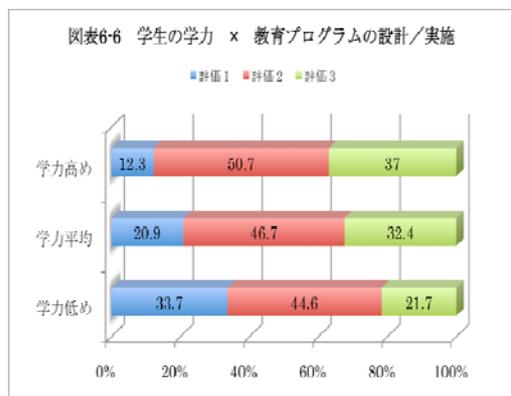
まず、①教育（学習）目標の具体化、教育プログラムの設計／実施など「学生の教育・学習」に関する3項目について、「上手くいっている」【評価3】と「上手くいっている」【評価4】の数値を合計して、低得点から高得点までを3群（3～7点、8～9点、10～12点）に分類した。

まず、教育（学習）に関する取り組みが「上手くいっている」かどうかの手応えとして、取り組みの成果（アウトプット）として学生の学力が自己評価に影響を与えると仮定して、「学生の学力」との関連を見た。その結果、学生の学力が高い学科ほど教育（学習）目標、教育プログラムの設計／実施の評価が高くなる傾向が見られる（図表6-6： $\chi^2=35.857$, $p<0.0001$ ）。

また、設置形態別では国立でいくらか高い傾向が見られる。ただし、「学力高め」群の内訳は、国立が39.0%、公立が15.8%、私立が45.2%である。一方、「学力低め」群の内訳は、国立が2.8%、公立が0.7%、私立が96.5%、を占めている点に留意する必要がある。

そこで、国立(143)、公立(63)、私立(566)別に「学生の学力」ごとに評価を比較した。国立、

公立では有意な差は見られなかったのに対して、私立大学では、学力が高いほど教育（学習）目標、教育プログラムの設計／実施の評価も高くなっていた（ $\chi^2=29.196, p<0.0001$ ）。国公立では、学力の影響はそれほど大きいとは言えないことから、他の要因を探る必要がある。

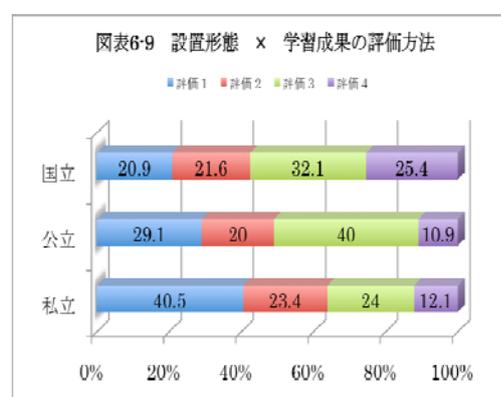
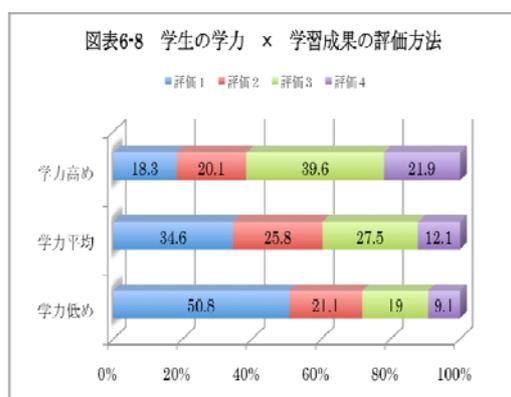


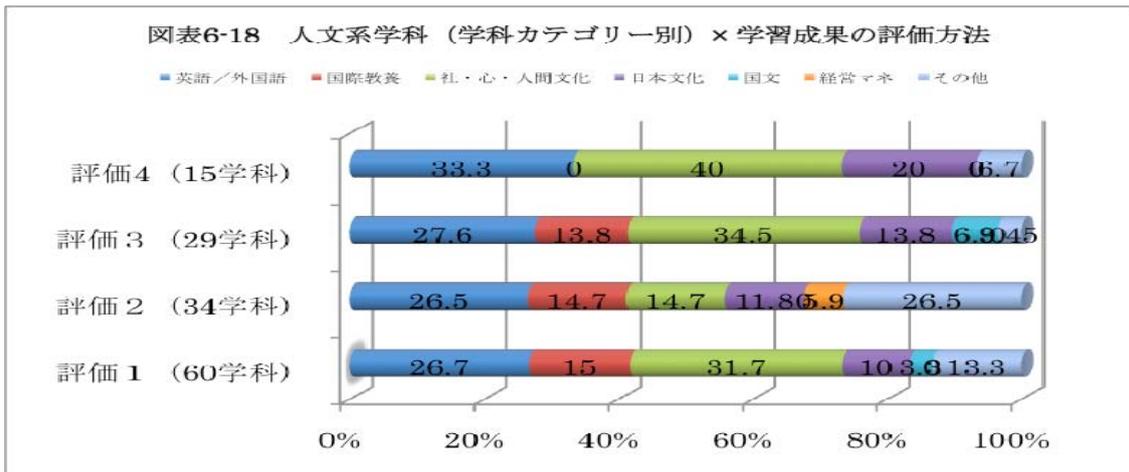
(2) ②学習成果の評価方法について

つぎに、②学習成果の評価方法に関する2項目について、評価の数値を合計して、低得点から高得点までを4群（2～4点、5点、6点、7～8点）に分類した。

まず、学生の学力が高いほど、学習成果の把握・評価やPDCAサイクルの運用について「上手くいっている」と考える率が高くなるのがわかる（図表6-8： $\chi^2=59.006, p<0.0001$ ）。同様に設置形態別に見ると、私立よりも国公立において評価が高い。評価活動についての認識と組織的体制の整備について、二者間で分かれる結果となった（図表6-9： $\chi^2=32.500, p<0.0001$ ）。

全体の分析では、人文系学科の数値がきわだって低かった。人文系学科の特性を調べるため、学科名を下位分類して、1～4の評価レベルごとに見たが、特定の傾向性は見られなかった（図表6-18）。



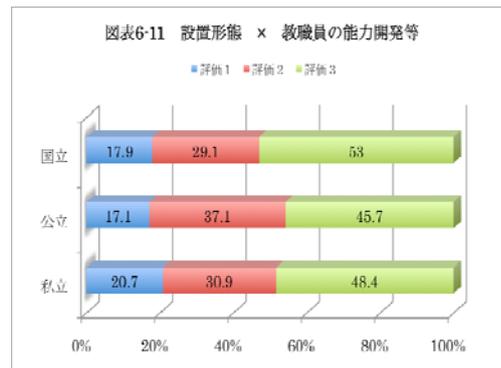
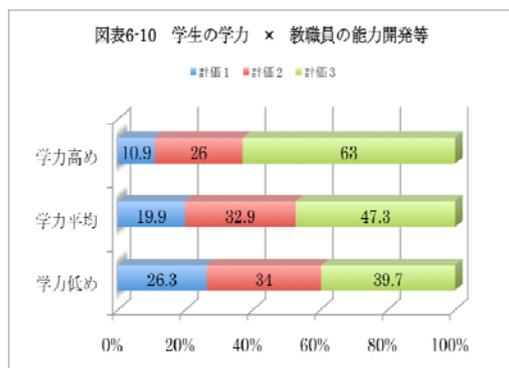


(3) ③改革に関わる教職員の能力開発等について

つぎに、③改革に関わる教職員の能力開発等に関する3項目について、評価の数値を合計して、低得点から高得点までを3群（3～6点、7～8点、9～12点）に分類した。

本項目についても、学生の学力が高いほど、改革に関わる教職員の能力開発等が「上手くいっている」とする比率が高いことがわかる（図表6-10： $\chi^2=27.731, p<0.0001$ ）。一方、設置形態別の影響は見られない。

また、全体の設置形態別分析では、理学系学科で評価が低い傾向が見られた。理学系学科の約55%が国立大学であることとの特性と関係があるかどうかについてはさらに検討を要する。理学系学科について他の変数との関連を見ると、認証評価受申/未受申とは関連性がなかったが、GP申請数との間には、工学系学科 ($p=.293^{**}$) 同様に正の相関が見られた ($p=.261^*$)。

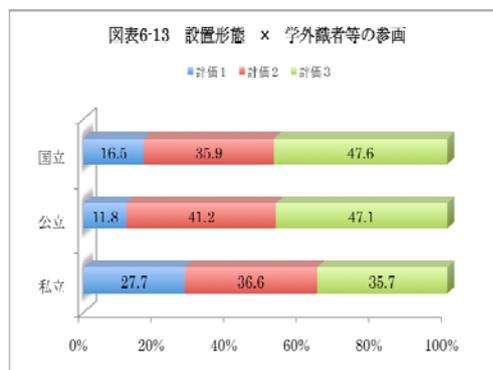
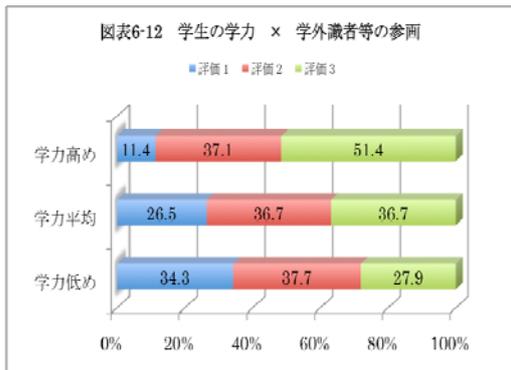


(4) ④学外識者等の参画について

④学外識者等の参画に関する3項目について、評価の数値を合計して、低得点から高得点までを3群（3～5点、6～7点、8～12点）に分類した。

学外識者等の参画においても、学科の学生の学力の高いほど、「上手くいっている」比率が高まる（図表6-12： $\chi^2=29.473, p<0.0001$ ）。設置形態別では、国公立が私立よ

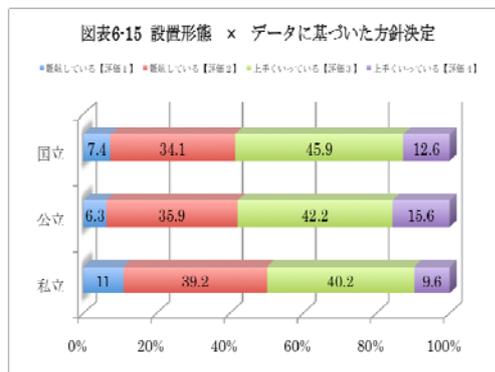
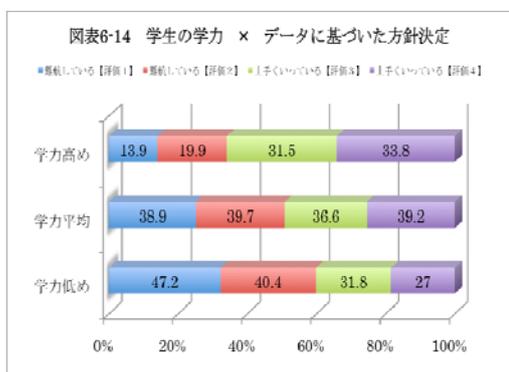
りも高く評価する傾向が見られる（図表 6-13： $\chi^2=12.399$, $p<0.005$ ）。



(5) ⑤データに基づいた学科方針の決定・運営について

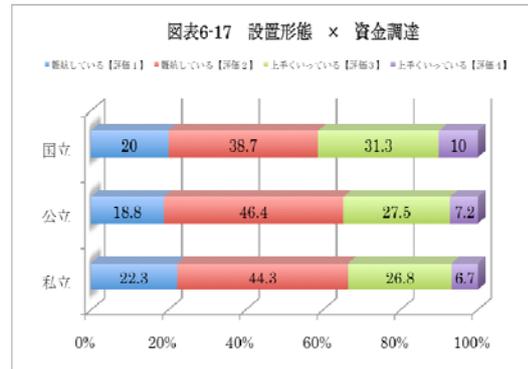
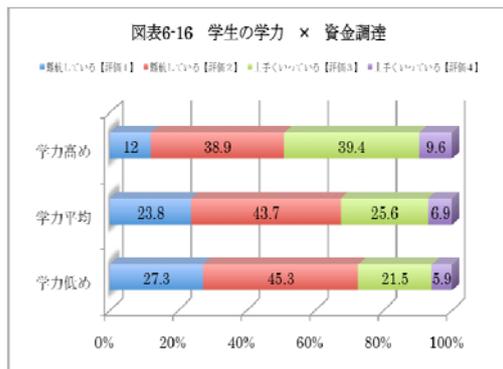
本項目は、最近注目されている IR (Institutional Research) について学科レベルにおける取り組みをたずねたものである。IR は、学内に蓄えられている種々の情報を収集して数値化し、大学の経営管理、教育・研究、学生支援のために、その評価・分析結果を役立てるものである。

全体では、IR 活動への評価結果は「難航している【評価1】【評価2】」が 49.2%と「上手くいっている【評価3】【評価4】」が 50.9%と大きく2つに分かれた。これを学生の学力別で見ると、学力が高いほど「上手くいっている」とする傾向が見られる（図表 6-14： $\chi^2=20.914$, $p<0.005$ ）。設置形態別では、国公立間で特定の差異は見られない（図表 6-15）。



(6) ⑥改革のための資金調達について

さいごに、改革のための資金調達について、学生の学力が高い群では、「上手くいっている」（【評価3】【評価4】の合計）とする比率が「学力平均」「学力低め」に比べて非常に高い（図表 6-16： $\chi^2=30.873$, $p<0.0001$ ）。設置形態別では有意な差は見られない。



(注) 本節では、「難航している」【評価1】、「難航している」【評価2】、「上手くいっている」【評価3】、「上手くいっている」【評価4】として表記する

第七章 「VII. 改革動向に対する意見」^{注)}

串本 剛（東北大学）

「VII. 改革動向に対する意見」においては、学士課程教育やその改革動向に対する回答者の意識を探ることを目的として、18の問を設定した。前半9問（(1)~(9)）では、近年の改革動向に対し賛成～反対の5段階評価を、後半の9問（(10)a~(10)i）では、「学士課程教育」という用語からどのような事柄をイメージするかについて、該当するものを選ぶ形式で回答を求めた。

結果として、国・公・私という設置形態の別は、近年の改革動向に対する賛否や「学士課程教育」のイメージにほとんど影響を与えていない一方で、専門分野の違いにより、改革動向に対する賛否は異なってくるのが明らかとなった。

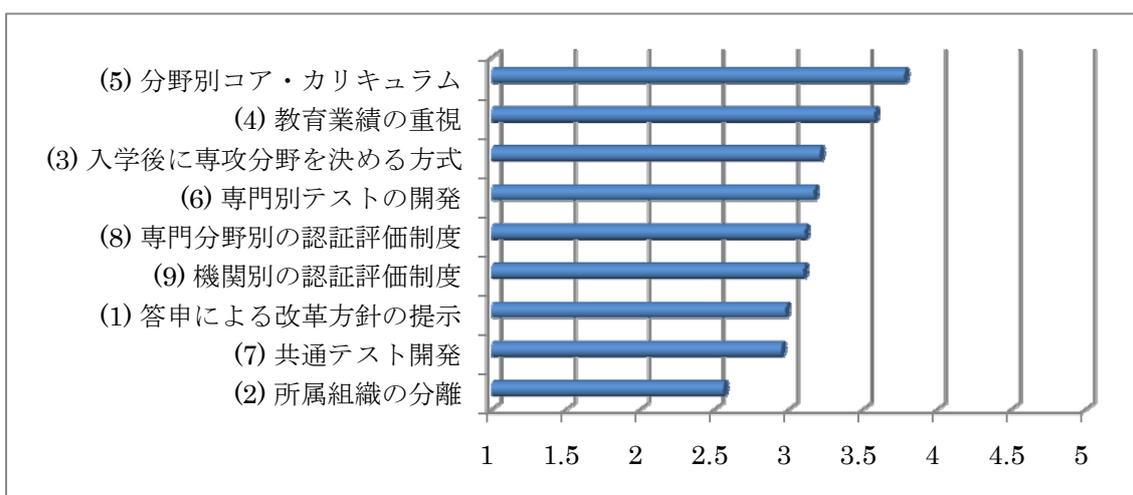
ただし改革動向に対する回答者の意識は、設置形態や専門分野の他、大学の規模や学科定員、あるいは所属学生の学力を考慮しても、学科の属性だけでは十分に説明できないため、教育観や就業履歴などの回答者個人の属性に規定される部分が大きいと考えられる。

1. 全体の傾向

(1) 近年の改革動向

図表 7-1 では、様々な近年の改革動向について賛否を尋ねた問いの回答を、「反対」=1、「賛成」=5として平均値を計算し、その値が大きい順に並べている。

これによると、平均値が3以上で比較的賛同が多い項目は、分野別コア・カリキュラムの開発（3.78）と教員評価における教育業績の重視（3.58）であり、対照的に教員と学生の所属組織の分離（2.56）には反対が多いことがわかる。

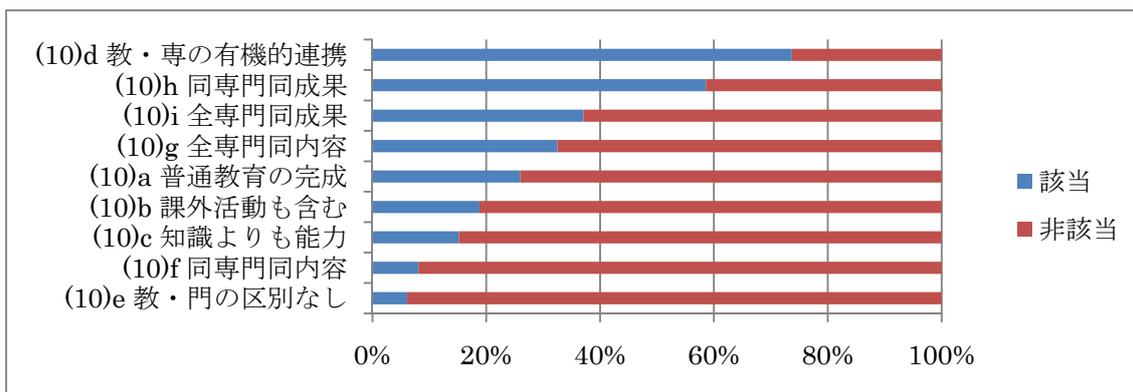


図表 7-1 改革動向への賛否

(2) 「学士課程教育」のイメージ

「学士課程教育」という用語から連想される事柄に関して聞いたところ、半数以上の者が該当するとしているのは、教養教育と専門教育の有機的連携（73.7%）と、専門分野ごとの共通の学習成果（58.6%）のみであった（図表 7-2）。

注目されるのは、専門分野を問わない場合は、共通の学習成果の想定（37.1%）と内容の標準化（32.5%）に対する該当率（イメージとして当てはまると選ばれた率）には大差がないにもかかわらず、専門分野が同じ場合、共通の学習成果の想定（58.6%）に比べ、内容の標準化はイメージされづらい（8.1%）と見られる点である。一因としては、専門分野別の内容に関する設問文において、「ほぼ同一である」という強い表現を用いたことが、選択を躊躇させたということが考えられる。



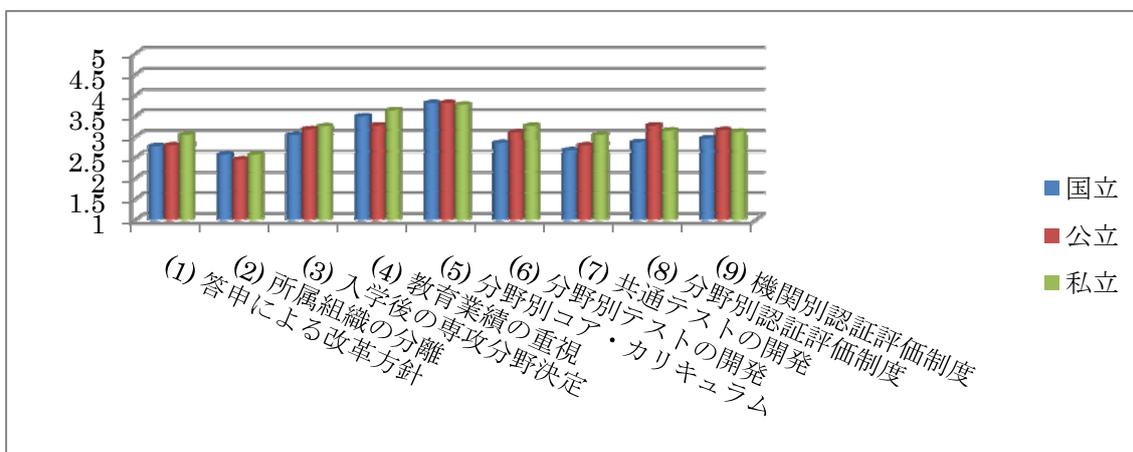
図表 7-2 「学士課程教育」のイメージ

2. 設置形態別の傾向

(1) 近年の改革動向×設置形態

近年の改革動向に対する賛否を設置形態別にみると、総じて私立大学の学科長が肯定的であることが窺える（図表 7-3）。

分野別認証評価制度については、公立大学で値が大きいですが、次節の分析結果を勘案すると、これは看護系の専門分野が多いことに由来するものと言える。

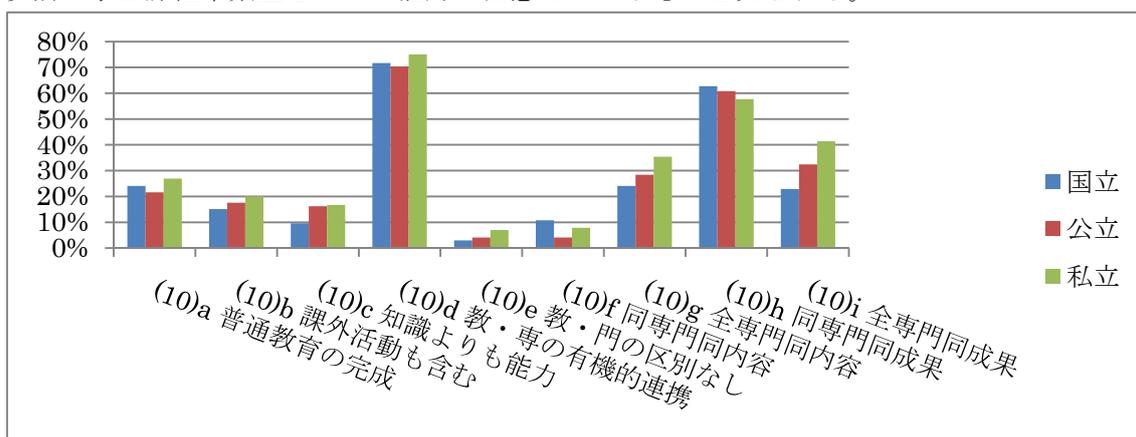


図表 7-3 設置形態別にみた改革動向への賛否

(2) 「学士課程教育」のイメージ×設置形態

「学士課程教育」へのイメージでは、設置形態別に一定の傾向が看取できるわけではないが、内容によっては該当率に明らかな違いが確認できる（図表 7-4）。

特徴的なのは、専門分野を問わない内容（(10)g）・成果（(10)i）の共通性では私立大学での該当率が高く、専門分野毎（(10)f および(10)h）では、国立大学のそれが高くなっていることである。今回の調査では、私立大学に学力が低いとする学科が多いため、専門分野の以前に学士課程卒業生としての能力に注意しているものと見られる。



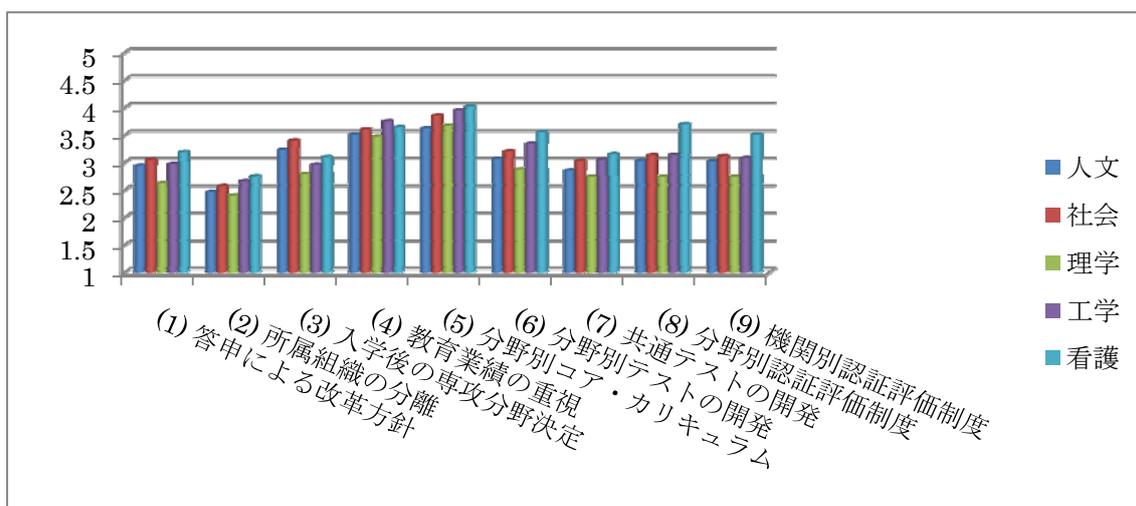
図表 7-4 設置形態別にみた「学士課程教育」へのイメージ

3. 専門分野別の傾向

(1) 近年の改革動向×専門分野

専門分野別の改革動向への賛否を示した図表 7-5 を見ると、全体として看護系学科では肯定的であり、理学系学科では否定的であるという傾向が読み取れる。

例外的なのは、入学後の専攻分野決定（late specialization）に対しては、人文系と社会系が肯定的な点である。他の分野に比べ積み上げ学修の必要性がそれほど大きくないことが、こうした結果につながっていると言える。

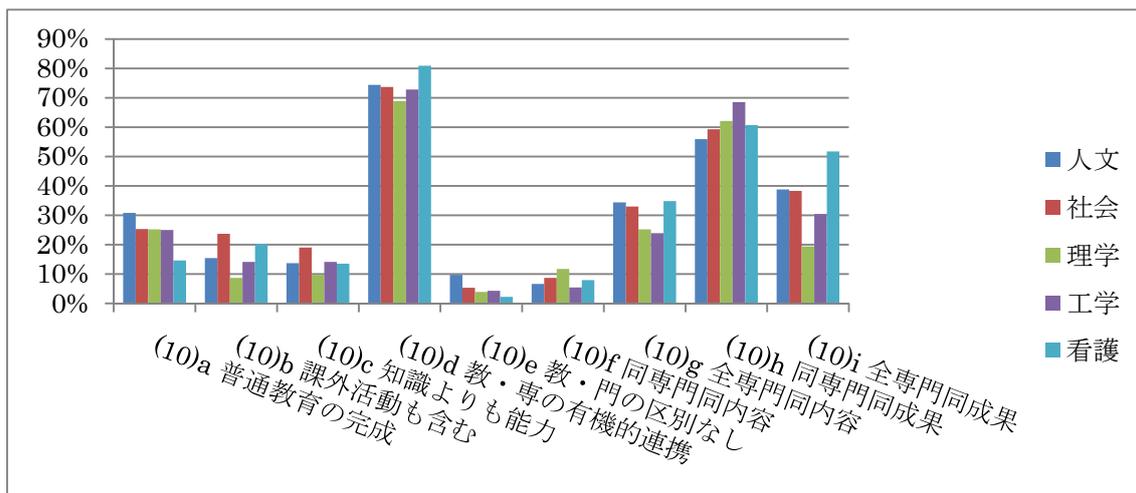


図表 7-5 専門分野別にみた改革動向への賛否

(2) 「学士課程教育」のイメージ×専門分野

設置形態別の分析結果と同じく、「学士課程教育」のイメージと専門分野の間には、一貫した傾向が見られるわけではない(図表 7-6)。

その中で目を引くのは、専門分野を問わない教育内容と学習成果の標準化に対する、看護系学科の回答である。職業へのつながりがはっきりしていることを考えると、専門を離れた標準化への意識は強くないように思われるが、同様の特徴がある工学系とは対照的に、該当率が高くなっている。人間教育の重視、短期大学からの昇格など、幾つか原因は考えられるが、詳しい分析を待たなければ、正確なところは不明である。

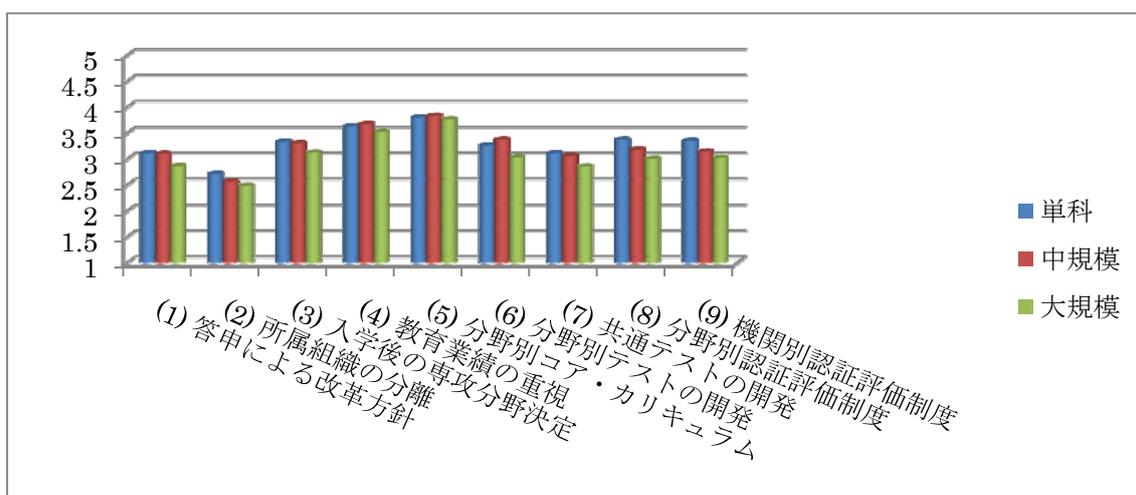


図表 7-6 専門分野別にみた「学士課程教育」へのイメージ

4. 大学規模別の傾向

(1) 近年の改革動向×大学規模

回答傾向との関係で最後に確認する学科属性は、大学の規模(学部数)である。図表 7-7 では、改革動向への賛否を見ている(中規模は 2~4 学部、大規模は 5 学部以上)。



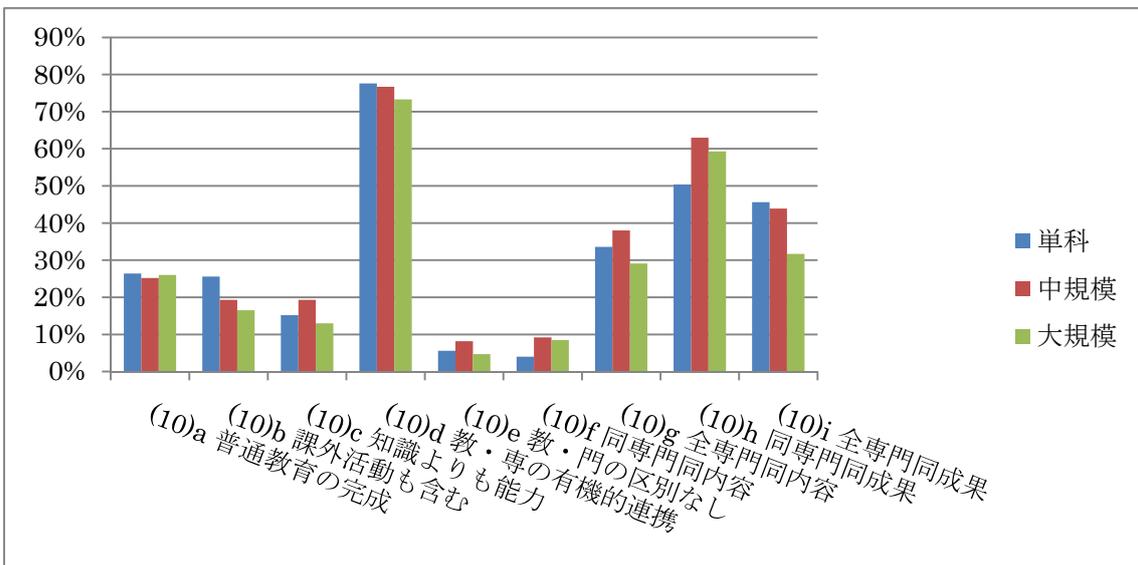
図表 7-7 大学規模別にみた改革動向への賛否

全体として、単科大学では肯定的であり、規模が大きくなるにつれて回答平均値は下がっている。特に認証評価に対してはその傾向が鮮明であり、学科間、学部間での調整の難しさを表しているようにも見える。

(2) 「学士課程教育」のイメージ×大学規模

「学士課程教育」のイメージとして、規模が大きくなるほど該当率が下がるという一定の傾向が見られるのは、課外活動も含む、教養教育と専門教育の有機的連携、専門分野を問わず全ての学生に一定水準の学習成果を期待する、の3点である(図表7-8)。

その中でも一定水準の学習成果については、単科・中規模大学と大規模大学の間で10%以上の開きがある。大規模大学の学科長は、他学部・他学科の学生と日々接する中で、専門を問わず最低水準の学習成果を想定することは現実的に難しい、と感じているのかもしれない。



図表 7-8 大学規模別にみた「学士課程教育」へのイメージ

5. 学科属性の相対的影響力

(1) 近年の改革動向

ここまでは、学科属性と回答の関係を個別に見てきたが、本節では、複数の学科属性を同時に分析することにより、設置形態や専門分野といった各属性が回答の規定要因として、他の属性を考慮した上でどの程度の影響力を持っているのかを検証する。

近年の改革動向に対する賛否に関しては、もともとの1~5の回答を従属変数として重回帰分析を行う。説明変数は、設置形態(基準値、私立)と専門分野(同、看護学系学科)のダミー変数、所属学生の学力(「低い」1~5「高い」)、学部数、学科定員である。

分析の結果は図表7-9にまとめた通りである。説明変数が統計的に有意な正の係数を有する場合には+、負の係数の場合には-が示されており、その他の場合は図表の簡略化のために表示していない。正負の記号に付された*印は有意水準の程度を表すもので、数が多いほどはっきりした傾向があると言える。

学科属性のうち、設置形態や学科定員はほとんど影響が見られないが、専門分野、所属学生の学力、学部数には、改革動向に対する賛否との間に有意な関係が看取できる。

興味深いのは、所属学生の学力が低い学科ほど、客観テストの開発に肯定的であるという点である。学習成果保証への危機感・責任感が、こうした結果につながっている可能性がある。また、既に言及した様に、大規模大学は機関別認証評価制度に消極的であるが、これは他の条件を統制しても確認できる傾向である。

図表 7-9 改革動向への意見と学科属性の関係

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
設置形態	国立									
	公立	.*								
専門分野	人文		.*			.**	.**	.*	****	
	社会						.*		.**	
	理学	.**				.*	.*		****	.**
	工学								.*	
学力							.*	.*		
学部数		.*								.**
学科定員										
調整済み R ²		.058	.018	.019	.015	.024	.048	.034	.045	.042
F 値の有意水準		.000	.022	.016	.037	.006	.000	.001	.000	.000

(2) 「学士課程教育」のイメージ

図表 7-10 には、「学士課程教育」のイメージについて、前項と同趣旨の分析をした結果を示した。ただし回答が 2 値変数のため、ロジスティック回帰分析を行っている。

一見して明らかな通り、複数の変数を統制した分析を行うと、統計的に有意な関係性はほとんどない。さらに、これは改革動向への賛否についても当てはまることだが、決定係数の値が小さく、学科属性からは改革動向に対する回答者の意識の違いはほとんど説明できていないことが分かる。教育観等、回答者個人の属性を考慮する必要が窺える。

図表 7-10 「学士課程教育」のイメージと学科属性の関係

		(10)a	(10)b	(10)c	(10)d	(10)e	(10)f	(10)g	(10)h	(10)i
設置形態	国立							.*		
	公立									
専門分野	人文	.*								
	社会									
	理学									.**
	工学									
学力										
学部数										
学科定員										
Nagelkerke R ²		.025	.056	.030	.012	.067	.028	.043	.031	.056
χ ² 値の有意水準		.336	.031	.285	.841	.075	.605	.029	.131	.003

注：本章における質問項目の略称と設問文の関係は次の通り。

- (1) 答申による改革方針・・・・・・・・(1) 中央教育審議会答申による改革方針の提示
- (2) 所属組織の分離・・・・・・・・(2) 教員と学生の所属組織の分離
- (3) 入学後の専攻分野決定・・・・・・・・(3) 入学後に専攻分野を決める方式 (late specialization)
- (4) 教育業績の重視・・・・・・・・(4) 教員業績評価における教育業績の重視
- (5) 分野別コア・カリキュラム・・・・・・・・(5) 専門分野別コア・カリキュラムの開発
- (6) 分野別テストの開発・・・・・・・・(6) 専門分野別に汎用的能力を測る客観テストの開発
- (7) 共通テストの開発・・・・・・・・(7) 専門分野を超えた共通の様式で汎用的能力を測る客観テストの開発
- (8) 分野別認証評価制度・・・・・・・・(8) 専門分野別の認証評価制度
- (9) 機関別認証評価制度・・・・・・・・(9) 機関別の認証評価制度
- (10)a 普通教育の完成・・・・・・・・(10)a 普通教育の完成を目的とする
- (10)b 課外活動も含む・・・・・・・・(10)b 課外活動も含む
- (10)c 知識よりも能力・・・・・・・・(10)c 知識よりも能力を重視する
- (10)d 教・専の有機的連携・・・・・・・・(10)d 教養教育（あるいは共通教育）と専門教育が有機的に連携している
- (10)e 教・門の区別なし・・・・・・・・(10)e 教養教育と専門教育の区別がない
- (10)f 同専門同内容・・・・・・・・(10)f 専門分野が同じであれば、どの大学であっても
教育内容はほぼ同一である
- (10)g 全専門同内容・・・・・・・・(10)g 専門分野や大学を問わず、すべての学生に提供すべき教育内容がある
- (10)h 同専門同成果・・・・・・・・(10)h 専門分野ごとに、全卒業生に要求される最低水準の学習成果がある
- (10)i 全専門同成果・・・・・・・・(10)i 専門分野を問わず、全卒業生に共通して要求される
最低水準の学習成果がある

第八章 「GP と大学改革」 ～GP 採択大学は教育改革が進んでいるのか～

濱名 篤（関西国際大学）

学士課程教育の改革にあたって、文部科学省は平成 17 年度から「特色ある大学教育支援プログラム（いわゆる「特色 GP」）を皮切りに、大学改革推進のための競争的資源配分を今日まで継続してきた。例えば、特色 GP の趣旨をみると「大学教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことにより、国公私立大学を通じ、教育改善の取組について、各大学及び教員のインセンティブになるとともに、他大学の取組の参考になり、高等教育の活性化が促進される」ことが目的とされている。

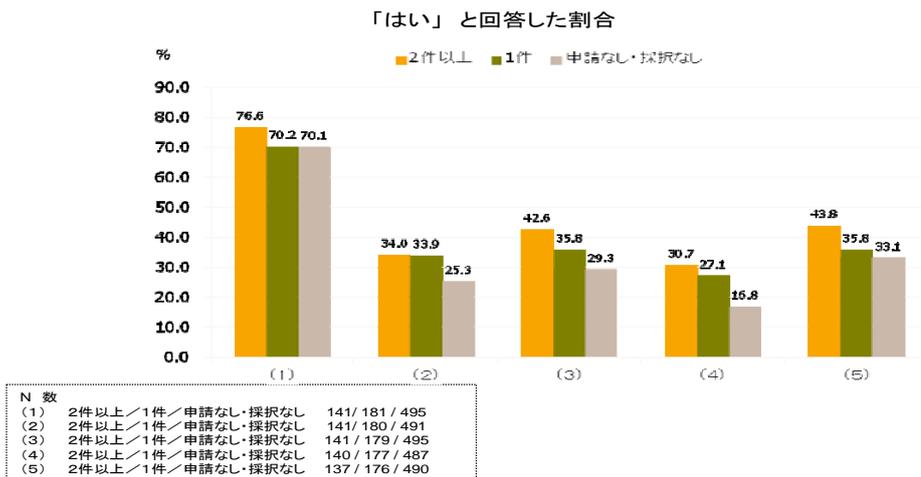
本調査では、これまでの GP の採択件数を質問項目に加えている。下記の図 1、図 2 では、各種 GP の採択回数「2 回以上」、「1 回」「採択なし・申請なし」に分けて集計した。

1) 学科における教育プログラムの設計

図 1-1 学科における教育プログラムの設計状況（1）（GP 採択回数別）

学科における教育プログラムの設計について（GP 採択回数別）（1）

- (1) シラバスに、期待される学習成果が明示されている
- (2) シラバスに当該授業科目と、学部ないし学科の目標との関係が明示されている
- (3) シラバスの内容について、授業担当者以外が検討し、修正を求めることがある
- (4) 全学ないし学部の目標と、学科の目標との関係を図式化した資料がある
- (5) 学科の目標と、各授業科目との関係を図式化した資料がある



40

学科の教育プログラムについては、図 1-1 の(3)「シラバスの内容について、授業担当者以外が修正を求めることがある」、(4)「全学ないし学部の教育目標と、学科の目標を図式化

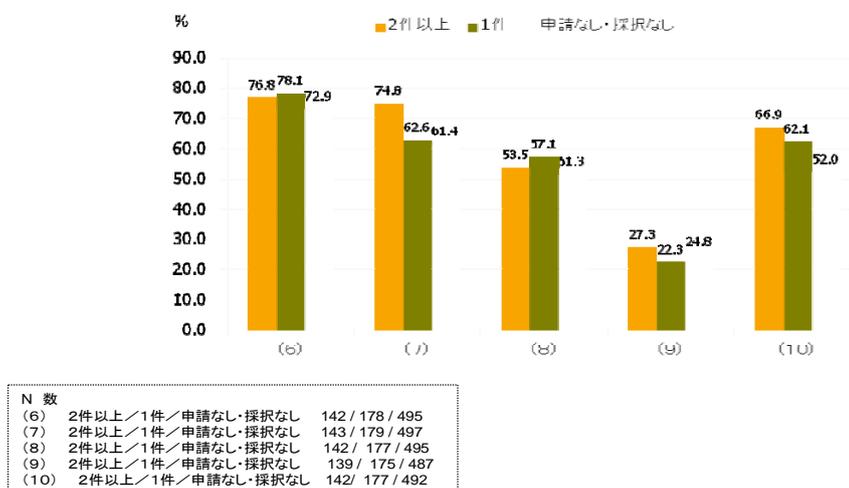
した資料がある」、(5)「学科の目標と、各授業科目との関係を図式化した資料がある」、図1-2の(7)「半期15週の授業期間を確保している」などの項目で、「GP2回以上」の大学では、「GP1回」や「未採択や非申請」大学に比べ、中教審や文科省の推進する教育改革が進んでいる傾向を示している。

図1-2 学科における教育プログラムの設計状況(2)(GP採択回数別)

Ⅲ. 学科における教育プログラムの設計について(GP採択回数別)(2)

- (6) カリキュラムの編成について、上位組織(学部ならば全学、学科等ならば学部)による確認・承認手続きがある
- (7) 半期あたり15週の授業期間(定期試験を除く)を確保している
- (8) 一週間に複数回開講される授業が
- (9) 年換算で40単位以下の履修登録単位数制限がある
- (10) テーマ・目標を共有し、担当教員間で内容を調整した、学生に集中履修させる科目群を設定している

「はい」と回答した割合



41

2) 教育内容や教育方法の改善

次に、GP採択回数の多い大学では、教育内容や教育方法の改善が実際に進んでいるのかをみると(図2)、「採点された試験・テストの返却」については、採択回数の多い大学ほど実施している傾向が強い。

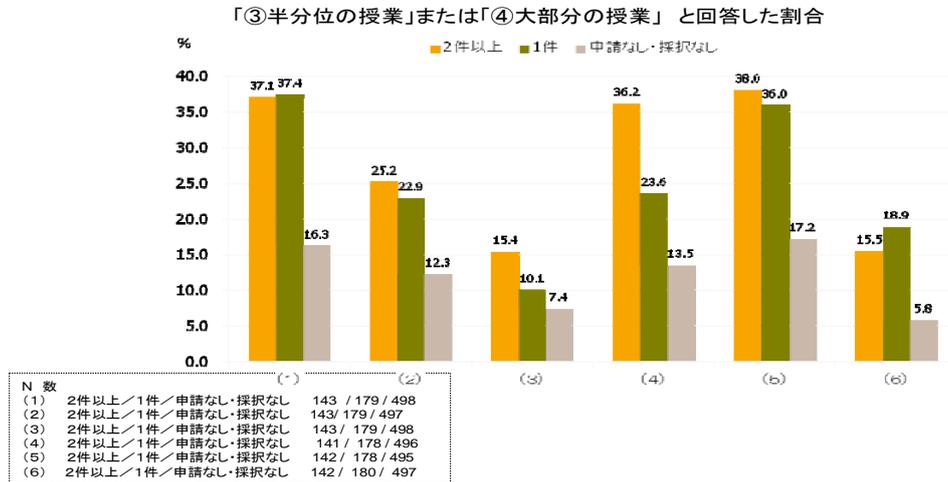
また、(1)「学生の能動的な授業参加」、(2)「グループ作業やディスカッション」、(5)「授業街での学習を促進するための具体的指示」、(6)「現実社会の問題を実際に取り入れて学ぶ機会」などの項目では、一度でもGPに採択されたことのある大学と、それ以外の大学では実施率が約2倍の開きがあり、大きな差がある。

GP事業には様々なものがあり、それぞれの選考方法や基準が異なることもあり、ひと括りにはできないという意見もあるかもしれないが、少なくとも平成20年度までのGP事業の採択大学、中でも複数回の採択経験のある大学は、採択されたことのない大学や、20年度まででいえば全大学の半数に近いといわれる、“申請したことがない”大学に比べ、非常に前向きに大学改革を実践しているといえよう。

図2 学科における教育プログラムの実施状況（GP 採択回数別）

**IV. 学科における教育プログラムの実施（各授業での教育方法）について
（GP採択回数別）**

- (1) 質疑や発表などによる、学生の能動的な授業参加
- (2) グループで作業やディスカッションをする機会
- (3) 学生自身が課題を設定し、調査・研究する機会
- (4) 採点された試験・テストの返却
- (5) 授業時間外学習を促進するための具体的な指示
- (6) 現実社会の問題を取り入れて学ぶ機会（インターンシップや実地研修などを含む）



42

3) 学習成果の把握

学習成果をどのように把握するかは、学習目標の達成度や学習成果を重視する学士課程教育答申の中核部分であるといってもいい。

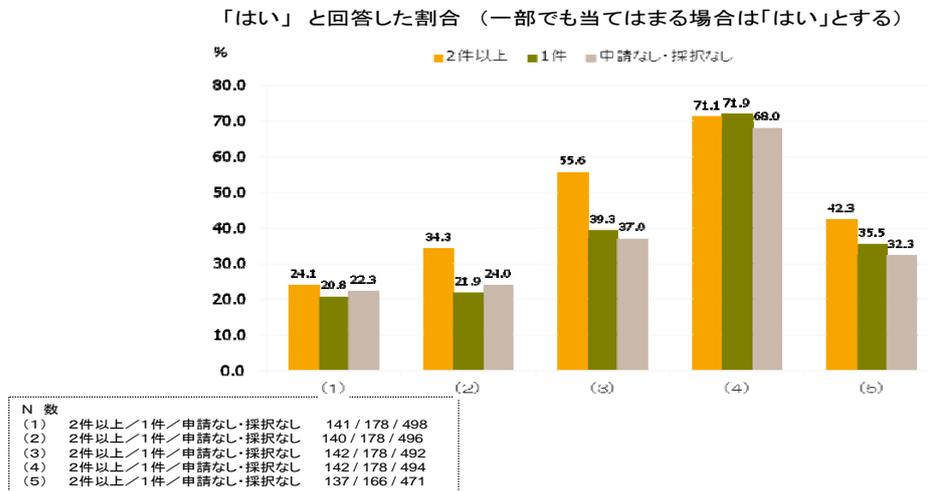
図3-1と図3-2でGP採択経験に基づいて各項目を比較すると、(2)「多元的な成績評価の遵守に関する申し合わせがある」(5)「担当者が異なる同一科目では共通の試験問題を利用している」(6)試験問題の妥当性を教員相互でチェックしている(7)学習成果の記録(学習ポートフォリオ)を学生に作成させている(9)「在学生調査や卒業生調査において、学習成果の獲得状況を確認している」等では、「GP採択2度以上」の大学において、いずれも実施率が高い。

GPの採択率の高い大学とは、教育改革の中でも、特に学習成果の把握の側面において、他大学より組織的に取り組んでいるとみることができる。教育内容や教育方法の改革にとどまらず、教育成果の把握を実現していくことが、学外からも教育改革への取組を評価してもらうための必要条件となっているのかもしれない。特に、2度以上採択されるには、こうした組織的取組が鍵になっているのであろう。

図3-1 学科における学習成果の把握・評価（1）（GP採択回数別）

V. 学科における学習成果の把握・評価について（1）（GP採択回数別）

- (1) 成績分布に関する申し合わせがある
- (2) 多面的な成績評価の遵守に関する申し合わせがある
- (3) 成績の採点基準に関する申し合わせがある
- (4) 学生による授業評価において、学習成果の獲得状況を確認している
- (5) 担当者が異なる同一科目では共通の試験問題を利用している

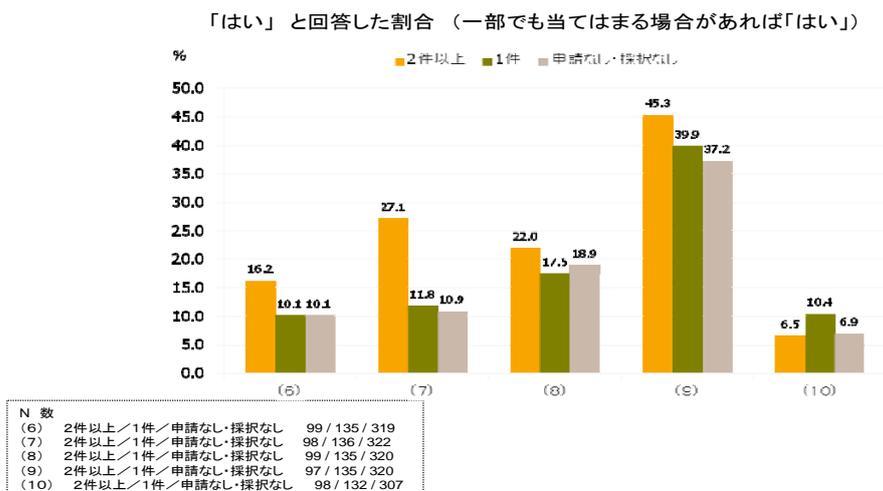


43

図3-2 学科における学習成果の把握・評価（2）（GP採択回数別）

V. 学科における学習成果の把握・評価について（2）（GP採択回数別）

- (6) 試験問題の妥当性を教員相互でチェックしている
- (7) 学習成果の記録(学習ポートフォリオ)を学生に作成させている
- (8) 進級・卒業において一定基準以上のGPAを要求している
- (9) 在学生調査や卒業生調査において、学習成果の獲得状況を確認している
- (10) 学内で独自に開発した客観テストを利用している



44

4) 教育改革への自己評価

最後に、教育改革の取組を自己評価してもらった。

13 項目中 GP の採択度によって有意な差があったのは 5 項目であり、いずれも「GP 採択 2 回以上」の大学とそれ以外のだいがくとの差が大きい。図 4-1 では、(1)学科としての教育・学習目標の具体化、(2)目標に対応した教育プログラムの設計、(3)目標に対応した教育プログラムの実施、図 4-2 では(10)改革のための資金調達(学内・学外問わず)、(11)教育・学習目標の設定における学外識者の参画、についていずれも「うまくいっている」が他の大学より著しく多い。その内容は、目標設定、教育プログラムの設計及び実施にまで及び、学外者の参画についても、相対的には順調であり、それらの結果もあってか外部資金の獲得も比較的うまくいっている。

とはいえ、うまくいってと答える学科長は、絶対値で見れば最も多い「学科としての教育・学習目標の設定」でも 3 分の 1 に過ぎず、到底学士課程教育の改革がうまくいっているとまではいえない。

しかし、GP2 度以上の大学で相対的に改革が進んでいることをみると、大学の基盤的経費への国による支援強化が大前提でありながら、それらの拡充ができていない状況において、競争的資金による高等教育の質保証促進は、一定の効果があがっているとみてもいいであろう。ただし、こうした競争的資金を 1 度取得したからといって、それが直ちに改革や効果につながるとはいえず、複数回の取得に至ってやっとその成果に信頼性が出てくるというのが現状であろう。

図 4-1 学科における教育改革への自己評価 (1) (GP 採択回数別)

VI. 学科の取り組み状況に対する考え (1) (GP採択回数別)

- (1) 学科としての教育・学習目標の具体化
- (2) 目標に対応した教育プログラムの設計
- (3) 目標に対応した教育プログラムの実施
- (4) 学習成果の把握・評価
- (5) PDCAサイクルの運用
- (6) 全学的に管理されている各種データ(学籍情報や学生調査の結果等)に基づいた学科の方針決定・運営
- (7) 改革に対する所属教員の動機付け

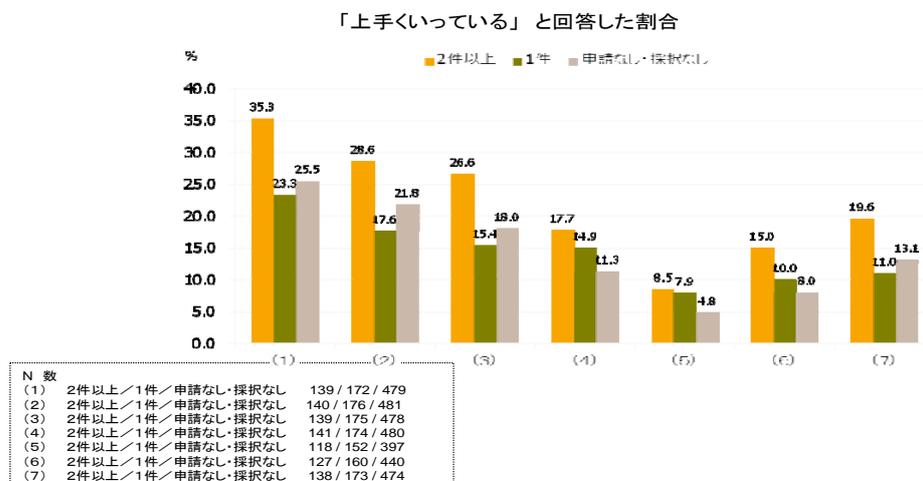
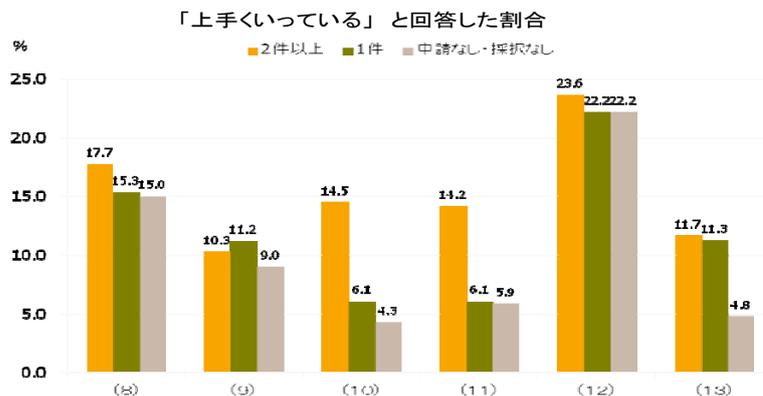


図 4-2 学科における教育改革への自己評価（2）（GP 採択回数別）

VI. 学科の取り組み状況に対する考え（2）（GP採択回数別）

- (8) 教員の職能開発(FD)
- (9) 職員の職能開発(SD)
- (10) 改革のための資金調達(学内・学外問わず)
- (11) 教育・学習目標の設定における学外識者の参画
- (12) 教育プログラムの実施における学外識者等の参画(例:オムニバス授業の担当等)
- (13) 学習成果の評価・把握における学外識者等の参画(例:研究報告会への参加等)



N 数		
(8)	2件以上 / 1件 / 申請なし・採択なし	141 / 176 / 480
(9)	2件以上 / 1件 / 申請なし・採択なし	136 / 161 / 444
(10)	2件以上 / 1件 / 申請なし・採択なし	138 / 165 / 442
(11)	2件以上 / 1件 / 申請なし・採択なし	106 / 132 / 358
(12)	2件以上 / 1件 / 申請なし・採択なし	127 / 158 / 415
(13)	2件以上 / 1件 / 申請なし・採択なし	120 / 142 / 376

学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査

2008年12月に中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」が出されたのを受けて、現在我が国の大学関係者にとっては、学士課程教育の在り方が課題とされております。このような中、私も日本私立大学協会付置の私学高等教育研究所では、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室のご理解ご支援を頂き、国公立大学の学士課程教育の構築に向けた取り組みについて、教育の実践単位としての学科レベルに注目してこのアンケート調査を計画いたしました。日頃、学科長の皆様が、どのように学士課程教育の構築について考えておられ、実際に学生の学士課程の卒業をどのような仕組みで認定しておられるのかなど、教育改革の状況に関する教育現場の実態を調査しようとするものです。

本アンケートは、対象とさせていただいた人文、社会、理学、工学、看護学の学部・学科をおく大学の学科長の中から、サンプリングによって選ばせて頂いた学科長の先生に、現在の貴学科の状況をお伺い致します。ご回答は、**2009年9月25日(金)までに**、同封の返信用封筒にてご返送ください。ご回答は、すべて統計的に処理し、個別の大学・学部・学科名を公表することはありません。公務ご多用のところ、誠に恐縮ではございますが、なにとぞ調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますことを謹んでお願い申し上げます。

2009年9月
日本私立大学協会付置私学高等教育研究所
プロジェクト代表 濱名篤 (関西国際大学 学長)

なお、アンケート調査についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】 〒673-0521 兵庫県三木市志染町青山 1-18 関西国際大学 高等教育研究開発センター 吉田
TEL : 06-6496-4183 E-Mail : itaku-jimu@kuins.ac.jp

*本調査では課程、コースを含む学科等の組織を、「学科」と総称しています。

*特に指示がない場合は、各問について当てはまるものをひとつ選び、番号に○を付けて下さい。

I. 貴学科の現状について伺います。*5年程度前との比較でお答えください。

(1) 学科の意思決定に対する全学・学部の影響力	⑥ 分からない
弱まっている①・・・②・・・③・・・④・・・⑤強まっている	
(2) 学科の意思決定における学科長の役割	⑥ 分からない
弱まっている①・・・②・・・③・・・④・・・⑤強まっている	
(3) 受験者数	⑥ 分からない
減少している①・・・②・・・③・・・④・・・⑤増加している	
(4) 学生の中退率	⑥ 分からない
悪化している①・・・②・・・③・・・④・・・⑤改善している	
(5) 教育に対する学生の満足度	⑥ 分からない
低下している①・・・②・・・③・・・④・・・⑤高まっている	
(6) 学生の就職先での評判	⑥ 分からない
低下している①・・・②・・・③・・・④・・・⑤高まっている	

II. 貴学部・貴学科における教育・学習目標(ディプロマ・ポリシー)の設定について伺います。

(1) <u>学部としての教育・学習目標</u> が明文化されている。	①はい ②いいえ [II(4)にお進み下さい]
(2) 学部の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えて下さい。	
①提供者(教員)の立場から定義(例:専門の学問を教授する)	
②学習者(学生)の立場から定義(例:専門の学問を身に付ける)	
③学習者(学生)の立場から、行動目標を定義(例:～学の基礎理論を説明することが出来る)	
(3) 学部の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えて下さい。	
①学部で独自に検討・決定	
②学部で検討した後、全学的な審議を経て決定	
③全学共通の指針が存在し、それに沿って学部で検討・決定	

(4) <u>学科としての教育・学習目標が明文化されている。</u> ①はい ②いいえ [Ⅲにお進み下さい]
(5) 学科の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えて下さい。 ①提供者（教員）の立場から定義（例：専門の学問を教授する） ②学習者（学生）の立場から定義（例：専門の学問を身に付ける） ③学習者（学生）の立場から、行動目標を定義（例：～学の基礎理論を説明することが出来る）
(6) 学科の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えて下さい。 ①学科で独自に検討・決定 ②学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定 ③学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定

Ⅲ. 貴学科における教育プログラムの設計について伺います。

	いいえ	検討中	はい
(1) シラバスに、期待される学習成果が明示されている	①	②	③
(2) シラバスに当該授業科目と、学部ないし学科の目標との関係が明示されている	①	②	③
(3) シラバスの内容について、授業担当者以外が検討し、修正を求めることがある	①	②	③
(4) 全学ないし学部の目標と、学科の目標との関係を図式化した資料がある	①	②	③
(5) 学科の目標と、各授業科目との関係を図式化した資料がある	①	②	③
(6) カリキュラムの編成について、上位組織（学部ならば全学、学科等ならば学部）による確認・承認手続きがある	①	②	③
(7) 半期あたり 15 週の授業期間（定期試験を除く）を確保している	①	②	③
(8) 一週間に複数回開講される授業がある	①	②	③
(9) <u>年換算で 40 単位以下の履修登録単位数制限がある</u>	①	②	③
(10) テーマ・目標を共有し、担当教員間で内容を調整した、学生に集中履修させる科目群を設定している	①	②	③

Ⅳ. 貴学科における教育プログラムの実施（各授業での教育方法）について伺います。

	ほとんど ない	特定授業 である	半分位の 授業である	大部分の 授業である	全授業で ある
(1) 質疑や発表などによる、学生の能動的な授業参加	①	②	③	④	⑤
(2) グループで作業やディスカッションをする機会	①	②	③	④	⑤
(3) 学生自身が課題を設定し、調査・研究する機会	①	②	③	④	⑤
(4) 採点された試験・テストの返却	①	②	③	④	⑤
(5) 授業時間外学習を促進するための具体的な指示	①	②	③	④	⑤
(6) 現実社会の問題を取り入れて学ぶ機会 (インターンシップや実地研修などを含む)	①	②	③	④	⑤

(7) 教育プログラムの実施について、学科として何らかの取り決めが存在する場合、その内容を教えて下さい。

V. 貴学科における学習成果の把握・評価について伺います（一部でも当てはまる場合は「はい」とお答え下さい）。

	いいえ	検討中	はい
(1) 成績分布に関する申し合わせがある	①	②	③
(2) 多角的な成績評価の遵守に関する申し合わせがある	①	②	③
(3) 成績の採点基準に関する申し合わせがある	①	②	③
(4) 学生による授業評価において、学習成果の獲得状況を確認している	①	②	③
(5) 担当者が異なる同一科目では共通の試験問題を利用している	①	②	③
(6) 試験問題の妥当性を教員相互でチェックしている	①	②	③
(7) 学習成果の記録（学習ポートフォリオ）を学生に作成させている	①	②	③
(8) 進級・卒業において一定基準以上の GPA を要求している	①	②	③
(9) 在学生調査や卒業生調査において、学習成果の獲得状況を確認している	①	②	③
(10) 学内で独自に開発した客観テストを利用している〔②ないし③の場合は(11)へ〕	①	②	③

(11) テストの具体的な内容を教えて下さい。

VI. 貴学科の取り組み状況に対するお考えを伺います。

	難航して いる	上手く いっている	必要性を 感じない
(1) 学科としての教育・学習目標の具体化	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(2) 目標に対応した教育プログラムの設計	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(3) 目標に対応した教育プログラムの実施	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(4) 学習成果の把握・評価	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(5) PDCA サイクルの運用	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(6) 全学的に管理されている各種データ（学籍情報や学生調査の結果等）に基づいた学科の方針決定・運営	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(7) 改革に対する所属教員の動機付け	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(8) 教員の職能開発（FD）	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(9) 職員の職能開発（SD）	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(10) 改革のための資金調達（学内・学外問わず）	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(11) 教育・学習目標の設定における学外識者の参画	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(12) 教育プログラムの実施における学外識者等の参画 （例：オムニバス授業の担当等）	①・・・②・・・③・・・④		⑤
(13) 学習成果の評価・把握における学外識者等の参画 （例：研究報告会への参加等）	①・・・②・・・③・・・④		⑤

(14) 難航している点の具体例について、差し支えない範囲で教えて下さい。

Ⅶ. 近年の改革動向に対するお考えを伺います。

	反対・・・	どちらとも言えない	・・・賛成
(1) 中央教育審議会答申による改革方針の提示	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(2) 教員と学生の所属組織の分離	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(3) 入学後に専攻分野を決める方式 (late specialization)	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(4) 教員業績評価における教育業績の重視	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(5) 専門分野別コア・カリキュラムの開発	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(6) 専門分野別に汎用的能力を測る客観テストの開発	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(7) 専門分野を超えた共通の様式で汎用的能力を測る客観テストの開発	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(8) 専門分野別の認証評価制度	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(9) 機関別の認証評価制度	①・・・	②・・・	③・・・④・・・⑤
(10) 「学士課程教育」という用語からイメージされる事柄として、当てはまるものすべてに○を付けて下さい。 a. 普通教育の完成を目的とする b. 課外活動も含む c. 知識よりも能力を重視する d. 教養教育（あるいは共通教育）と専門教育が有機的に連携している e. 教養教育と専門教育の区別がない f. 専門分野が同じであれば、どの大学であっても教育内容はほぼ同一である g. 専門分野や大学を問わず、すべての学生に提供すべき教育内容がある h. 専門分野ごとに、全卒業生に要求される最低水準の学習成果がある i. 専門分野を問わず、全卒業生に共通して要求される最低水準の学習成果がある			

Ⅷ. 貴学科の概要について伺います。

(1) 大学・学部・学科の名称を教えてください。 _____	(2) 貴学の設置形態を教えてください。 国立 公立 私立
(3) 貴学の学部等（学生の所属組織）の数を教えてください。 _____ 学部	(4) 貴学部の学科数を教えてください。 _____ 学科
(5) 貴学部の平成21年度における第1学年の入学者数を教えてください。 ①～100人 ②101～200人 ③201～300人 ④301～400人 ⑤401～500人 ⑥501～1000人 ⑦1001人～	
(6) 平成21年度現在、貴学科に所属する学生数を教えてください。 ①～10人 ②11～20人 ③21～30人 ④31～40人 ⑤41～50人 ⑥51～100人 ⑦101～200人 ⑧201人～	
(7) 貴学科の専門領域は、次の内どれに最も近いですか。 ①人文科学系 ②社会科学系 ③教育学系（体育を含む） ④理学系 ⑤工学系 ⑥農学系 ⑦医歯薬学系 ⑧保健・福祉系 ⑨芸術系 ⑩家政系 ⑪その他（ ）	
(8) 認証評価の受審状況を教えてください。 ①昨年(2008年)度までに受審 ②本年(2009年)度受審中 ③来年(2010年)度に受審予定 ④未定	
(9) 各種 GP の申請・採択状況を教えてください（貴学科が関わっていれば申請の単位は問いません）。 ①申請したことがない ②申請はしているが採択はない ③1件採択された ④2件以上採択された	
(10) 貴学科の学生の学力は平均して、全国レベルで見てどのあたりに位置するとお考えですか。 低い 平均 高い ①・・・・・・②・・・・・・③・・・・・・④・・・・・・⑤	

ご協力ありがとうございました。

有効回答分布一覧表

I. 貴学科の現状について伺います。*5年程度前との比較でお答えください。

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(1) 学科の意思決定に対する全学・学部の影響力	(N) 813	157	67	584 **	207	266	98	85	74	258	273	214
① 弱まっている	1.7	2.5	1.5	1.5	0.5	2.3	1.0	1.2	2.7	2.3	2.6	0.5
②	7.6	3.2	9.0	8.7	6.8	7.5	3.1	5.9	14.9	8.9	8.4	3.7
③	42.4	32.5	34.3	45.7	41.5	42.5	42.9	48.2	31.1	41.9	40.7	41.6
④	31.6	39.5	29.9	29.8	33.3	31.6	27.6	32.9	33.8	30.2	32.2	37.4
⑤ 強まっている	16.6	22.3	25.4	14.2	17.9	16.2	25.5	11.8	17.6	16.7	16.1	16.8
計	99.9	100.0	100.1	99.9	100.0	100.1	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0
(2) 学科の意思決定における学科長の役割	(N) 808	155	69	579	205	258	99	88	74 *	255	277	208
① 弱まっている	4.0	3.2	5.8	4.0	5.4	4.3	4.0	0.0	1.4	6.7	4.0	1.9
②	10.4	11.0	11.6	10.0	8.8	12.0	7.1	11.4	10.8	11.8	10.1	7.7
③	57.9	57.4	59.4	58.0	58.5	58.9	67.7	56.8	41.9	56.5	57.0	59.1
④	20.7	20.0	15.9	21.2	21.0	19.0	15.2	23.9	31.1	18.0	23.1	23.1
⑤ 強まっている	7.1	8.4	7.2	6.7	6.3	5.8	6.1	8.0	14.9	7.1	5.8	8.1
計	100.1	100.0	99.9	99.9	100.0	100.0	100.1	100.1	100.1	100.1	100.0	99.9
(3) 受験者数	(N) 873	159	71	638 ***	226	292	101	90	78 *	285	298	218 ***
① 減少している	15.7	7.5	1.4	19.1	17.7	15.4	13.9	16.7	19.2	35.8	6.4	2.3
②	33.8	30.2	19.7	36.3	34.1	29.1	36.6	36.7	37.2	36.8	37.9	24.3
③	28.1	44.7	52.1	21.5	26.5	25.3	39.6	27.8	24.4	13.7	32.6	40.8
④	15.3	13.2	22.5	15.0	15.0	20.9	9.9	13.3	10.3	9.1	16.1	22.5
⑤ 増加している	7.1	4.4	4.2	8.2	6.6	9.2	0.0	5.6	9.0	4.6	7.0	10.1
計	100.0	100.0	99.9	100.1	99.9	99.9	100.0	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0
(4) 学生の中退率	(N) 862	159	70	628 *	224	287	100	90	80	281	292	218 ***
① 悪化している	2.2	1.3	0.0	2.7	2.2	2.8	1.0	2.2	2.5	5.3	0.7	0.5
②	17.8	11.9	5.7	20.4	18.3	17.8	19.0	15.6	12.5	27.8	14.7	8.7
③	58.8	64.2	68.6	56.2	61.2	53.3	68.0	61.1	65.0	49.5	62.7	66.1
④	15.2	15.1	18.6	15.0	12.1	18.8	9.0	17.8	11.3	14.2	15.8	14.7
⑤ 改善している	6.1	7.5	7.1	5.7	6.3	7.3	3.0	3.3	8.8	3.2	6.2	10.1
計	100.1	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1	100.1
(5) 教育に対する学生の満足度	(N) 837	153	67	612	219	278	95	89	76	270	284	212 ***
① 低下している	0.4	0.0	0.0	0.5	0.5	0.4	0.0	0.0	1.3	0.4	0.4	0.5
②	5.4	3.9	1.5	6.2	4.6	4.7	7.4	9.0	2.6	9.6	4.6	1.4
③	48.4	45.8	43.3	49.5	49.8	42.4	58.9	58.4	47.4	54.4	51.4	39.6
④	37.4	40.5	50.7	35.3	35.2	43.9	28.4	28.1	38.2	30.0	36.6	45.8
⑤ 向上している	8.5	9.8	4.5	8.5	10.0	8.6	5.3	4.5	10.5	5.6	7.0	12.7
計	100.1	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 学生の就職先での評判	(N) 655	126	57	468	156	222	74	75	66 ***	192	225	181 ***
① 低下している	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
②	4.7	3.2	3.5	5.3	3.2	3.6	10.8	9.3	3.0	8.9	4.4	1.1
③	51.5	61.1	43.9	49.6	53.2	54.1	71.6	52.0	25.8	55.7	56.0	44.2
④	33.0	26.2	42.1	33.8	32.7	32.0	14.9	29.3	50.0	29.2	33.3	35.4
⑤ 向上している	10.7	9.5	10.4	11.1	10.9	9.9	2.7	9.3	21.2	5.7	6.2	19.3
計	###	###	99.9	###	###	###	###	99.9	###	###	99.9	###

II. 貴学部・貴学科における教育・学習目標(ディプロマ・ポリシー)の設定について伺います。

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(1) 学部としての教育・学習目標が明文化されている。	(N) 897	166	74	652	225	296	102	92	89	287	305	228
① はい	90.0	90.4	93.2	89.6	89.3	88.9	88.2	92.4	93.3	86.8	91.1	91.7
② いいえ	10.0	9.6	6.8	10.4	10.7	11.1	11.8	7.6	6.7	13.2	8.9	8.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(2) 学部の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えてください。	(N) 677	120	62	492	169	228	76	68	67 **	211	233	174
① 提供者(教員)の立場から定義(例:専門の学問を教授する)	38.3	34.2	40.3	39.0	41.4	39.5	40.8	35.3	28.4	38.9	33.9	43.1
② 学習者(学生)の立場から定義(例:専門の学問を身に付ける)	48.4	49.2	50.0	48.2	53.8	46.9	42.1	42.6	44.8	46.9	49.4	48.3
③ 学習者(学生)の立場から、行動目標を定義 (例:~学の基礎理論を説明することが出来る)	13.3	16.7	9.7	12.8	4.7	13.6	17.1	22.1	26.9	14.2	16.7	8.6
計	100.0	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0
(3) 学部の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えてください。	(N) 690	124	62	501 **	172	233	76	68	68	212	240	178 ***
① 学部で独自に検討・決定	41.6	57.3	45.2	37.3	37.2	42.1	55.3	39.7	42.6	30.7	46.7	50.0
② 学部で検討した後、全学的な審議を経て決定	29.9	21.8	35.5	31.1	34.3	30.5	25.0	29.4	22.1	29.2	28.3	33.1
③ 全学共通の指針が存在し、それに沿って学部で検討・決定	28.6	21.0	19.4	31.5	28.5	27.5	19.7	30.9	35.3	40.1	25.0	16.9
計	100.1	100.1	100.1	99.9	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(4) 学科としての教育・学習目標が明文化されている。	(N) 885	162	71	648	225	293	102	91	87 ***	284	303	221
① はい	86.3	85.8	83.1	87.0	90.7	78.8	86.3	96.7	90.8	83.5	86.8	87.8
② いいえ	13.7	14.2	16.9	13.0	9.3	21.2	13.7	3.3	9.2	16.5	13.2	12.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(5) 学科の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えてください。	(N) 652	109	54	488	175	206	72	73	63 **	205	220	167
① 提供者(教員)の立場から定義(例:専門の学問を教授する)	36.8	33.9	35.2	37.7	38.3	39.3	40.3	30.1	25.4	36.6	33.6	41.3
② 学習者(学生)の立場から定義(例:専門の学問を身に付ける)	48.3	50.5	48.1	47.7	54.9	45.6	44.4	46.6	46.0	47.8	48.2	47.9
③ 学習者(学生)の立場から、行動目標を定義 (例:~学の基礎理論を説明することが出来る)	14.9	15.6	16.7	14.5	6.9	15.0	15.3	23.3	28.6	15.6	18.2	10.8
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 学科の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えてください。	(N) 655	112	53	489 *	179	205	73	72	60	203	224	166 ***
① 学科で独自に検討・決定	35.4	49.1	30.2	32.9	33.5	30.2	45.2	34.7	41.7	29.6	37.5	40.4
② 学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定	39.2	34.8	39.6	40.1	45.3	40.5	35.6	33.3	31.7	35.0	40.2	45.2
③ 学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定	25.3	16.1	30.2	27.0	21.2	29.3	19.2	31.9	26.7	35.5	22.3	14.5
計	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1	100.1	100.0	100.1

Ⅲ. 貴学科における教育プログラムの設計について伺います。

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(1) シラバスに、期待される学習成果が明示されている	(N) 889	165	74	646 ***	221	298	102	91	87 **	282	304	30
① いいえ	12.8	8.5	16.2	13.6	16.7	13.1	11.8	8.8	8.0	13.1	11.2	13.2
② 検討中	15.2	5.5	12.2	18.0	16.7	20.8	10.8	3.3	14.9	18.4	14.8	10.1
③ はい	72.0	86.1	71.6	68.4	66.5	66.1	77.5	87.9	77.0	68.4	74.0	76.8
計	100	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0	100.1	100.0	99.9	99.9	100.0	100.1
(2) シラバスに当該授業科目と、学部ないし学科の目標との関係が明示されている	(N) 886	162	74	646	219	297	101	91	88 ***	283	303	226
① いいえ	52.1	54.3	58.1	50.9	18.9	56.2	53.5	37.4	46.6	54.1	53.8	49.1
② 検討中	18.4	11.7	20.3	20.0	19.6	22.2	15.8	8.8	18.2	19.4	19.1	16.4
③ はい	29.5	34.0	21.6	29.1	21.5	21.5	30.7	53.8	35.2	26.5	27.1	34.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	60.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(3) シラバスの内容について、授業担当者以外が検討し、修正を求めることがある	(N) 889	164	71	650	223	299	100	91	86 *	285	303	226
① いいえ	56.8	61.6	66.2	54.9	61.9	57.5	57.0	41.8	54.7	56.5	53.5	59.7
② 検討中	9.6	6.7	5.6	10.6	9.4	10.4	4.0	14.3	8.1	11.9	10.6	5.3
③ はい	33.6	31.7	28.2	34.5	28.7	32.1	39.0	44.0	37.2	31.6	36.0	35.0
計	###	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.1	100.0
(4) 全学ないし学部の目標と、学科の目標との関係を図式化した資料がある	(N) 875	162	73	636	220	293	100	91	84 ***	281	295	225
① いいえ	63.4	71.6	67.1	61.0	71.4	56.3	78.0	65.9	61.9	61.2	66.4	66.7
② 検討中	14.3	10.5	9.6	15.9	15.5	16.4	12.0	5.5	11.9	17.1	14.2	9.8
③ はい	22.3	17.9	23.3	23.1	13.2	27.3	10.0	28.6	26.2	21.7	19.3	23.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1
(5) 学科の目標と、各授業科目との関係を図式化した資料がある	(N) 874	161	72	637	218	293	100	90	85 ***	281	297	222
① いいえ	48.2	52.2	52.8	46.5	56.9	47.1	57.0	27.8	45.9	45.6	49.2	53.6
② 検討中	15.9	11.8	8.3	17.9	15.6	16.0	15.0	15.6	18.8	20.3	14.1	11.3
③ はい	35.9	36.0	38.9	35.6	27.5	36.9	28.0	56.7	35.3	34.2	36.7	35.1
計	###	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0
(6) カリキュラムの編成について、上位組織（学部ならば全学、学科等ならば学部）による確認・承認手続きがある	(N) 887	163	73	647 **	224	297	101	91	86 *	282	304	226 **
① いいえ	21.5	32.5	24.7	18.2	20.5	20.5	35.6	19.8	16.3	19.9	16.4	30.5
② 検討中	3.3	3.7	4.1	3.1	1.8	3.0	3.0	2.2	7.0	2.8	3.0	4.0
③ はい	75.2	63.8	71.2	78.7	77.7	76.4	61.4	78.0	76.7	77.3	80.6	65.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(7) 半期あたり15週の授業期間（定期試験を除く）を確保している	(N) 892	163	73	652 *	224	300	101	91	87	284	304	228
① いいえ	15.7	9.2	15.1	17.3	14.3	17.0	20.8	18.7	12.6	12.7	20.4	14.9
② 検討中	20.1	14.7	19.2	21.6	21.9	24.0	13.9	15.4	14.9	19.0	20.7	19.3
③ はい	64.2	76.1	65.8	61.0	63.8	59.0	65.3	65.9	72.4	68.3	58.9	65.8
計	100.0	100.0	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0
(8) 一週間に複数回開講される授業がある	(N) 887	162	73	648	221	299	102	91	86 **	282	304	226
① いいえ	44.2	50.6	39.7	43.2	45.7	35.1	52.0	56.0	48.8	44.7	43.1	43.8
② 検討中	3.2	2.5	4.1	3.2	2.7	3.7	3.9	3.3	1.2	2.5	4.6	1.8
③ はい	52.6	46.9	56.2	53.5	51.6	61.2	44.1	40.7	50.0	52.8	52.3	54.4
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(9) 年換算で40単位以下の履修登録単位数制限がある	(N) 872	159	70	639	218	295	100	91	81 *	281	299	220 **
① いいえ	70.2	66.0	72.9	71.0	64.7	70.5	77.0	72.5	80.2	75.1	65.2	72.3
② 検討中	5.3	4.4	8.6	5.2	7.8	3.1	8.0	5.5	6.2	3.2	8.4	1.8
③ はい	24.5	29.6	18.6	23.8	27.5	26.4	15.0	22.0	13.6	21.7	26.4	25.9
計	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(10) テーマ・目標を共有し、担当教員間で内容を調整した、学生に集中履修させる科目群を設定している	(N) 882	162	72	644	218	297	100	91	86	282	303	222
① いいえ	34.6	37.7	34.7	33.9	33.5	33.0	49.0	39.6	29.1	34.8	37.6	32.0
② 検討中	8.8	8.0	8.3	9.0	8.7	10.1	8.0	5.5	8.1	9.6	9.6	6.3
③ はい	56.6	54.3	56.9	57.1	57.8	56.9	43.0	54.9	62.8	55.7	52.8	61.7
計	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0

Ⅳ. 貴学科における教育プログラムの実施(各授業での教育方法)について伺います。

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(1) 質疑や発表などによる、学生の能動的な授業参加	(N) 893	164	73	652 *	226	300	102	91	86 ***	284	305	228 *
① ほとんどない	1.3	1.2	1.4	1.4	0.4	0.7	2.9	3.3	1.2	2.1	1.0	0.9
② 特定授業である	63.5	75.6	50.7	62.0	50.0	70.3	79.4	76.9	46.5	65.8	64.6	57.0
③ 半分位の授業である	21.4	14.0	30.1	22.2	29.2	19.3	11.8	14.3	32.6	21.5	22.6	20.2
④ 大部分の授業である	12.3	8.5	15.1	12.9	18.1	9.0	5.9	3.3	17.4	9.9	10.8	19.3
⑤ 全授業である	1.5	0.6	2.7	1.5	2.2	0.7	0.0	2.2	2.3	0.7	1.0	2.6
計	100.0	99.9	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(2) グループで作業やディスカッションをする機会	(N) 893	164	73	652 **	225	300	102	91	87 ***	284	306	227 *
① ほとんどない	2.2	5.5	1.4	1.5	0.4	1.0	10.8	4.4	0.0	3.2	1.6	2.6
② 特定授業である	73.7	80.5	69.9	72.2	66.2	82.7	86.3	85.7	42.5	77.1	75.5	65.6
③ 半分位の授業である	16.7	11.6	13.7	18.4	22.7	12.0	2.9	8.8	34.5	15.5	15.0	21.1
④ 大部分の授業である	6.8	2.4	13.7	7.2	9.3	4.0	0.0	1.1	23.0	3.9	7.5	9.3
⑤ 全授業である	0.6	0.0	1.4	0.6	1.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	1.3
計	100.0	100.0	100.1	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9	99.9
(3) 学生自身が課題を設定し、調査・研究する機会	(N) 892	163	73	652 *	225	300	102	91	86 ***	284	304	228 *
① ほとんどない	6.3	11.7	1.4	5.4	1.8	3.3	18.6	17.6	0.0	7.7	4.6	8.3
② 特定授業である	79.1	79.1	80.8	79.0	74.7	85.0	78.4	76.9	77.9	81.3	82.6	71.5
③ 半分位の授業である	10.0	7.4	11.0	10.6	16.0	9.3	2.0	4.4	11.6	8.5	8.2	14.0
④ 大部分の授業である	4.1	1.8	6.8	4.4	6.7	1.7	1.0	1.1	10.5	2.5	4.6	5.3
⑤ 全授業である	0.4	0.0	0.0	0.6	0.9	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
計	99.9	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(4) 採点された試験・テストの返却	(N) 888	161	72	651 **	223	300	102	91	14 ***	284	304	224 *
① ほとんどない	18.9	14.3	12.5	20.6	11.2	28.0	14.7	19.8	16.5	16.9	19.4	23.2
② 特定授業である	50.1	42.2	48.6	52.5	53.4	60.7	29.4	38.5	43.5	55.3	50.0	42.5
③ 半分位の授業である	17.1	20.5	23.6	15.5	19.7	8.3	31.4	23.1	20.0	16.2	18.1	18.3
④ 大部分の授業である	11.7	19.3	11.1	10.0	13.5	2.3	21.6	14.3	17.6	10.2	9.9	16.5
⑤ 全授業である	2.1	3.7	4.2	1.4	2.2	0.7	2.9	4.4	2.4	1.4	2.6	1.8
計	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(5) 授業時間外学習を促進するための具体的な指示	(N) 887	160	73	650 **	221	298	101	91	87 ***	283	303	225 **
① ほとんどない	9.6	7.5	9.6	10.0	5.9	12.4	11.9	12.1	5.7	11.0	8.9	11.1
② 特定授業である	52.2	41.9	39.7	56.2	53.4	62.4	40.6	36.3	46.0	60.4	51.2	41.8
③ 半分位の授業である	20.1	23.8	21.9	19.1	20.8	14.4	22.8	25.3	27.6	17.3	19.8	22.2
④ 大部分の授業である	15.8	23.8	23.3	13.1	17.6	9.7	23.8	20.9	16.1	9.5	18.2	22.2
⑤ 全授業である	2.4	3.1	5.5	1.7	2.3	1.0	1.0	5.5	4.6	1.8	2.0	2.7
計	100.1	100.1	100.0	100.1	100.0	99.9	100.1	100.1	100.0	100.0	100.1	100.0
(6) 現実社会の問題を取り入れて学ぶ機会 (インターンシップや実地研修などを含む)	(N) 891	162	73	652 ***	223	299	102	91	87 ***	285	305	225 **
① ほとんどない	9.0	16.7	11.0	6.9	11.2	4.7	30.4	5.5	4.6	5.3	9.8	15.1
② 特定授業である	76.9	77.8	69.9	77.3	78.5	79.9	69.6	86.8	64.4	79.6	78.0	71.6
③ 半分位の授業である	9.7	3.7	9.6	11.2	7.2	11.4	0.0	4.4	21.8	12.6	7.9	7.6
④ 大部分の授業である	4.3	1.9	8.2	4.4	2.7	4.0	0.0	3.3	8.0	2.5	4.3	4.9
⑤ 全授業である	0.2	0.0	1.4	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.9
計	###	###	###	###	###	###	###	###	###	###	###	###

V. 貴学科における学習成果の把握・評価について伺います(一部でも当てはまる場合は「はい」とお答え下さい)。

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(1) 成績分布に関する申し合わせがある	(N) 890	162	71	653	225	299	101	90	85	286	304	225 **
① いいえ	63.8	71.6	71.8	60.9	62.2	60.2	63.4	71.1	76.5	68.5	64.8	56.9
② 検討中	13.8	11.7	11.3	14.7	13.3	16.1	12.9	12.2	9.4	13.6	14.8	10.2
③ はい	22.4	16.7	16.9	24.3	24.4	23.7	23.8	16.7	14.1	17.8	20.4	32.9
計	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	100.0	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0
(2) 多面的な成績評価の遵守に関する申し合わせがある	(N) 883	161	72	646 *	222	297	101	90	84	283	301	225
① いいえ	61.4	68.9	63.9	59.1	59.5	66.7	67.3	58.9	53.6	63.3	59.5	60.4
② 検討中	13.1	6.2	12.5	14.9	13.1	12.1	12.9	10.0	15.5	12.7	13.0	12.4
③ はい	25.5	24.8	23.6	26.0	27.5	21.2	19.8	31.1	31.0	24.0	27.6	27.1
計	100.0	99.9	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1	99.9
(3) 成績の採点基準に関する申し合わせがある	(N) 889	164	72	649 *	225	299	100	90	86	283	304	228
① いいえ	46.3	54.3	38.9	45.1	49.8	48.5	53.0	42.2	45.3	49.8	44.1	48.2
② 検討中	12.5	6.7	9.7	14.3	12.0	13.4	12.0	5.6	10.5	11.3	13.5	11.4
③ はい	41.2	39.0	51.4	40.5	38.2	38.1	35.0	52.2	44.2	38.9	42.4	40.4
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(4) 学生による授業評価において、学習成果の獲得状況を確認している	(N) 885	160	71	650 **	223	297	100	90	85 **	284	303	224
① いいえ	21.1	18.8	18.3	22.0	26.5	20.5	29.0	13.3	15.3	23.2	22.4	18.3
② 検討中	8.9	1.9	11.3	10.5	10.3	9.1	4.0	2.2	15.3	10.6	8.9	6.3
③ はい	69.9	79.4	70.4	67.5	63.2	70.4	67.0	84.4	69.4	66.2	68.6	75.4
計	99.9	###	###	###	###	###	###	###	###	###	###	###
(5) 担当者が異なる同一科目では共通の試験問題を利用している	(N) 843	146	66	627 *	216	290	90	82	82 ***	277	288	211
① いいえ	57.7	68.5	59.1	54.9	63.9	59.3	66.7	32.9	53.7	56.7	58.3	58.8
② 検討中	8.1	4.8	13.6	8.3	6.5	10.0	7.8	9.8	4.9	9.7	8.0	6.2
③ はい	34.3	26.7	27.3	36.8	29.6	30.7	25.6	57.3	41.5	33.6	33.7	35.1
計	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.1
(6) 試験問題の妥当性を教員相互でチェックしている	(N) 887	160	72	651	225	297	101	89	85 ***	284	302	226 *
① いいえ	77.1	79.4	77.8	76.5	83.1	83.2	77.2	67.4	57.6	83.1	76.5	73.0
② 検討中	11.5	9.4	8.3	12.4	9.8	11.4	10.9	9.0	16.5	10.9	9.9	13.3
③ はい	11.4	11.3	13.9	11.1	7.1	5.4	11.9	23.6	25.9	6.0	13.6	13.7
計	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(7) 学習成果の記録(学習ポートフォリオ)を学生に作成させている	(N) 885	164	71	646	221	298	100	90	86 ***	285	301	225
① いいえ	68.2	68.9	69.0	68.1	70.1	74.5	83.0	60.0	44.2	74.0	64.5	70.2
② 検討中	18.1	13.4	18.3	19.2	20.4	17.8	10.0	15.6	22.1	16.8	19.6	15.1
③ はい	13.7	17.7	12.7	12.7	9.5	7.7	7.0	24.4	33.7	9.1	15.9	14.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0
(8) 進級・卒業において一定基準以上のGPAを要求している	(N) 880	162	70	644	222	296	100	90	86 **	281	301	223 *
① いいえ	61.8	68.5	64.3	59.9	64.0	63.2	71.0	58.9	47.7	65.1	56.1	68.6
② 検討中	19.0	14.8	14.3	20.7	19.8	22.0	10.0	15.6	17.4	17.1	22.9	13.5
③ はい	19.2	16.7	21.4	19.4	16.2	14.9	19.0	25.6	34.9	17.8	20.9	17.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0
(9) 在学生調査や卒業生調査において、学習成果の獲得状況を確認している	(N) 876	160	70	642 ***	222	294	99	90	84 **	280	301	221 **
① いいえ	45.7	36.3	42.9	48.3	55.9	46.3	45.5	37.8	35.7	56.4	42.9	41.6
② 検討中	15.0	8.1	14.3	16.8	13.5	15.6	10.1	11.1	22.6	11.4	15.9	12.7
③ はい	39.4	55.6	42.9	34.9	30.6	38.1	44.4	51.1	41.7	32.1	41.2	45.7
計	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0
(10) 学内で独自に開発した客観テストを利用している [②ないし③の場合は(11)へ]	(N) 854	153	69	628	214	285	100	87	81 *	276	295	213
① いいえ	89.3	89.5	92.8	89.0	92.1	89.9	96.0	87.4	82.7	86.6	93.2	89.7
② 検討中	2.8	2.6	2.9	2.9	0.5	4.2	1.0	3.4	3.7	2.9	1.7	3.8
③ はい	7.8	7.8	4.3	8.1	7.5	6.0	3.0	9.2	13.6	10.5	5.1	6.6
計	99.9	99.9	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1

VI. 貴学科の取り組み状況に対するお考えを伺います。

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(1) 学科としての教育・学習目標の具体化	(N) 859	155	71	630	218	289	94	88	82	278	293	218 ***
① 難航している	3.7	2.6	4.2	3.8	5.0	4.5	3.2	0.0	2.4	6.8	3.4	0.5
②	16.2	14.8	9.9	17.3	17.4	19.0	16.0	13.6	8.5	25.5	14.3	9.2
③	52.6	52.3	56.3	52.5	48.2	55.0	53.2	47.7	58.5	48.6	52.9	57.8
④ 上手くいっている	27.5	30.3	29.6	26.3	29.4	21.5	27.7	38.6	30.5	19.1	29.4	32.6
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.1	99.9	99.9	100.0	100.0	100.1
(2) 目標に対応した教育プログラムの設計	(N) 864	158	72	632	219	291	95	88	84	278	295	221 ***
① 難航している	3.4	2.5	2.8	3.5	3.7	4.1	3.2	0.0	3.6	5.8	3.7	0.5
②	18.6	16.5	15.3	19.6	20.1	23.0	21.1	12.5	10.7	25.9	17.6	13.1
③	55.6	53.8	61.1	55.4	51.6	55.3	53.7	58.0	64.3	54.3	54.9	57.9
④ 上手くいっている	22.5	27.2	20.8	21.5	24.7	17.5	22.1	29.5	21.4	14.0	23.7	28.5
計	100.1	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9	100.1	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(3) 目標に対応した教育プログラムの実施	(N) 860	156	73	628	216	291	94	88	83 *	277	292	219 ***
① 難航している	3.6	1.9	2.7	4.0	5.6	3.8	3.2	0.0	2.4	6.5	3.8	0.0
②	21.5	17.9	13.7	23.4	20.4	28.2	24.5	14.8	12.0	31.4	19.5	13.7
③	55.3	58.3	64.4	53.7	52.3	51.2	54.3	59.1	67.5	50.2	55.5	61.2
④ 上手くいっている	19.5	21.8	19.2	18.9	21.8	16.8	18.1	26.1	18.1	11.9	21.2	25.1
計	99.9	99.9	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(4) 学習成果の把握・評価	(N) 862	158	72	629 **	215	291	99	89	80 **	276	294	222 ***
① 難航している	5.0	3.2	2.8	5.7	6.0	5.8	5.1	3.4	1.3	8.7	5.1	0.9
②	30.0	17.7	31.9	32.9	28.8	37.8	21.2	23.6	35.0	42.8	27.6	18.9
③	50.5	58.9	56.9	47.7	51.6	43.0	60.6	48.3	57.5	38.8	55.1	60.4
④ 上手くいっている	14.5	20.3	9.3	13.7	13.5	13.4	13.1	24.7	6.3	9.8	12.2	19.8
計	100.0	100.1	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0	100.0
(5) PDCAサイクルの運用	(N) 711	134	56	518 ***	154	255	69	84	71 ***	243	244	169 ***
① 難航している	11.1	6.7	3.6	12.9	18.8	11.0	7.2	7.1	2.8	18.5	9.0	4.1
②	44.3	33.6	39.3	47.9	44.8	50.6	47.8	34.5	47.9	49.0	48.4	32.0
③	37.8	47.8	46.4	34.4	32.5	34.1	39.1	41.7	42.3	28.4	36.5	54.4
④ 上手くいっている	6.8	11.9	10.7	4.8	3.9	4.3	5.8	16.7	7.0	4.1	6.1	9.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 全学的に管理されている各種データ（学籍情報や学生調査の結果等）に基づいた学科の方針決定・運営	(N) 784	135	64	582	194	271	79	82	76	261	276	183 **
① 難航している	9.9	7.4	6.3	11.0	13.9	9.6	7.6	6.1	7.9	13.0	10.1	5.5
②	38.1	34.1	35.9	39.2	33.5	42.8	36.7	34.1	43.4	43.7	40.6	30.6
③	41.3	45.9	42.2	40.2	45.4	36.2	46.8	41.5	36.8	35.6	38.8	50.3
④ 上手くいっている	10.6	12.6	15.6	9.6	7.2	11.4	8.9	18.3	11.8	7.7	10.5	13.7
計	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.1
(7) 改革に対する所属教員の動機付け	(N) 853	151	73	626	220	287	88	90	80 *	276	293	215 **
① 難航している	7.5	6.6	4.1	8.1	10.9	6.3	8.0	6.7	3.8	9.8	8.5	3.7
②	28.1	27.2	27.4	28.3	25.9	34.1	33.0	18.9	23.8	34.4	24.9	24.7
③	49.8	53.6	57.5	48.2	50.0	47.4	48.9	51.1	58.8	44.6	51.5	55.3
④ 上手くいっている	14.5	12.6	11.0	15.3	13.2	12.2	10.2	23.3	13.8	11.2	15.0	16.3
計	99.9	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.1	100.0	100.2	100.0	99.9	100.0
(8) 教員の職能開発 (FD)	(N) 863	157	72	631	215	293	94	90	84	279	297	217 ***
① 難航している	4.2	1.9	5.6	4.6	5.6	3.8	7.4	1.1	4.8	6.1	4.7	1.4
②	25.3	24.2	19.4	26.3	26.0	24.2	34.0	26.7	20.2	34.8	23.2	15.7
③	53.4	52.9	61.1	52.8	54.4	57.0	40.4	51.1	54.8	46.2	55.6	61.3
④ 上手くいっている	17.1	21.0	13.9	16.3	14.0	15.0	18.1	21.1	20.2	12.9	16.5	21.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1
(9) 職員の職能開発 (SD)	(N) 795	139	70	584	191	273	82	84	82	251	282	198 **
① 難航している	7.7	5.0	10.0	8.0	8.4	7.3	8.5	4.8	11.0	11.2	8.2	3.0
②	32.6	35.3	37.1	31.5	27.7	31.9	46.3	33.3	36.6	35.5	35.1	26.3
③	49.4	50.4	47.1	49.3	52.4	51.6	35.4	51.2	43.9	44.2	48.2	60.1
④ 上手くいっている	10.3	9.4	5.7	11.1	11.5	9.2	9.8	10.7	8.5	9.2	8.5	10.6
計	100.0	100.1	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0
(10) 改革のための資金調達（学内・学外問わず）	(N) 805	150	69	583	197	272	88	86	79	256	277	208 ***
① 難航している	21.6	20.0	18.8	22.3	19.8	25.7	26.1	10.5	19.0	27.3	23.8	12.0
②	43.4	38.7	46.4	44.3	43.1	43.8	39.8	45.3	49.4	45.3	43.7	38.9
③	27.7	31.3	27.5	26.8	27.9	25.7	23.9	34.9	26.6	21.5	25.6	39.4
④ 上手くいっている	7.3	10.0	7.2	6.7	9.1	4.8	10.2	9.3	5.1	5.9	6.9	9.6
計	100.0	100.0	99.9	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	99.9
(11) 教育・学習目標の設定における学外識者の参画	(N) 643	114	53	473 **	152	219	64	69	69	216	226	150 ***
① 難航している	26.4	19.3	13.2	29.6	32.9	26.0	25.0	24.6	20.3	34.3	30.5	13.3
②	44.0	43.9	49.1	43.8	42.1	44.3	45.3	40.6	53.6	46.8	42.0	43.3
③	21.3	21.1	28.3	20.5	19.1	22.8	15.6	18.8	18.8	14.4	19.5	32.7
④ 上手くいっている	8.2	15.8	9.4	6.1	5.9	6.8	14.1	15.9	7.2	4.6	8.0	10.7
計	99.9	100.1	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	99.9	99.9	100.1	100.0	100.0
(12) 教育プログラムの実施における学外識者等の参画（例：オムニバス授業の担当等）	(N) 756	129	68	556 *	176	268	68	86	80 **	252	258	182 **
① 難航している	12.3	7.8	1.5	14.6	17.6	8.2	11.8	16.3	11.3	17.9	13.6	4.9
②	26.5	25.6	25.0	26.8	33.0	23.9	29.4	17.4	32.5	27.8	26.0	25.3
③	38.9	46.5	42.6	36.7	35.2	42.5	41.2	40.7	27.5	37.3	38.4	44.5
④ 上手くいっている	22.4	20.2	30.9	21.9	14.2	25.4	17.6	25.6	28.8	17.1	22.1	25.3
計	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.1	100.0
(13) 学習成果の評価・把握における学外識者等の参画（例：研究報告会への参加等）	(N) 686	117	56	510 *	160	235	64	76	74	226	241	163 ***
① 難航している	21.7	14.5	8.9	24.5	27.5	23.0	17.2	23.7	13.5	30.5	23.2	10.4
②	40.1	41.9	46.4	39.2	40.0	40.9	45.3	32.9	44.6	43.4	39.4	37.4
③	30.5	30.8	33.9	30.0	28.1	27.2	32.8	30.3	29.7	22.1	28.6	42.3
④ 上手くいっている	7.7	12.8	10.7	6.3	4.4	8.9	4.7	13.2	12.2	4.0	8.7	9.8
計	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	99.9	99.9

Ⅶ. 近年の改革動向に対するお考えを伺います。

	総計	設置形態			専門分野					学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め
(1) 中央教育審議会答申による改革方針の提示												
(N)	875	160	72	640 **	218	295	101	90	84 ***	282	300	223
① 反対	6.3	10.6	8.3	5.0	5.0	4.7	16.8	3.3	1.2	4.3	4.7	10.3
②	13.4	15.0	25.0	11.7	18.3	14.2	14.9	11.1	8.3	13.1	13.7	12.6
③ どちらとも言えない	60.6	62.5	50.0	61.1	57.3	57.6	59.4	72.2	65.5	59.9	61.3	60.5
④	15.9	10.6	12.5	17.7	15.6	18.0	6.9	12.2	20.2	17.7	17.3	12.6
⑤ 賛成	3.9	1.3	4.2	4.5	3.7	5.4	2.0	1.1	4.8	5.0	3.0	4.0
計	100.1	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0
(2) 教員と学生の所属組織の分離												
(N)	855	158	69	626 **	216	289	98	90	80 **	279	296	215
① 反対	16.8	20.3	18.8	15.8	19.9	15.2	25.5	13.3	6.3	16.5	15.5	20.5
②	18.4	20.3	20.3	17.7	18.1	17.6	21.4	18.9	22.5	15.8	20.3	19.1
③ どちらとも言えない	59.1	47.5	58.0	62.0	59.3	63.0	44.9	60.0	61.3	61.3	59.5	55.3
④	3.6	6.3	2.9	3.0	1.9	2.8	4.1	4.4	10.0	3.2	3.7	2.3
⑤ 賛成	2.1	5.7	0.0	1.4	0.9	1.4	4.1	3.3	0.0	3.2	1.0	2.8
計	100.0	100.1	100.0	99.9	100.1	100.0	100.0	99.9	100.1	100.0	100.0	100.0
(3) 入学後に専攻分野を決める方式 (late specialization)												
(N)	885	162	73	647 *	222	299	102	91	84 ***	286	301	226 **
① 反対	9.0	13.0	9.6	8.0	9.0	6.0	20.6	12.1	9.5	9.4	9.3	9.7
②	13.1	18.5	16.4	11.4	13.1	8.4	17.6	20.9	14.3	9.1	14.0	16.4
③ どちらとも言えない	39.9	35.8	37.0	41.1	40.5	39.1	35.3	39.6	45.2	36.7	43.9	39.4
④	24.0	16.7	20.5	26.1	20.7	32.8	14.7	14.3	19.0	30.1	21.6	17.3
⑤ 賛成	14.0	16.0	16.4	13.3	16.7	13.7	11.8	13.2	11.9	14.7	11.3	17.3
計	100.0	100.0	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9	100.0	100.1	100.1
(4) 教員業績評価における教育業績の重視												
(N)	882	162	73	644	222	298	100	91	85	286	300	224
① 反対	3.3	4.9	8.2	2.3	2.7	3.4	4.0	2.2	4.7	2.4	3.3	4.9
②	8.0	8.0	13.7	7.3	9.5	7.4	10.0	1.1	5.9	7.3	7.3	8.5
③ どちらとも言えない	32.0	34.0	30.1	31.8	36.0	32.2	35.0	33.0	24.7	26.6	31.7	37.9
④	40.8	38.9	38.4	41.6	37.4	39.6	37.0	47.3	50.6	44.4	42.3	37.1
⑤ 賛成	15.9	14.2	9.6	16.9	14.4	17.4	14.0	16.5	14.1	19.2	15.3	11.6
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	99.9	99.9	100.0
(5) 専門分野別コア・カリキュラムの開発												
(N)	881	162	73	643	221	296	100	91	87 **	284	301	226
① 反対	1.2	0.6	2.7	1.1	1.4	1.4	1.0	0.0	1.1	1.4	2.0	0.4
②	3.3	3.1	2.7	3.4	4.1	2.7	7.0	0.0	1.1	2.5	3.0	4.4
③ どちらとも言えない	29.1	29.6	24.7	29.5	38.0	24.0	35.0	23.1	20.7	28.5	31.9	26.5
④	48.6	47.5	50.7	48.8	44.8	53.4	38.0	59.3	48.3	48.6	46.7	51.3
⑤ 賛成	17.8	19.1	19.2	17.1	11.8	18.6	19.0	17.6	28.7	19.0	16.6	17.3
計	100.0	99.9	100.0	99.9	100.1	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0	521.0	99.9
(6) 専門分野別に汎用的能力を測る客観テストの開発												
(N)	879	162	73	642 ***	218	297	101	91	85 **	286	301	224 **
① 反対	6.6	11.1	5.5	5.5	7.8	5.7	10.9	4.4	2.4	4.2	6.6	9.8
②	12.2	18.5	17.8	10.0	12.8	12.1	20.8	8.8	4.7	9.1	11.6	16.5
③ どちらとも言えない	46.4	49.4	45.2	46.0	49.1	46.5	42.6	42.9	45.9	44.8	50.5	45.1
④	27.3	16.7	24.7	30.4	25.2	27.6	21.8	36.3	29.4	32.2	24.3	24.1
⑤ 賛成	7.5	4.3	6.8	8.3	5.0	8.1	4.0	7.7	17.6	9.8	7.0	4.5
計	100.0	100.0	100.0	100.2	99.9	100.0	100.1	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0
(7) 専門分野を超えた共通の様式で汎用的能力を測る客観テストの開発												
(N)	881	162	73	644 ***	220	297	102	91	85	286	301	224 **
① 反対	8.6	14.8	8.2	7.0	10.0	7.1	13.7	5.5	4.7	5.9	9.0	11.2
②	17.7	19.8	30.1	15.8	17.7	19.9	22.5	15.4	10.6	14.3	16.9	21.9
③ どちらとも言えない	49.6	51.9	41.1	50.0	52.3	45.1	45.1	52.7	58.8	48.3	51.5	52.7
④	17.8	11.1	15.1	19.9	16.8	19.2	13.7	20.9	16.5	22.4	16.6	11.6
⑤ 賛成	6.2	2.5	5.5	7.3	3.2	8.8	4.9	5.5	9.4	9.1	6.0	2.7
計	99.9	100.1	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1
(8) 専門分野別の認証評価制度												
(N)	880	161	73	643 *	219	298	101	90	86 ***	287	300	224
① 反対	8.1	12.4	4.1	7.3	6.4	8.1	15.8	8.9	1.2	5.9	8.7	10.3
②	13.0	18.0	17.8	11.2	15.5	11.7	17.8	14.4	5.8	10.5	14.0	14.3
③ どちらとも言えない	46.7	44.1	35.6	48.5	52.1	48.3	46.5	36.7	31.4	52.6	46.0	40.2
④	24.5	21.1	31.5	24.7	21.0	22.5	15.8	33.3	45.3	23.3	23.3	28.1
⑤ 賛成	7.7	4.3	11.0	8.2	5.0	9.4	4.0	6.7	16.3	7.7	8.0	7.1
計	100.0	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(9) 機関別の認証評価制度												
(N)	877	160	73	874 **	217	297	100	90	86 **	287	298	225
① 反対	7.8	8.1	5.5	8.0	7.8	7.1	15.0	10.0	1.2	7.0	8.1	8.0
②	12.8	17.5	21.9	10.5	14.3	12.1	18.0	13.3	7.0	10.5	14.4	13.3
③ どちらとも言えない	49.4	46.9	37.0	51.5	51.6	50.5	49.0	43.3	46.5	52.3	48.0	47.6
④	22.0	25.0	21.9	21.4	20.7	21.9	14.0	25.6	30.2	22.3	21.8	23.1
⑤ 賛成	8.1	2.5	13.7	8.7	5.5	8.4	4.0	7.8	15.1	8.0	7.7	8.0
計	###	###	###	###	99.9	###	###	###	###	###	###	###
(10) 「学士課程教育」という用語からイメージされる事柄として、当てはまるものすべてに○を付けて下さい。												
(N)	905	166	74	659	227	300	103	92	89	289	307	218
a. 普通教育の完成を目的とする	26.0	24.1	21.6	26.9	30.8	25.3	25.2	25.0	14.6	30.8	27.4	21.8
b. 課外活動も含む	18.8	15.1	17.6	20.0	15.4	23.7	8.7	14.1	20.2 **	22.1	18.2	16.6
c. 知識よりも能力を重視する	15.2	9.6	16.2	16.7	13.7	19.0	9.7	14.1	13.5	17.0	13.0	16.2
d. 教養教育（あるいは共通教育）と専門教育が有機的に連携している	73.7	71.7	70.3	75.0	74.4	73.7	68.9	72.8	80.9	74.0	72.6	75.1
e. 教養教育と専門教育の区別がない	6.1	3.0	4.1	7.0	9.7	5.3	3.9	4.3	2.2	7.6	6.5	3.9
f. 専門分野が同じであれば、どの大学であっても教育内容はほぼ同一である	8.1	10.8	4.1	7.9	6.6	8.7	11.7	5.4	7.9	8.7	9.4	6.1
g. 専門分野や大学を問わず、すべての学生に提供すべき教育内容がある	32.5	24.1	28.4	35.4 *	34.4	33.0	25.2	23.9	34.8	33.9	31.6	32.8
h. 専門分野ごとに、全卒業生に要求される最低水準の学習成果がある	58.6	62.7	60.8	57.7	55.9	59.3	62.1	68.5	60.7	55.0	60.3	61.6
i. 専門分野を問わず、全卒業生に共通して要求される最低水準の学習成果がある	37.1	22.9	32.4	41.4 ***	38.8	38.3	19.4	30.4	51.7 ***	40.5	34.2	35.8

Ⅷ. 貴学科の概要について伺います。

(1) 大学・学部・学科の名称を教えてください。

	総計	設置形態			専門分野					学力				
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め		
(2) 貴学の設置形態を教えてください。														
(N)	899				227	299	102	92	89	***	287	307	228	
国立	18.5				5.7	14.0	53.9	33.7	5.6		2.8	19.2	39.0	
公立	8.2				6.2	7.7	7.8	9.8	18.0		0.7	9.1	15.8	
私立	73.3				88.1	78.3	38.2	56.5	76.4		96.5	71.7	45.2	
計	100.0				100.0	100.0	99.9	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	
(3) 貴学の学部等（学生の所属組織）の数を教えてください。														
(N)	853	155	68	851	***	213	287	96	86	87	***	277	290	214
1学部	14.7	3.2	23.5	16.4		16.0	11.8	4.2	14.0	33.3		21.7	14.1	7.5
2学部	12.0	1.9	14.7	14.2		13.1	13.2	2.1	5.8	18.4		19.5	8.6	5.6
3学部	13.6	8.4	10.3	15.3		16.9	11.5	10.4	16.3	13.8		20.6	12.1	7.0
4学部	10.2	9.0	10.3	10.5		11.3	11.8	4.2	11.6	9.2		10.8	8.3	12.6
5学部	12.5	18.1	10.3	11.5		12.2	14.3	10.4	16.3	5.7		12.3	15.2	7.0
6~7学部	12.5	18.7	22.1	10.0		11.7	14.6	17.7	10.5	5.7		6.9	17.9	13.1
8~9学部	10.4	19.4	8.8	8.3		8.9	9.8	22.9	8.1	9.2		4.3	11.4	15.4
10学部以上	14.1	21.3	0.0	13.9		9.9	12.9	28.1	17.4	4.6		4.0	12.4	31.8
計	100.0	100.0	100.0	100.1		100.0	99.9	100.0	100.0	99.9		100.1	100.0	100.0
(4) 貴学部の学科数を教えてください。														
(N)	868	157	71	638	***	219	290	100	89	84	***	281	294	222
1学科	17.6	8.3	19.7	19.7		10.5	30.3	0.0	5.6	23.8		21.7	15.0	14.4
2学科	24	16.6	29.6	25.1		22.8	35.5	10.0	4.5	22.6		28.8	23.8	18.9
3学科	17.2	13.4	15.5	18.3		23.3	16.2	10.0	7.9	22.6		16.3	19.4	12.6
4学科	12.8	10.2	12.7	13.5		16.9	6.2	19.0	14.6	14.3		13.5	10.9	14.9
5学科	10.3	22.3	9.9	7.2		10.5	3.1	27.0	21.3	4.8		7.5	9.5	14.9
6~7学科	7.4	17.8	4.2	5.2		5.9	2.4	19.0	19.1	1.2		3.2	8.2	12.6
8~9学科	4.1	5.7	0.0	4.2		4.1	2.1	3.0	13.5	4.8		3.2	6.5	2.3
10学科以上	6.7	5.7	8.5	6.7		5.9	4.1	12.0	13.5	6.0		5.7	6.8	9.5
計	100.1	100.0	100.1	99.9		99.9	99.9	100.0	100.0	100.1		99.9	100.1	100.1
(5) 貴学部の平成21年度における第1学年の入学者数を教えてください。														
(N)	880	163	73	642	***	220	295	100	90	86	***	281	299	225
① ~100人	9.9	3.7	24.7	9.7		11.8	7.1	3.0	6.7	24.4		16.0	6.4	5.8
② 101~200人	21.4	25.8	28.8	19.3		20.0	18.0	24.0	12.2	34.9		24.9	19.7	21.8
③ 201~300人	22.2	36.2	23.3	18.5		19.1	21.4	43.0	17.8	15.1		24.6	19.4	23.1
④ 301~400人	11.6	9.8	9.6	12.3		12.3	14.6	7.0	6.7	11.6		9.6	14.7	9.3
⑤ 401~500人	12.0	10.4	5.5	13.2		14.1	13.2	4.0	20.0	4.7		8.5	14.7	9.3
⑥ 501~1000人	16.0	11.0	8.2	18.2		18.2	19.0	8.0	22.2	9.3		11.0	16.4	24.0
⑦ 1001人~	6.9	3.1	0.0	8.7		4.5	6.8	11.0	14.4	0.0		5.3	8.7	6.7
計	100.0	100.0	100.1	99.9		100.0	100.1	100.0	100.0	100.0		99.9	100.0	100.0
(6) 平成21年度現在、貴学科に所属する学生数を教えてください。														
(N)	880	158	72	648	***	226	294	99	88	87	***	286	299	222
① ~10人	0	0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
② 11~20人	0.3	0.6	0.0	0.3		0.0	0.7	1.0	0.0	0.0		0.3	0.3	0.5
③ 21~30人	1.5	4.4	1.4	0.8		0.9	0.3	6.1	1.1	0.0		1.7	1.0	2.3
④ 31~40人	1.1	3.2	1.4	0.6		0.0	0.3	6.1	0.0	1.1		1.4	1.3	0.9
⑤ 41~50人	2.6	6.3	2.8	1.7		1.3	1.4	7.1	2.3	0.0		1.7	2.7	4.1
⑥ 51~100人	9.7	11.4	15.3	8.5		8.8	6.5	14.1	13.6	13.8		10.1	8.4	12.2
⑦ 101~200人	23.1	27.2	33.3	20.8		20.8	23.1	22.2	20.5	28.7		22.4	22.1	23.4
⑧ 201人~	61.7	46.8	45.8	67.3		68.1	67.7	43.4	62.5	56.3		62.2	64.2	56.8
計	###	99.9	###	###		99.9	###	###	###	99.9		99.8	###	###
(7) 貴学科の専門領域は、次の内どれに最も近いですか。														
(N)	880	162	72	644	***							283	301	223
① 人文科学系	25.8	8.0	19.4	31.1								27.2	26.6	24.2
② 社会科学系	34.1	25.9	31.9	36.3								37.5	35.2	26.9
③ 教育学系(体育を含む)	1.9	1.9	0.0	2.2								3.9	1.0	1.3
④ 理学系	11.7	34.0	11.1	6.1								5.3	11.6	19.7
⑤ 工学系	10.5	19.1	12.5	8.1								12.4	9.6	9.9
⑥ 農学系	1.5	4.9	0.0	0.8								0.7	2.0	2.2
⑦ 医歯薬学系	0.9	1.2	1.4	0.8								0.4	0.3	2.2
⑧ 保健・福祉系	10.1	3.1	22.2	10.6								8.5	12.0	9.0
⑨ 芸術系	0.6	0.6	1.4	0.5								0.7	0.3	0.4
⑩ 家政系	0.1	0.0	0.0	0.2								0.0	9.0	0.0
⑪ その他	2.8	1.2	0.0	3.6								3.5	1.3	4.0
計	100.0	99.9	99.9	100.3								100.1	108.9	99.8
(8) 認証評価の受審状況を教えてください。														
(N)	830	148	65	615	***	208	286	91	83	82	***	275	287	200
① 昨年(2008年)度までに受審	54.2	52.0	36.9	56.6		54.8	56.6	57.1	45.8	51.2		50.5	57.8	55.0
② 本年(2009年)度受審中	19.9	22.3	30.8	18.2		22.6	19.9	23.1	15.7	14.6		18.9	17.1	24.5
③ 来年(2010年)度に受審予定	15.9	8.8	24.6	16.7		16.3	16.4	7.7	9.6	29.3		21.8	15.3	7.0
④ 未定	10.0	16.9	7.7	8.5		6.3	7.0	12.1	28.9	4.9		8.7	9.8	13.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0		100.0	99.9	100.0	100.0	100.0		99.9	100.0	100.0
(9) 各種GPの申請・採択状況を教えてください（貴学科が関わっていれば申請の単位は問いません）。														
(N)	827	149	69	607	**	210	282	92	85	82		268	285	210
① 申請したことがない	34.0	28.2	20.3	37.1		40.5	30.9	34.8	35.3	30.5		36.2	37.9	28.1
② 申請はしているが採択はない	26.5	24.2	40.6	25.4		29.0	28.7	25.0	22.4	26.8		28.0	24.2	25.2
③ 1件採択された	21.9	22.8	21.7	21.7		15.2	26.2	20.7	21.2	19.5		23.5	20.0	22.4
④ 2件以上採択された	17.7	24.8	17.4	15.8		15.2	14.2	19.6	21.2	23.2		12.3	17.9	24.3
計	100.1	100.0	100.0	100.0		99.9	100.0	100.1	100.1	100.0		100.0	100.0	100.0
(10) 貴学科の学生の学力は平均して、全国レベルで見てどのあたりに位置するとお考えですか。														
(N)	825	156	66	600	***	211	272	94	86	80	***	289	307	229
① 低い	7.5	0.0	1.5	10.0		8.5	10.3	0.0	5.8	7.5		21.5	0.0	0.0
②	27.5	5.1	1.5	36.2		28.0	28.7	16.0	34.9	22.5		78.5	0.0	0.0
③ 平均	37.2	37.8	42.4	36.7		37.9	39.0	37.2	33.7	45.0		0.0	100.0	0.0
④	21.3	35.9	50.0	14.5		23.2	15.4	31.9	17.4	22.5		0.0	0.0	76.9
⑤ 高い	6.4	21.2	4.5	2.7		2.4	6.6	14.9	8.1	2.5		0.0	0.0	23.1
計	99.9	100.0	99.9	100.1		100.0	100.0	100.0	99.9	100.0		100.0	100.0	100.0

参考:

	総計	設置形態			専門分野					学力				
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	低め	平均	高め		
学科定員														
(N)	745	140	56	547	***	196	249	89	72	64	***	229	265	189
① 75人以下(4年で300人)	32.2	61.4	46.4	23.0		34.2	11.2	71.9	38.9	29.7		28.8	29.1	42.9
② 125人以下(4年で500人)	35.3	22.1	37.5	38.6		43.4	24.9	25.8	47.2	56.2		34.1	40.8	28.0
③ 126人以上	32.5	16.4	16.1	38.4		22.4	63.9	2.2	13.9	14.1		37.1	30.2	29.1
計	100.0	99.9	100.0	100.0		100.0	100.0	99.9	100.0	100.0		100.0	100.1	100.0